

19

言嗣拜山翁題辭 法學士澤田京洲君序文
望野生君題辭 橫井應龍小史君序文
田代諫江著

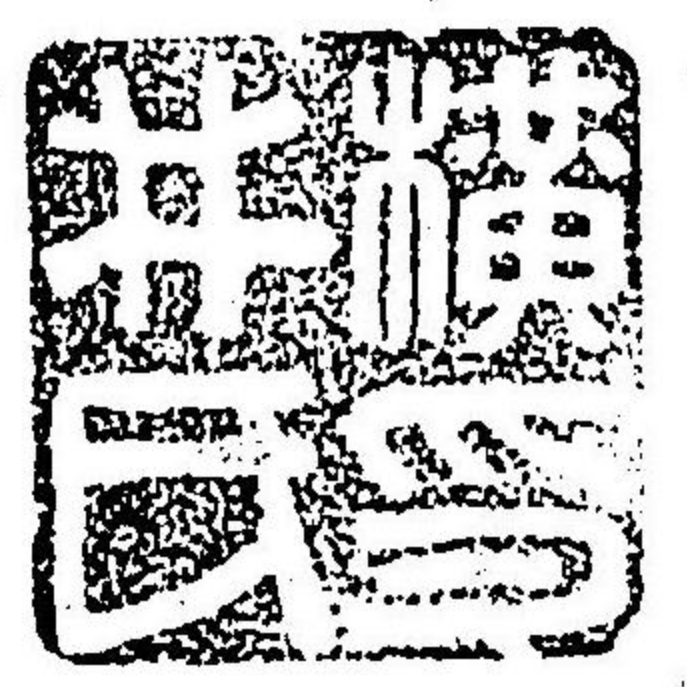
佐世保管具

發行所 行清堂



蒼君梅月

海望如生



序文

一邑の隆盛一市の繁榮を卜するは其地に住
する商工業者の如何と知るに存す佐世保市
は新開の都市にして近邇長足の進歩を爲せ
るの地たり知人田代諫江君頃日一書を編し
て「佐世保管見」と題す希くは佐世保市在住の
商工業者其他諸種の人物性行を悉くし公平
の見地と着實の筆蹟とに依つて佐世保市を
揮寫し以つて市の現在と觀將來と測るの針

盤たらんとと期せよ

癸卯七月

法學士 澤田京洲識

序文

題曰佐世保管見是爲諫江田代子之著
洒々落落之筆能揮寫佐世保港之山川
人情而細大不遺特敘實業諸子百家之
小傳處用意可謂深矣凡編中所取噴雲
吐煙之文與鏡花水月之語詭態百出變
幻超忽有妙趣可喜者世之欲知佐世保
新天地文物之盛者一繙此書其情況灼
焉如指諸掌誰管見云爾哉著者名行太

田代氏肥前諫早人諫江其號也

明治癸卯夏日

應龍小史識

自序

借々佐世保の過去を顧ふに明治十八年前後迄は寒村僻地にして而かも其多くは漁舍蚕屋僅か五百に満たざりし孤村か鎮守府開設以來一瀉千里の勢を以て其急進的膨脹は實に人目を驚かすものあり既往十數年間に於て早くも戸數八千餘、人口五萬餘に達し今や村制より一躍して市制を施行せられ運輸交通の機關亦將さに具備せられんこと商工の業亦漸次旺んなりと雖も新天地の常として概して濡手に粟の妄想を抱き着實に事業を經營するもの少く所謂朝來、暮去永住の觀念に乏しきもの多く従つて實業上の思想亦冷淡にして進んで實業の發展を圖らす拱手安座獨り鎮守府に倚賴して利を得んとするもの、如し實業の振起發達せざるもの豈故なしとせんや編者茲に慨する所あり既往に鑑かみ將來を察し

佐世保管見てふ小冊子を著はし中正公道の見地に立ち解剖的觀察によりて佐世保實業の狀況を描寫し併せて佐世保市在住の商家及各専門家の性行と事歴とを記し市民相互の關聯を疏通し益々實業の發進を企圖し各人の交誼を親密ならしめんとを期す

一たび本書を繙く時は佐世保に於ける商工家及各専門家の經歷、性行、商店の位置、商況等一目の下は詳かにするを以て市在住の諸子は素より新來の人士に裨益する所あるを庶幾乎

明治三十六年癸卯初夏

諫 江 識

概 要 目 次

- 凡 例
 - 緊急廣告
 - 新刊廣告
 - 佐世保沿革の一斑
 - 市有財産
 - 佐世保雜觀
 - 官衙公署及神社佛閣
 - 宗教と風俗
 - 社格宗派教會の一斑
 - 私立學校
 - 礦業家
-
- 質商及雜貨商
 - 金物商
 - 洋酒店
 - 用達商及旅館
 - 土木建築請負人
 - 藥業家
 - 石鹼製造業
 - 廻漕業及呉服商
 - 佐世保開業醫及獸醫
 - 洋服店
 - 齒科醫及産婆
 - 寫眞師
 - 保險會社出張所

- 裁縫師
- 自轉車
- パン製造
- 綿商及陶器商
- 履物商及ラム子製造
- 理髮道具店
- 煙草商及料理屋
- 觀世音流曲俱樂部
- 古物商及時計商
- 表具師及獸肉販賣
- 小間物商及靴製造
- 水飴製造
- 印判業及材木商

- 染物商及氷販賣
- 酒類販賣
- 指物業
- 代書人
- 飲食店
- 理髮業
- 清潮館
- 佐世保軍港規則
- 宿屋取締規則
- 料理屋飲食店取締規則

凡例

一本書ハ元佐世保實業鏡ト題セシモ商工業家及各専門家ノ經歷ヲ網羅セン

トスルニ當リ名ヲ實相反ノ嫌ナキニアラズ編者深ク省ミル所アリテ後々佐世

保管見ト改題セリ

一本書ハ編者ガ满腔ノ感慨ニヨリテ猛然トシテ起テ心血ヲ灑イテ短暫ノ間ニ編著
 セントシ記事ノ順序サヘ匡スノ暇ナカリシヲ以テ編中錯誤キキヲ保セス而ルニ
 學淺ク徳乏シキ編者ニ對シ先輩諸氏ガ熱情を寄セラレ多大ノ助力ヲ與ヘラレタ
 ルハ偏ヘニ感謝スル所ナリ憾ムラクハ予ニ董孤ノ筆ヲク記事ノ漏洩セルモノ亦
 少シトセス加フルニ名望赫々聲譽隆々タルノ人ニシテ事歴ノ簡略ナルモノアリ
 是決シテ編者ノ故意ニ出テタルニアラズ本人不在ニテ事歴ノ急ニ纏マラザルト
 且ツハ記事輻輳ノ爲メニ後編ニ譲リタルニ因ル
 一本書ハ可成の記事ノ正確ヲ保ツタメ親シク本人若クニ其知人等ニ問ヒ且ツ編者
 獨得ノ探訪術ニヨリテ稿ヲ起シタルモ時期切迫シテ未定稿ノ儘印刷ニ附シタル

モノナレハ脱漏其他ノ誤謬アルヲ免レヌ特クニ記事ノ輯轍ト探訪未遂トニヨリ
ヲ遺憾ナガラ銀行、會社、商礦業家、用達商ノ大部分、遊廓ノ裏面其他極要ノ記事
ハ悉ク後編ニ詳述スルコトセリ編者ハ後編ヲ出スニ當リテハ層一層ノ材料ヲ蒐
集シ本書既載ノモノト雖モ粗漏簡短ニ失シタルモノハ再録レ尙更フニ研究ヲ重
キ以テ全璧ヲ期スベシ

一本書編纂材料蒐集ノ爲メ直接其人若クハ家人ニ親シク事歴ヲ聞カントスルヤ編
者ノ性行ヲ知ラサルモノハ例ノ卑劣手段ニヨリ寄附強制的廣告募集詐欺的行爲
ヲナスモノ、如ク妄斷シ不快ノ念ヲ惹起セシモノナキヤヲ疑ハシメタリ篇者ハ
最初怪訝ノ感ニ打ダレ更ラニ其意ヲ了スル能ハザリシガ精探ノ結果大ニ其因ノ
潜在スルヲ發見セリ开ハ他ニ非ラス數年前ヨリ本年初メニ當リ當市ニ飛ヒ込來
リタル二三ノ曲者アリ著述ヲ餌トシ若クハ寄附ニ託シテ巨額ノ金員ヲ騙取セシ
事跡アリレヨリ編者ハ多分此等不正ノモノト玉石混淆サレシモノナラン一タビ
篇者ガ公明ナル篇纂方法ヲ知得セラル、人ハ心釋然タラザル者ナク從テ豫約廣
告申込等踵ヲ接シテ蝟集シ廣告ノ如キハ既ニ申込ノ分ト雖モ後篇ニ讓リタルモ
ノ亦少ナカラヌ斯ノ如ク意外ノ贊同ヲ辱フシタルハ篇者ガ大ニ欣然ニ堪ヘサル
所ナリ

一本書篇纂ノ主旨ハ前叙ノ如ク商工業家及各專門家ノ性行經歷等ヲ詳掲スルノ目
的ナレバ此等ヲ記載シタルバトテ規定廣告料ノ外鏹錢一文ダモ要セサルモノナ
リ然ルニ本書ヲ篇纂セントスルヤ予ノ事業ヲ羨望シ例ノ卑劣手段ニヨリ新聞其
他奸策ヲ講シテ中傷妨害ヲナス曲者アラン事ヲ豫期シ最モ慎重ナル態度ヲ執リ
偏セス黨セス公平ノ見地ニ立テ執筆セシカバ如何ニ強慾ナル鼠輩モ中傷ヲ容ル
、ノ餘地ヲカリシト見ヘ只僅カニ「田代ノ著述ハ到底出來ル見込ナシ……似眞
ヌ者サキニアラチバ……」杯ト犬ノ遠吠的寢言ヲ吐キ中傷ヲナサントセシニ過ギ
ザリキ篇者敢テ此等強慾變節陰險者流ヲ相手ニスルノ大人氣ナキヲ以テ眼中ニ
置カザルモ陋劣ナル彼等ノ心情寧ロ憫ムベキモノアルヲ知ルニ堪ヘタリ……
一篇者ハ本書ニ引繼キ後篇ノ著述ニ着手中ナレバ市民諸子ハ本書篇纂ノ主旨ヲ玩

一味セサレ可及的材料蒐集ノ上ニ便宜ヲ與ベラシシ事ヲ切望ス尙後篇ノ著述ニ關シ若シモ篇者ノ名義ヲ濫用シ其他奇怪ナル風説ヲ聞カレナバ直接篇者ニ就キ事實ノ有無ヲ確カメラルベシ諸子ヨ佐世保ニ蟠屈スル陰險者流ノ中傷毒言ニ迷フ勿レ又似而非著者ノ詐欺術中ニ陷ル事ナカランコトヲ豫メ注意シ置クナリ

緊急廣告

◎寫真版……篇者ガ義侠的微哀ニヨリ佐世保商工業者及專門家中最モ熱心ニシテ最モ公義心ニ富メル名士ノ寫真ヲ掲載セント過般福岡市橋口町三茗寫真館ニ注文ノ處本書製本期ニ間ニ合ハズ遺憾ナガラ後篇ニ載スルコト、セリ

◎佐世保管見……編者ハ佐世保實業ノ進運ト商工業者及專門家ノ狀態變遷ノ眞況ヲ報道センガ爲メ爾後毎年必ス一回佐世保管見ヲフ小冊子ヲ著ハス

發刊豫告

田代諫江著

一 佐世保管見

後編 附錄

早岐管見

定價參拾錢

發刊ノ主旨……佐世保ニ於ケル商工業家及各專門家ノ經歷性行商店ノ位置其他ノ眞況ヲ披瀝シテ忌憚ナク實業家ノ缺陷セル裏面ニ一針ヲ加ヘ一面ニハ彼ノ惡ムベキ奸商輩ノ跋扈ヲ抑壓シテ猛省一番興奮激勵セシメ一面ニハ廣ク廣告ヲ募集シテ相互ノ利益關聯ヲ疏通シテ實業ノ發達ト繁榮ヲ促カシ各人ノ交誼ヲ親密ナラシメシコトナ期スルニアルハ本書ノ前篇ニ詳カナルヲ以テ今茲ニ喋々スルノ要ナキナリ而カルニ早岐有志ノ懇望贊同ニヨリテ附録トシテ早岐管見ヲ合編スルコト、セリ左ニ後編發刊ノ梗概ヲ摘記シテ偏ヘニ大方諸賢ノ贊同ヲ希ガフ

一 製本体裁

前篇ニ漏洩セシ商工業家各專門家ノ寫真ヲ掲載ス
普通用紙全文四號活字卅六字詰十五行ヲ一ページト定ム
總ページニ二百ページ内外

一 豫約定價申込 一 場所及製本期

豫約金壹册二十四錢製本ノ上現金引換申込場所元市役所通
七種醫師ノ下行清堂田代行太方
製本期九月三十日

一 廣告料

普通一ページ金參円全半ページ金貳円
全四分ノ一ページ金壹円
特別ハ普通ノ二倍本書ノ卷頭ニ掲載ス



佐世保 世保 天保 滿天 町
 千八百八十八番 二戶 號
 支局 主事 田代 行太

佐世保市濱田町四十三番地

和洋雜貨商

本店

全市全町一番地

メリヤス工業部

支店

海軍艦團隊

佐世保市濱田町四十三番地

要塞聯隊

御用商店主市丸政助

福岡二十四聯隊

大村四十六聯隊



佐世保天滿町
 千八百八十八番戶二號
 支局主事田代行太

佐世保市濱田町四十三番地

和洋雜貨商

本店

全市全町一番地

メリヤス工業部

支店

海軍艦隊

佐世保市濱田町四十三番地

要塞聯隊

御用商店主市丸政助

福岡二十四聯隊

大村四十六聯隊

辯護士
法學士

佐世保市明堂寺町

(いろは屋前ノ橋
ヲ渡リ砲臺道ノ上ル)

値賀連

佐世保名切 正則英語研究會

最も正則に實地應用の教鞭を執
る佐世保唯一の機關初等、中等、
高等の三科に分つ

(教授時間は晝夜に區別す)

佐世保市名切免八百九十二番戸

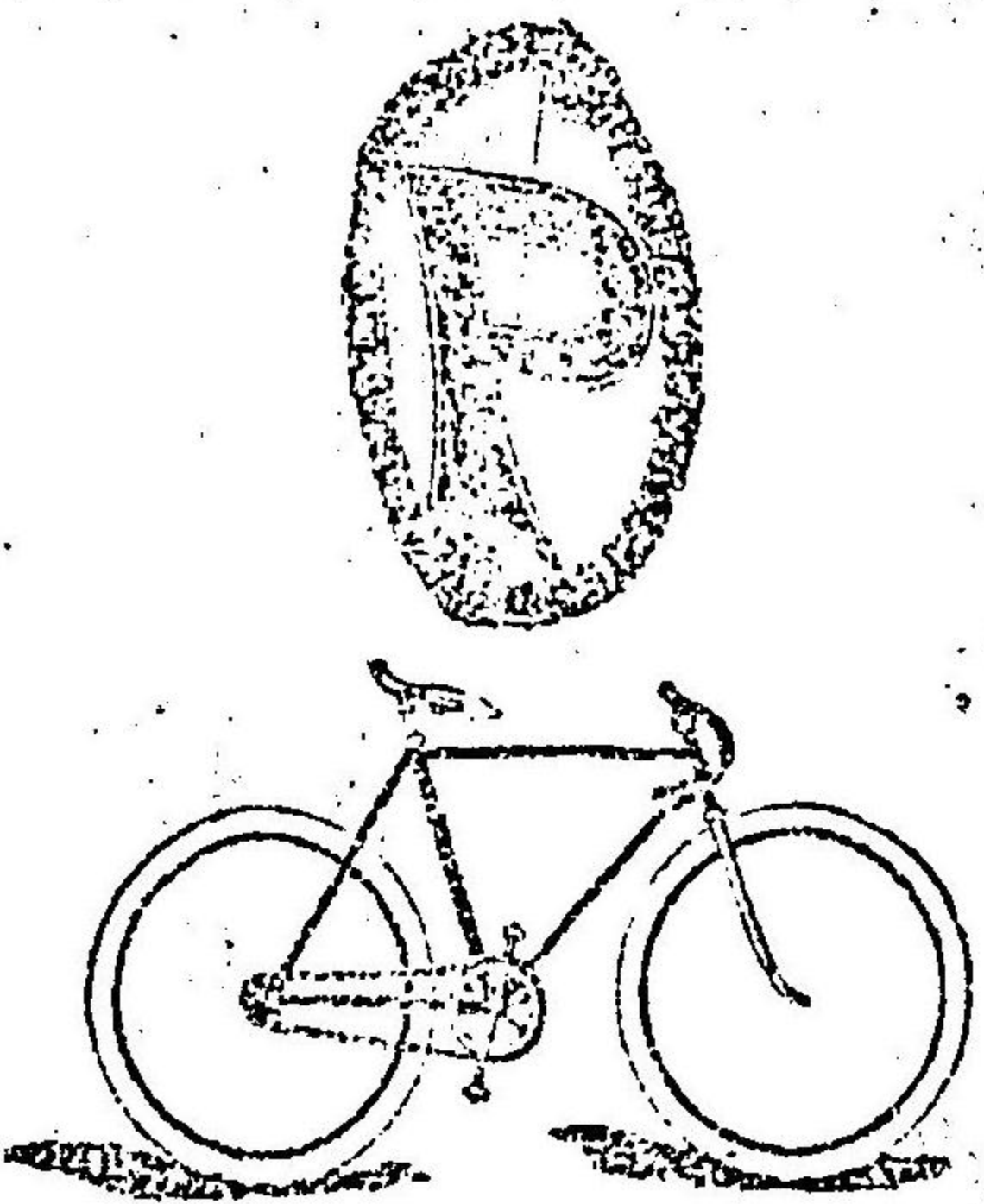
會主 遠武劍洲

海陸軍
御用達

福竹商會

佐世保市松浦町福竹銀行
支配人

主任 雪山文四郎



米國製最新式 自轉車直輸入大販賣廣告

◎ヒヤス アイバンホー
◎ハームス 其他各種並に附屬品一式修繕

今般愛輪安各位の御便宜を計り當地に支店設置致し候
間何とぞ本居同様の御愛顧奉希望候 敬白

長崎市大 本店 盛輪商會

佐世保市 支店 山田商會自轉車部

日 出 寫 真 館

は佐世保谷郷の上な
る九品寺前に在り



特別廣告

◎ 干城

◎ 矢満せ

紙 卷 煙 草

東京鎮西商會

佐世保製造部

佐世保市常盤町千二百三十七番戸第一ノ第二

土木

建築

請取請負業

佐世保市名町

須古高司

海軍御用達

石炭業

運搬業

弊商會は業務を擴張して外國品機械

金物材料等の納品委託供給をなし尙

小蒸氣船を以て曳船の依頼に應ず

佐世保市濱田町

長 醫 商 會

製劑稟告

活眼水

濟

熱

葛根湯



營業品
 內外藥品 綳帶材料
 有名賣藥 萬うし
 其他本業附屬品各種

小御賣共 ○ 精撰販賣
 佐世保市相生町みよき橋詰
 敦島藥館 馬渡庄三
 商號主 館

佐世保管見 前編

諫江 田代行 太著

佐世保沿革の一斑

過去を鑑みて現在を察し而して將來を計るは經世の要道なり佐世保市が今日に至れる幾多の變遷を重ねたるや論なし今本書を編纂せんとするに當り聊か佐世保沿革の一斑を叙述するは強ち無用の業にあらざるを信す

由來佐世保は舊平戸藩に屬し明治十二年郡區制定の當時東彼管郡に編入せられ全郡の西北端に位す東は日守村に接し北は佐世村と連なり西は北松浦郡山日村に界し南は港灣に向ふ面積及廣袤は三百七十九萬六千八百六十二坪三合四勺戸數僅かに八百餘戸四十餘戸の商家ありて漸く村内及近村の需用を供給せりと雖も多くは農を業とし若くは漁業をなすに過ぎず物産は米穀の外僅かに石炭の輸出あるのみにして郡内の孤村なりしが港灣地勢の要害は自然的此地の幸福となりて明治十九年

製劑稟告



諸君の
熱湯

葛根湯



營業品
● 內外藥品 ● 綑帶材料
● 有名賣藥 ● 萬うし
其他本業附屬品各種

敷島藥館
馬渡庄
小卸賣 共
佐世保市相生町
敷島藥館
白敬

佐世保管見 前編

佐世保沿革の一斑

諫江田代 行太 著

過去を鑑みて現在を察し而して將來を計るは經世の要道なり佐世保市が今日に至るに至るの變遷を重ねるや論なし今本書を編纂せんとするに當り聊か佐世保沿革の一斑を叙述するは強ち無用の業にあらざるを信す

山來佐世保は舊平戸藩に屬し明治十二年郡區制定の當時東彼村郡に編入せられ全郡の西北端に位す東は日宇村に接し北は佐世村と連なり西は北松浦郡山口村に界し南は港灣に向ふ面積及廣袤は三百七十九萬六千八百六十二坪三合四勺戸數僅かに八百餘戸に過ぎず漁業をなすに過ぎず物産は米穀の外僅かに石炭の輸出あるのみ農を業とし若くは漁業をなすに過ぎず物産は米穀の外僅かに石炭の輸出あるのみ時に郡内の孤村なりしが港灣地勢の要害は自然的此地の幸福となり明治十九年

勅令第三十九號を以て第三海軍區鎮守府を設定し萬般の工事に着手せらるゝに及び各地より商工業者及労働者踵を接して集まり人口頓に増殖し商戸櫛比百貨交々集散して漸次繁榮を極め漁家蟹屋は變じて官人商賈の居となり全く舊時の面目を一新するに至り稍や一小市街の形をなしたり全二十四年四月鎮守府の開廳と共に益々世人の注目する所となり全年末には戸數千五百六十一人口九千八百五十、に達し二十五年には戸數二千二百八十、人口壹萬八百二十五、となり加之全二十七年七月征清の役起るや佐世保の雜踏は殆んど言語に絶し各商店の面目一變せり翌二十八年に至り征清事件其終局を告ぐるや續いて海軍の擴張せらるゝと共に其需用品も亦益々多きを加へ交通機關の最大要具たる鐵道も全三十一年に至り全通し全三十二年には要塞砲兵聯隊の設置等ありて家屋は一箇年平均八百乃至壹千餘戸の建築あるも未だ以て其需用を充たす能はざるの趨勢にして既往十數年間に於ける所得税及營業税等の増加は十數倍に上ほる昨三十五年四月に至り村制より一躍市制を布き村落の一部を割き佐世村を分村せり全年末戸口の調査は戸數八千三百八十六、人口五萬八百六十八、を示し尙駭々として進み其底止する所を知らず戸口に伴ふ教育、衛生、交通、等萬般の施設に對しては市民諸君が日夜孜々怠らざる雖も新開の地特設の事業多くして未だ其緒に就かざるものあるは寔に已むを得ざるものあり要するに佐世保の膨脹は第一鎮守府の設置其因となり征清の役、海軍の擴張、鐵道の全通、要塞砲兵聯隊の設置等に負ふ所多大なりと云はざるべからず

如上の沿革を以つて急進したる佐世保市現在の光景は全く舊時の面目を改め近縣無比の大都會となりしは必竟するに地勢の要害と國運の進歩に促かされて市住民が曾て夢想だも豫期せざりし意外の幸福を享受したる結果なりと雖も未だ遽かに之れを以て足れりとなすべからず益々進んで市の經營を企て實業の發展を計り吾帝國西海の重鎮たる軍港の面目を保ち併せて佐世保の繁榮を圖り永く市民の福祉を増進せんとを期せざるべからず編者今茲に佐世保の沿革を叙する所以のもの過去進歩の程度に鑑かみ而して現在を經營し尙進んで將來の施設に資する所あらん

とするの徴表に外ならざるなり

市有財産

明治三十六年七月一日現在

所屬	所有地	建物坪數	土地坪數	備考
佐世保市役所	佐世保市高砂町	九十五坪	四百二十一坪	○
佐世保高等小學校	佐世保市八反間免	二百三十三坪七合五勺	千七百二十三坪	○
佐世保高等女兒小學校	佐世保市八反間免	四百三十八坪	六百坪	○
佐世保尋常小學校	佐世保市八反間免	四百六十八坪	千二百五十五坪	○
赤崎尋常小學校	佐世保市赤崎免	三十五坪三合三勺	二百四十坪	○
庵ノ浦尋常小學校	佐世保市庵ノ浦免	四十七坪五合	百六十五坪	○
佐世保傳染病院	佐世保市宇白波江	百五十一坪七合五勺	○	○
消防器械置場	佐世保警察署内	四坪	○	○
全	佐世保市松浦町海岸	四坪	○	○
全	佐世保市京町	三坪	○	○
全	佐世保市小佐世保	三坪	○	○
全	佐世保市八反間免	三坪	○	○

全	佐世保市宮田町	壹坪五合	○	○
市街宅地	佐世保市全部	○	四百十三坪六合二勺	○
田	佐世保市中通免	○	十四坪	○
畑	全上	○	十二坪	○
山林	佐世保市全部	○	二千五百十八坪	○
原野	佐世保市小佐世保免	○	五百六十五坪	○
一	軍事公債證書額面五十圓			
一	郵便貯金百四十三圓八十三錢一厘			
一	銀行貯蓄貳百七圓二十七錢一厘			

外 器具器械其他諸物品總數壹萬六千八百九十三個

佐世保雜觀

- 一 境界 東 ▲東彼杵郡日宇村 南 ▲西彼杵郡瀬川村
- 北 ▲東彼杵郡佐世保村 西 ▲北松浦郡山口村
- 二 面積及廣袤 ▲參百七拾九万六千八百六拾貳坪參合四勺
- 三 市役所位置 ▲佐世保市八幡町

- 五 寒暖 ▲最高度 九拾參度 ▲最低 參拾度
- 六 山岳 ▲烏帽子岳 ▲赤崎岳 ▲將冠岳 ▲但馬岳
- 七 河川 ▲光月川 ▲佐世保川 ▲戸ノ尾川
- 八 戸數 ▲三十五年度末調査 ▲八千參百八拾六戸八人口
- 九 官衙公署 ▲官十 ▲公三 ▲銀行支店 四箇所 ▲銀行及會社 二箇所内一箇所支店
- 一〇 銀行及會社 ▲會社 二箇所内一箇所支店
- 一一 學校 ▲尋常小學 二 ▲分教場一 ▲正教員 三十四人 ▲准教員 三十四人
- 一二 教員 ▲男 二、一、二、五 ▲就學男 二、一、一、〇 ▲女 一、五、六、八 ▲不就學男 二、九、五 ▲女 一、五、四、七
- 一三 學齡人員 ▲男 一、五、六、八 ▲私塾 二
- 一四 私立學校 ▲教會所 一一 ▲村社 一 ▲無格社 一
- 一五 神社 ▲宗派別三 ▲寺院三 ▲宗洞宗真宗淨土宗
- 一六 神宮 ▲現豫後備 陸軍現役二五 ▲全豫備四九
- 一七 寺院 ▲海軍現役 二八 ▲全豫備 四一
- 一八 兵役

- 一九 市參事會員 ▲六名
- 二〇 市會議員撰舉有權者 ▲五六八 被選舉有權者 ▲二九九
- 二一 衆議院及選舉被選舉有權者 ▲選舉 二二二六 ▲被選舉 二二一
- 二二 衛生委員 ▲衛生組長 六九
- 二三 國稅地租 ▲所得稅 三九二一、一八〇 ▲營業稅 七八六〇、九八〇 ▲賣藥稅 一五五、〇〇〇
- 二四 縣稅 ▲地租割 五〇八、六二〇 ▲營業稅 一、五九五、四五〇 ▲戶數割 三六〇三、四八〇 ▲雜種稅 六、九五七、七五〇 ▲雜收入 二、九三〇、九一〇
- 二五 市稅 ▲地價割 一一八五、七二〇 ▲戶別割 一、三四二、五六〇 ▲營業割 一〇四、六二〇 ▲所得稅 二二七四、六〇〇 ▲公立 〇 ▲私立 一
- 三〇 病院數 ▲公立 〇 市立 一 私立 一
- 三一 醫師 ▲四八 產婆 二〇 藥劑師 三 鍼灸師 三九
- 賣藥營業者 三五
- 三二 重ナル輸入品 ▲米 重ナル輸出品 石炭
- 三三 商賣種別 ▲問屋 七 仲買 二九 卸賣 一
- 三四 食用農產物 ▲一三

- 三五 漁獲物 ▲鯛 ▲鳥賊 ▲海鼠 ▲蝦 ▲鱈 ▲ハダラ
- 三六 耕地反別 ▲五百三拾四町六反八畝貳拾四步
- 三七 米、收穫高 四、四八九石 ▲麥收穫高 ▲五七五石
- 三八 船數 ▲四百八拾六艘
- 三九 車數 ▲荷車 五二五 ▲人力車 ▲一八四 ▲自轉車 七〇
- 四〇 官有地 ▲壹六壹參五八坪九六勺
- 四一 民有地 ▲三百六十三萬五千五百三坪三合
- 四二 免租地 ▲十三町八反一畝二十四步
- 四三 市基本財産 ▲二百八十九町七十九錢四厘
- 四四 市吏員 ▲四十四名 俸給壹萬四百九拾六円四十錢
- 四五 船舶出入數 入▲一、八一〇 出▲一、八七七
- 四六 土産 ▲工産物 ▲礦産物 ▲石炭 ▲硝子

佐世保市振興策

顧ふに十九世紀末より二十世紀初頭に於ける吾日本の進歩は實に驚くべきものあり商工業百般の發達は固より教育の進歩兵器の改善等一大長足の進歩をなし歐洲の文明國を凌駕し東邦文明國として優に列強に對峙するに至り而して事業の勃興と共に經濟界は比年膨脹し其結果個人の生計一邑の經濟も亦昔日の比よほらず殊に自治制の發布以來町村の發達は交通の完成に伴ふて益々甚しく昨は山村漁邑として山樵漁夫の茅舍疎煙時よ空しく鷄犬を侶せし地も今は官人商賈の大厦高樓櫛比し文明の光輝は燦然として夜尙ほ暗きを覺へず諸種の施設曾て吾人の夢想だも豫期せざる處のもの多くして今尙ほ其進歩は底止する處を知らず自然的の必要も人爲的作用に依り益々國勢發達し國權伸暢せんこと吾國の前途や多望なりこと謂ふべし吾佐世保の如き此文明の潮流と氣運の然らしむる處に依り其繁榮年一年に進み今や人口五萬餘を有する全國有數の都市となり吾人が日常最大必要たる交通機關其大体を備へ天然の良港は無量の富源を有し殊に海軍鎮守府の在るありて

之は伴ふ諸般の事業は市に絶大なる富を與へ之が爲め市が得る利益莫大なるものあり我佐世保市が鎮守府に負ふ處の者多しと雖も開拓尙久しからざる新市として未だ以て其設備の完全を缺くもの少なからず否寧ろ現今の状態を以てせん乎或は從來進歩より比し漸次衰退せざるなきを保せず是れ夙より有識具眼の士が認めて以て市の發達進歩を企圖する所以なり吾人の不明なる佐世保市の振興に就て偉大の見地を有せずと雖も市を愛する一片耿々の赤心は吾人を驅つて此振興策を草せしむ言の正鵠を得ると否かは偏へば大方諸子の批判に任す乞ふ吾人をして其懷抱する佐世保市の振興策を語らしめよ

佐世保は鎮西の鎖鑰新進の都市とは云へ其進歩の急激なる他市より於て多く其比を見ず全國中其之れに似たるものを求むれば或は門司市に比儔するを得べき乎夫れ然り而して門司は石炭を以て如斯盛大を致し吾佐世保は實に海軍鎮守府あるが爲めに此一大進境に入りしもの也彼の筑豊二國に在る無盡藏の石炭と貿易港として門司港と本土九州聯結の地として將た又た鐵道に依つて享受する利益とは素より市の繁榮を促したる因なりと雖も吾佐世保を顧みれば如何港灣廣くして天然の良港を有するも地位西陲に僻在するが故に自然の趨勢として人の集散少なく加ふるに門司に於ける石炭の如き物産なく只僅かの石炭を産出するに止まり佐世保市の生命は唯鎮守府に倚賴しつゝありと云ふも過言にあらず若し夫れ過去現在の儘に放棄し自然の成行に委せんか佐世保市の進歩得て望むべからず不振萎靡の裡に終らんのみ現状の不振を挽回し五萬市民の多福を希圖し泰山の安きに置く佐世保の市唯市民諸子が振興の方策如何に在り然らば如何にして佐世保市を繁榮ならしめ振興せしむべき乎編者が所謂振興策は左の各綱目に歸着す

(一) 各種の工業と盛ならしめ

多くの物産と出すべし

佐世保市が唯一の頼みとする鎮守府も限りある豫算にして是以外に他を求むべからず海軍省が年々定むる費用の範圍内に於て其事業を爲すに過ぎずされば佐世保

市民は宜しく鎮守府以外に繁榮の財源を求め之れを以て鎮守府の事業と相待ち市の繁榮を計らざるべからざるなり夫れ佐世保の地たる山を負ひ海を控へ地は磽确にして農業に適せず加ふるに土地狹隘にして到底農業地に非らざるや論なし之れを商業の地となすも百貨の衆散稀に人の來往少なく客年末統計に依るも佐世保市に足を容る、旅客の數一ヶ月僅かに一萬内外に過ぎず此一萬内外に市民五萬の人口を以つて商業の繁榮を計らんとする之れ亦望むべきの業はあらず故に此際市民は是非とも佐世保市を工業地となし各種の工業を興し而して物産を出し海は陸を之を四方に輸出せば是は伴ふ種々の事業相集りて起り爲めは市の商業は逐日繁榮し赴くや必せり之を近縣に例せんか有田伊萬里の陶器嬉野の茶平戸の海産物久留米の織物大分の製蕪業等各々其地特有の産物を以て其繁榮を維持し進歩を促したるが如き好例あるはあらずや業を起さず生産を計らず徒らに區々の商業を離觀するは市百年の大計にあらず故に吾人は佐世保市民諸子が佐世保をして工業地となすの覺悟を以て勇往活動せられん事を切望せざるを得ず其如何なる工業を起し如何なる物産を出すかは更らば筆を後編に改めて細論する所あるべく今は只其大綱を擧ぐるのみ

(二) 教育の進歩と計るべし

人文の發達か如何に國運の盛衰に關するかは編者今茲に細論するの要を見ず抑佐世保市の教育事業は就ては實に云ふに忍びざるものあり國民教育の小學校すら尙未だ完備するものあるなく況んや中等教育を施すべき一乃校舍を見ざるは於てをや是れ編者が更らば遺憾とする所なり夫れ本縣は地勢の状態舊來の情況より各地に中學の設けありて稍や子弟の修學上完備の域にありし雖も吾佐世保市の如きは如何の状ぞや子弟の修學上特に不便甚しく人口五萬を有する一都市なるは一の中學の設備なきは明かに人文の缺陷を示すに全時よ市の發達を催進する能はず之か爲めは市民資あるものは遠く子弟を他に出し資なき者は終に此不便の爲めは可惜有爲の子弟を傷ふの觀あるは照代の今日誠には慨すべき事はあらずや故に曰く速

が教育の進歩を計り以て直接間接に市の振興に寄與する所あらん事を

(三) 永住の觀念を養成すべし

土地の盛衰は實に人口の多寡に依るや言を俟たず人口の繁殖は直ちに需用供給の原則に基きて商業の繁榮を來すや論なきなり佐世保市の今日ある所以なるも人口の増殖與つて力あるや明なり今佐世保市の振興を計る上は就て先づ第一に考究すべきは如何にして人口を増殖するかは在るべし其原因たるや前叙の工業を興したる結果として自然に他邦より人士が來集するものあるべしと雖も要するは永住の觀念を興ふるは其最良の手段なるべしと信ず此永住の觀念を興ふるは種々の方法あり一として是らざるも第一市民相互の信用を保ち安堵して能く業を執り務むる服し永遠の目的を樹立せしむるに在り又他方は於ては公衆衛生の發達を企圖し彼ら水道敷設の如き速がよ之を完成せしめて個人は生計に安固なる保障を興へ所謂一時的の小策を弄せず地主も家主も相一致して喜んで他郷の人を容れ商家も工家も亦誠心誠實に物品の供給をなし自然に永住土着せしむる方針を取らば庶幾くは益々人口を増し延びて市の繁榮は貢獻する處あるべき也

以上は編者が抱懷する一端を披瀝して市民諸君の参考と資せしむる過ぎず其他市の振興策を論ぜんには交通機關の完備を計らん爲め電話開通の如き電燈設備の如き將た又道路開修の如き海運交通の便を計り水産事業を奨励し又一面は地料及び家賃を低落し且つ佐世保商家の弊風として世人の最も厭忌する俗に云ふ軍艦相場を打破し以て市民の頭腦を根底より改造する等一々之を詳論せんとするは一朝一夕の能く盡す處にあらざるも聊か編者が抱持する佐世保振興策の梗概を本書の巻頭に加へしのみ

若夫れ有識具眼の士が有せらるゝ高論卓説により市の振興策は就て偉大の功を奏するあらば編者は謹んで偏見の識りを甘受せん而已



官衙公所

十七

◎佐世保鎮守府

明治十九年勅令第三十九號を以て第三海軍區を佐

世保に指定せられ二十四年四月に至り鎮守府の開廳を見る地は港灣に沿ひ且つ平坦にして廣袤里餘の範圍に渉る、府の内容は就ては事機密に屬するを以て之を詳述するを得ざるも其大班は海兵團、造船廠、兵器廠、港務部、經理部、水雷團、海軍監獄、海軍病院、軍法會議所、等、別ち左の諸氏最も誠忠に軍務を督勵せり

司令長官中將鮫嶋貞規、艦政部長少將尾木知道、港務部長少將鹿野勇之進、病院長總監戸塚環海、造船廠長大監工學博士辰巳一、經理部長大監相原益功、兵器廠長大監兒玉利賢、機關部長大監深見鐘三郎、海兵團長大佐中山長明、水雷團長缺荒木亮一

◎佐世保要塞砲兵聯隊

明治三十二年十一月の設置に係り佐世保市

折橋免佐世保川側に在り聯隊長陸軍大佐林鍊作氏最も誠忠最も嚴正に軍務を督勵せり要塞司令部は三十三年六月創立し全聯隊内に事務を開始せり當時司令官陸軍少將山根武亮氏が在勤せしが今年八月小佐世保免字宮崎町に新築移轉し佐世保築城支部と同構内に在り現下陸軍少將村田惇氏司令官たり因に全部は長崎要塞聯隊をも管轄せり

◎佐世保憲兵分隊

明治二十六年八月に創設に係り熊本憲兵隊より

派遣せしものよして當時佐世保村憲兵屯所と稱し佐世保鎮守府構内舊衛兵所に於て事務を開始す明治二十七年七月長崎憲兵分隊第一分隊と改稱爾后舊長崎分隊佐世保支部跡に移轉し全三十二年二月佐世保市鳴瀬町四番地新築廳舎に移轉し以て今日に至る本年三月二十六日勅令第五十八號を以て憲兵條例改正の結果第十二憲兵隊管區に改正せられ佐世保憲兵分隊と改稱せり抑も憲兵隊なるものは平時戰時の別なく軍隊の風紀を保持し衛戍地の警戒をなし苟も國法を犯すも及び軍人の素行修まらざるもの其他地方警察の職務を執行するものにして其職責重大なりと云ふべし現任分隊長は憲兵大尉中嶋矩貞氏なり氏は宮崎縣の人性磊落實樸職務に忠實の聞へあり憲兵諸氏が日夜熱心に職務に執掌せらるゝ豈故なきとせんや

◎佐世保警察署

明治拾八年即佐世保鎮守府開設以前は大村警察署管轄早岐分署の管掌に係り全署より時々巡查を派遣し警邏巡察するに過ぎざりしが佐世保は鎮守府を指定せらるゝや元町は巡查派出所を置最初巡查二名を配置せり海軍工事の勃興は従ひ土工業者其他の人々恰も潮の如く寄せ且つ來り從て警察事項も亦日々増加し漸次増員せしと雖も到底取締の目的を達する能はざるを以て拾九年に至り派出所より一躍して分署と改め頗る巡查を増員して拾八名となせり當時佐世保は勞働者を以て満たされ毆打負傷其他の犯罪頻發して殆ど戰場の如く署内は留置者乃絶間なく至る處殺氣を帯び人心胸々たりしと云ふ今より當時の光景を追想せば警官諸氏が不眠不休如何に盡碎せられたるかを想ふに餘りあり明治二十年時の分署長は鴻澤精一氏なりき氏性豪膽にして而かも敏腕警察の取締を勵行すると同時に一面署内の刷新に留意し傍ら分署新築畫策をなし天満町は地を撰ひて建築は着手し二十二年竣工移轉せり今の警察署即是なり二十三年冬鴻澤氏去

り松崎惟氏來る在勤年餘二十五年松崎氏去り物江孫六氏來る居る事年餘二十六年中高木胤夫氏來る居る事一年餘高木氏去り森高時氏來る居る數年當時市内は實業協和の兩派起り相對峙して紛擾を醸せり此時は當り氏は敏腕と膽略とを以て公平の見地は立つて能く警察の任務を盡し民間一の嘆聲なく署員に一の不平なかりしが三十三年春氏拔擢せられて警監學校に入り後任には松崎惟氏再び來る氏は温厚篤實にして職務は忠實なり幾干もなくして警察制度の變更よりて松崎氏去り警視加藤清氏來る氏の行動は一般識者が既認むる處種々の風評高かりしが三十三年冬俄然休職となり後任は長崎警察署長たりし山田知秀氏來る氏は寛宏にして職務に忠實なりしを以て令聞高かりしが間もなく郡長は榮轉せり後任には長崎水上警察署長たりし色紙雄七郎氏來り以て今日に至たる客年四月村制より一躍市制施行と共に巡查の定員五十九名となれり氏赴任乃當時即客年六月市會議員の撰擧あるや協和實業兩派の軋轢を生じ撰擧競争頗る劇甚なりし氏は嚴正公直なる見地を以て職務を執行せられたるの結果撰擧も無事は結了せり氏天資英敏快活

よして果斷に富み加之職務に熱心として一般に信用あり殊に海陸軍部内の融和を保ち居れり君は曩きよ東京府下よ於て多年警部の職を奉じ後ち秋田縣保安課長兼警務課長となり轉じて函館警察署長となり一時職を辭し金尾氣船會社の支配人となり全會社の刷新を圖りたるが感ずる所あり再び警界に顯はれ大分縣中津警察署長となりしが警察監獄學校の創立に際し氏は拔擢せられて入學を命せらる卒業の後全縣へ奉職せり爾來佐賀長崎の保安課長若くは衛生課長となり後ち水上警察署長となり警視に榮進して客年五月當署長に轉じたりしなり氏は縣下警界屈指將來有望の人

○佐世保郵便局

本局は佐世保鎮守府構内よありて殆んど市街の中央に位す明治七年始めて郵便役所を新設せられ全二十一年三等電信局となる全二十一年二等電信局に進み全二十八年郵便電信の兩局合併し共よ二等郵便電信局となり佐世保郵便電信局と改む全三十六年三月佐世保郵便局と改稱せらる而して明治七年十二月十六日郵便を全十八年十月一日貯金を全二十一年二月一日電信を全二十一年五月十六日爲替を全二十六年二月二十一日小包等の業務を開始せり既往十八年間局長之交迭を擧ぐれば中山一郎田吉製造田代智治菅野正業高島喜爾太秋山宇喜太堀田龜吉中村亥三郎等の諸氏よして現時の局長は田上清人氏なり氏は山口縣下の人嘗て熊本鎮臺に在り明治十四年始めて憲兵隊を新設せらる、や拔擢せられて全隊に編入勤續數年家事の都合よよりて退役後ち遞信省に奉職し那覇鹿兒嶋等の郵便局長を勤め明治三十年頃より佐世保郵便局長に轉じ以て今日に至たる氏性温厚沈着よして事務に熱心氏が從來郵便事務の刷新改良を計りたる功蹟少なからずと云ふ

○佐世保市役所

鎮守府開廳以前は村役場として佐世保上町中央に在り全二十六年一月谷郷に移る三十五年四月市制實施市役所と改稱せり本年五月八幡町河畔に移轉せり現時の市長は渡邊修氏なり氏は愛媛縣宇和郡の人幼よして俊才東京に遊び慶應義塾を卒へ明治十五年農商務省御用係を命せられ全十九年交

際官試補外務省參事官兼任全年六月韓國元山領事となり全二十三年遷信省書記官
 兼任全二十四年長崎郵便電信局長に轉じ三十二年愛媛縣書記官となり香川縣書記
 官に轉じ幾干もなく職を退き三十五年八月郷里愛媛縣より撰はれ代議士となり第
 十七議會の開かる、や政友會に屬し地租増徴に反對し強硬論者として政界に名あ
 り第十七議會解散せらる、や本年三月再び郷里より推されて候補者となり全縣下
 最高點を以つて當撰するに至る三十五年八月佐世保市長に撰舉さる君赴任日尙淺
 きも市の刷新に銳意熱中し其功顯著なるは一般の認識する處なれば編者今多くを
 云はず助役には筭島桂太郎氏あり氏又微腕の聞るあり嘗て明治法律學校に學び卒
 業の後二十四年七月福岡縣屬たり三十年四月巖手縣屬に轉じ三十一年北海道屬に
 なり三十二年八月愛媛縣屬に轉任三十五年十二月佐世保市助役に就任爾來繁雜な
 る市務に鞅掌し渡邊市長を助けて市乃改新を圖り居れり

常盤なる松の稍も春を得て

八千代をよはふ友鶴の聲に

佐世保 市 九

○佐世保區裁判所

地は佐世保市乃西隅木場田町に在り嚴として
 壯觀を極む明治三十五年三月十五日開廳せり所内を民、刑事部、登記、庶務、會計に
 頻ち監督判事は老鍊にして職務に忠誠の聞へある松岡一輝氏あり檢事局は剛
 直沈勇、果斷の譽れある檢事鶴田進氏ありて熱心な部下を督勵し事務に鞅掌せり
 全所は事務繁忙にして本縣中樞要の地位を占む

神社佛閣

◎西方寺

(曹洞宗)建長二年(六百五十年前)香林永大和尚の開基にして
 佐世保市千三百二十五番地に在り土地高燥東方萬松樓と相對して叢樹翠滴の間に
 在り長祿元年(四百五十年前)一時無住となり大風の爲め堂宇荒廢して雨漏り月入
 り幽寂淒涼を極め亦昔日の佛を存せざりしが佐世保赤崎觸に曹洞宗天翁鳳清和尚
 僧歸一庵と云へるもの堂宇に大修繕を加へ再興を企圖し後ち赤崎伊豫守の菩提所
 となせり爾來幾多の星霜を経て天明二年壬寅十四世雷換月章中興して今日に至る

開山以降六百五十餘年代を累ぬる二十又六現下の住職を濱崎始顯師と云ふ寺產地所二千七百餘坪地料七百圓以上檀下六百餘編者一日住職を訪ふ師は語るに古來の經歷を以てし證するは寶物を以てす一は般若經六百卷一は袈裟赤地金蘭七條のものよして之れを傳衣と稱して繼承したりと而かるに其の寶物は凡て紗及諸種の絹布を以て縫綴したるものにして曠昔檀下の納むる御布施を以て集めたるものなりと昔時の僧侶は凡て金銀の寄贈を受くるを得ざる規程にして而かも肉食妻帯を禁し寶物袈裟等凡て婦女の手を以て調進するの汚穢なるを嫌ひ僧侶自ら之を調製するの規錠なりしと云ふ元祿九年正月松浦肥前守より拾五石の寄附ありしも明治維新後廢祿となれり是れ佐世保有名の大寺なり

◎住職濱崎始顯師……師は元治元年九月を以て佐世保市に生る父濱崎榮吉氏の二男たり明治十年十月本縣北松浦郡吉田村延明寺住職たりし亡眞崎達穩師より就き得度全十一年平戸村瑞雲寺住職悅山道欣隨會に首先安居殆んど一年餘長崎市伊良林皓臺寺住職高木忍悔師に隨侍尙本縣支局附屬専門支校六級全科卒業の上本縣北松

浦郡世知原村洞禪寺住職大欣亮全初會に於て立職亡眞崎達穩師の室に入り嗣法二十一年三月東京麻布區日ヶ鶴町曹洞宗大學林に入校二十三年七月七級を卒ゆ偶々大學林學課改制に付本科三學級に加り二十四年四月臨時試験を受け好成绩を以て合格す今年五月大學校に於て説教驗証明狀を得今年八月能本山より於て轉衣二十五年三月佐世保西方寺住職結制全年夏全寺初會執行法臘となる師性質温良沈靜にして淡泊而かも謙讓禮義を重んじ檀下の信認を享けたりしが近來檀下の内に反對者起りて煩る難々を極め未だ其解決を見ざるもの、如し編者素より其是非を辨する能はずと雖も社會の爲め一日も早く解決されん事を望む

◎九品寺……(淨土宗)麟夙山九品寺は佐世保市千二百九番戸第一號に建設土地高燥にして眺望佳絶谷郷の高臺に在り明治二十九年四月其筋の允許を得寺號を九品寺と公稱せり二十七年佐世保有志富田六藏、濱崎悌二郎、同彦藏、同彌平、添嶋源藏、山本宇藏、富田茂助、同イ子子の諸氏發起となり早岐大念寺住職渡邊戒定師及現住職小田信嚴氏と謀り創立せしものにして現下壇家二百五十餘戸毎月四回

教會の開筵をなし日々信徒の増加を見る是偏へも現住職小田信嚴師が平素熱心に布教に盡瘁されし好果なりと云ふべし

◎住職小田信嚴師……………師は明治二年二月を以て縣下南高來郡有馬村に生る幼にして全郡北有馬村願心寺に得度十五歳の頃東都に遊び大學林に入り二十二歳にして修業早岐大念寺室に獨立苦學の後佐世保に來り淨土宗教會所(九品寺)の創設に盡瘁し遂に其目的を達するを得師は其住職となる二十七年本山知恩院より開山號及紫衣等を賞與せられ淨土宗管長より功蹟賞狀を下附され三十四年布教會を卒業三十五年巡教師に任し九州一圓の布教を擔當せり師は性廉正沈着にして檀下の信用ありて僧俗の間に重せらる

◎八幡神社……………創立年號を詳にせず雖も慶長二年三韓征伐に際し祈願の爲め松浦鎮信氏奉納する處のもの三十石八斗七升是皆田地なりしも元和年中寄附は悉く引揚げ毎年九月九日大祭あり記録には八日と記しあるも當時參拜の爲め各神社同時參禮をなすを以て九日に變更せしものならん現時の社掌岡澤浪江、社

掌神戸辰の両氏社務に熱心し大に社を擴張を計る祭神は譽出別天皇保命神にして土地高燥佐世保市八幡町鬱蒼たる松柏の間は在り神殿何となく神々しく滴るゝ氷は口を嗽き手を洗ひ一たび參拜すれば自然に昔事を懷想するの感あり

田代とは百性比靈なり

實業はげます鏡なりけり

佐世保

應變

◎社掌神戸辰君 君は北松浦郡山口村の人舊平戸藩士なり維新の始め熊本鎮台の權曹長たり西南の役終るや辭して郷に歸る明治十年小學校を教鞭を取るを數年辭して飯盛神社の主管となる全二十一年より佐世保市八幡神社の社掌となり以て今日に至る爾來孜々經營社務に熱心鞅掌百難千苦を凌ぎ今日の盛況を呈せり

◎社掌岡澤浪江君 君は曾て縣下東彼杵郡上波佐見村井石神社の主管たり明治七年全郡彼杵神社の主管に轉し三十五年佐世保八幡神社の社掌となり教導職權少講義となり現下社掌神戸辰君と協力社務に盡瘁し舊來の面目を一掃せり

◎須佐神社 佐世保宮田町を登り要塞砲兵聯隊彈藥庫の下は天然の巖窟あり恰

も眼鏡岩と相並び其佳景を稱せらる其上は素盞鳴尊を祭る須佐神社是なり創立年號詳かならざれども古昔は舊藩の領主名代の参拜せし處にして毎年九月九日に大祭を行ふ現今相變らす参拜者頗る多し

實業をほうつす田代水鏡

長崎

八重子

◎西身延別院……佐世保高砂町木場田橋を渡り池月旅館より裁判所裏通を経て約一町山麓に沿ふて登れば日連上人を安置せる教會堂あり即ち身延別院にして明治三十一年七月大河内英亮師が非常なる苦心を以て日夜奔走市村正太郎前田貞四郎吉屋重平小田茂吉氏其他の有士と謀り建設したるものにして三十二年三月村雲尼公「教法王山」の四字を染筆し賜はれ堂内に供へありと聞く英亮師は目下本堂を建設せんとして準備中なりといふ

◎住職大河内英亮師 師は明治二年二月杵島郡宮据村今乃北方西浦の郷に生る十二年八月出家得度隣郷多久村西の原郷順道院住職順祐院白賢上人に學ぶ年十二業を修め十七年三月西海粗林に學ぶ二十三年熊本に遊び二十五年一月鎮西身延山の命により佐世保市福田万徳寺に假家を構へ市内有志と謀る處ありしが未だ信仰の普及せざる爲め信者少なく米鹽屢々空しく師が當時の如何に苦心せしかは想像するに餘ありとぞ今師が笑ひ話を聞くは過ぐる二十六年の頃か一日鹿木の法衣を着し假屋を出て某文具店に至る店員曰く主人今日留主なればとて師を物貰ひの僧と誤認せしより師は大聲叱して曰く君は我を物乞と思ひしならん店員叩頭其無禮を謝す師も釋然として面を和げ文具品を求め歸りしはとありと以て當時の境遇如何を推知するは足る今や其苦心空しからず世上の信用を博し教會堂を建設し尙本堂の設計は孜々たりとは感するに餘あり資性機敏快活にして布教に熱心なり又思慮果斷は富み直言直行宗教社會の傑物たり年三十六

◎大谷派説教所(眞宗)……明治三十二年六月佐世保に説教所設立許可を受け湊町に假説教場を置き布教しつゝ、あり客年名切免字楡山に二千四坪の開墾を出願し目下堂宇建設の準備中なりと云ふ全説教場内は婦人會なるもの組織され眞俗二諦の實を盡し誠の婦人たるの道を行しめんとするの目的にして毎月十三日廿七日

の兩日晝夜説教講話の法筵を開く目下全所は在勤布教に盡瘁せるは蒲池徳映師なり君は萬延元年三月福岡縣八女郡北山村智願寺に生る明治十年筑後貌姑射石門の塾に入り漢學を修む全十四年京都教校に入り四箇年間修業後宗教專門貫鍊教校に入り三年間修業して本山の使僧となり各地に奔走専心布教に従ふ本年一月より佐世保説教所は在勤布教に従事せり君性順良にして人に接する寛容なり君が檀徒信者の尊仰を受くる又宜なる哉

◎**金光教會**……主任高崎虎吉君は山口縣豐浦郡豐西村の産二十八年前迄は金光教下の説教會所は修業中信用を受け布教師の辭令を得二十八年五月布教の爲め

佐世保に來り三十一年十月佐世保市櫛山千二百七十三番戸二號に堂宇を建設し説教をなす參拜するもの頗る多し君之れが會主たり性温良篤實にして頗る信用あり

◎**基督教日本聖公會**……同會は明治三十五年三月に創立せるものにて講堂を天満町横通に置く演説幻燈會を催して聖書の研究を成す昨今大に盛況を見るるに至る同會の主任宣教師本田清次君は熱心な布教擴張を謀れり因みは聖公會の

日程を記すれば毎日曜日午前十時午後八時より禮拜説教

◎**副島林史君**……君は萬延元年六月佐賀縣佐賀郡に生る明治二十五年

中佐世保名切免高燥の地をトし宮地獄神道教會本部を創立せり地は山間叢樹の裡ありしが爾來君は日夜寢食を忘れて土地の開拓經營等に苦心慘憺をなし全二十九年に至り一部の落成を告げ漸く盛況を見るに到る全年九月直轄教會となり君が熱精なる布教によりて參拜者多し君性温厚徳實にして慈心深く公共事業に盡瘁せし事少なからず故に君の徳を慕ふもの多しかや現下教會の隆盛なる亦故ある哉

◎**宗教と風俗**……淫祠乃尤も盛なるは四國地方を根據として今や全國至る處に波及し種々の名稱の下に淫祠を建立し神聖なる神前雀羅を設くの感あり吾佐世保に於ても表面世教風俗を害する邪教なきが如しと雖も其裏面を描き出せば實に恐るべきものあり俗に云ふ神の御降り若くは狐使ひ抔稱して最も人通の少なき裏家若くは二階奥座敷等は神殿を飾り甘言以て愚民を瞞着し金品を詐取するもの市内至る處に蟠屈するは寔に奇怪千萬と云ふべし編者は此の方面に付ては特く

は探訪に餘念なりしが材料津々机上爲め、狭し編者は、この材料によりて社會公衆のため彼等が怪狀を摘發して大に反省乃實を擧げん事を期すされど記事編輯の爲め遺憾なから後編に掲載するをこせり今佐世保中各派教會所の一斑を示さん

宗派	資格	社職	信徒	所在地	社寺名
法華宗	担任教師 坂井智泰		九十名	佐世保市折橋免 百五十四番地	本宗妙法講開選結社 教會所
法華宗	大川内英亮		三百三十名	佐世保市千三百三 十一番戸第一	本宗妙法講信解結社 教會所
御縁教	野田喜藏		千名	佐世保市字濱田 九百卅二番	御縁教直轄神理 宮地嶽分教會
宮地嶽	寺山與十郎		百名	佐世保中通免字 長田	宮地嶽神社
天理教	伊藤源吉		五百六名	佐世保市九百 三十二番戸	天理教會山名分教會 佐世保支會
神理教	安永岩太郎		八十名	佐世保市千二百 七十二番戸	醍醐小佐世保 教會所

眞宗	武宮持		三十名	佐世保市中通免字 中越千八百八番	眞光寺說教場
神道 金光教	高崎虎吉		四十名	佐世保市千二百七 十三番戸二號	神道金光教會 佐世保支所
黒住教	田中佐四郎		五十名	佐世保市免字松ノ間 二百八十二番	黒住教會所
神理教	副島林史		百五十名	佐世保六百四十 八番戸	神理教直轄 宮地嶽分教會
浄土宗	倚松寅本		八十名	佐世保市赤崎免栗木谷 七百八十九番地	忠魂祠堂
神理教	副島林史		七十名	佐世保市四百五十 九番戸二號	神理教直轄 宮地嶽教會分教會
神理教	下村武夫		六十名	佐世保市七百三 十六番戸	神理教直轄 宮地嶽教會分教會
天主教	片岡桐榮		三十名	佐世保市千三 百十七番戸	天主教直轄 假分教會
聖公會	宣教師 本田清次		二十名	佐世保市天満町	基督說教所
新義 眞言宗	吉田勝一郎 玉川光基 外六名			佐世保市中通免明藏寺 六百四十六番戸	眞義眞言宗智山派密顯教會 佐世保分教會所

眞宗	荒木圓隆	三十名	佐世保市又ノ千二百三十六番戸一號第一	大谷派 本願寺說教場
宮地嶽	大塚弥一	五十名	佐世保市八百八十七番戸	宮地嶽分教會
約幹公教	目教佛願人 ククザン	百五十名	佐世保市千三百十七番戸	佐世保約幹公教會
漫遊教	菅野半治		佐世保市濱田町千三百三十八番戸三號	漫遊教會 佐世保出張講派所
眞宗	蒲池徳映	二百名	佐世保市港町	眞宗 本願寺說教所

田の代や幾萬億の種御し
 曇りなきまよこの業の鏡哉
 外國までもなほ匂ふらん
 さしのほる朝日は影のうつろいて
 田代の露の光りそうらん

佐世保 兼 房
 佐世保 辯 子

◎私立佐世保工業夜學校一覽

創立年 月	修業年限	校舍及其位置	教室	室
明治三十三年四月	豫科貳年 本科參年	八幡町佐世保 女兒小學校	五	簡
沿革概略	本科ハ明治三十二年九月設立ノ趣旨ヲ發表シ同三十三年四月佐世保女兒小學校々舍ヲ借り受ケ假リ開校シ全年九月ニ至リ其筋目リ設立認可ヲ得テ私立佐世保工業夜學校ト稱セリ 修身、讀書、作文、習字、數學、英語、理學、重學大意及造船學、造機學、造兵ノ大意 學級數 五 生徒數 壹四五人 教員數 普池科五人 專門科三人 授業料 豫科 金 四拾錢 本科 金 五拾錢 夜間 貳時間 學校長 出口武利			
入學者之資格	學齡外之男子ニシテ尋常科卒業以下ハ豫科ニ高等科卒業以上ハ本科三年ニ其 他ヲ本科二年ニ編入ス			
入學ノ期	四月及十月ノ始メトス 教授時間			
評議員長	海軍造船大監工學博士辰巳一			

○私立女學校

該校は客年四月佐賀縣人よて元本縣北松浦郡大野尋常高等小學校教員たりし教育熱心家山北トミ子れ創立よして開校の當時は本市八幡谷よ校舎を設けたりしが入學生徒の數豫想外よ達し忽ち狹隘を告げ全年六月現今の家屋を借り受け校則に改善を施し教授の便益を與へたるによりて益々入學者増加し到底現校舎に於て充分の効果を收むるは得て望むべからざるを以て之を評議員に計り校舎新築を企圖し遂に市内有志者の贊成を得て高燥の地なる佐世保市宇平よ地を卜し新築するよ一決し既よ客月地目の變換を願出し着々地均等よ着手中なれば暑中休暇後よは移轉開校を見るに至るならん實よ本市女子中等教育乃爲めに賀すべき事ならずや而して校舎主が今日に至るの間幾多の苦心慘憺を嘗めたるかは左に全校の梗概を掲載するを見て推知するに難からざるなり

- 一 現位置 佐世保市相生町卅三番地 一 創立 明治卅五年四月十一日
- 一 教科 本科教員養成科

學級

〔技藝科 本科三、技藝科二、
專科 教員養生科二、專科一〕

職員數 校長一 教頭一 教員九 内男四 女七 囑托 教員 男二 女二
生徒數百十七名

○正則英語研究會

本會は佐世保市名切免八百九十二番戸に在り最も正則的に實地應用の教鞭を執る佐世保唯一の教育機關にして初等、中等、高等の三科に分ちあり而して教授の時間は晝夜の兩間よ區別し佐世保鎮守府開設以來の先鋒たり會主は遠武劍洲氏にして氏は客年英國東洋艦隊旗艦ユンデミオン號アラクリナー號來港よ際し市民を代表して歡迎通譯に従事する等氏が名聲高く従つて教を乞ふもの頗る多しと云ふ

長く照る幾久しく末長く

人の善惡しるす御鏡

佐世保

内藤美恵子

實業をばうつす田代の水鏡

榮ゆく世のたからごぞなる

博多

愛子

◎礦業家市村正太郎君……君は山梨縣甲府の人弘化三年二月江戸に生る夙に實業に志し土木業に従事す維新後明治七年東京神田橋外華族學校洋式建築の請負をなし大に其信用を得たり全八年海軍省御用達を命せられ各種建築の請負をなし全十三年沖繩縣の開廳せらるゝや其廳舎外一式の建築を請負ひ竣工乃後全十六年歸京全十七年韓國京城日本公使館の設立せらるゝに當り外務省より全館建築の請負を命せられ韓國へ渡航し誠實事に従ふ偶々全國變亂に遭遇したのしを以て一時歸朝翌十八年再び渡航し以て其役を竣へ次きて歸朝せり全十九年佐世保鎮守府の設置されんとするや君佐世保に移住して其工事の請負を爲す全二十二年佐賀縣下北方村谷口中秋先生所有なる石炭礦を買収し採掘に従事せり全二十七八年戰役には佐世保鎮守府軍士の供給に將又石炭運搬の御用に盡し君乃盡瘁せし事少なからず爾後石炭礦業の傍ら土工業の請負をなして今日に至れり又本縣石炭礦業組合の組織せらるゝや君之が組長たり又佐世保實業同志會の開設せらるゝや之が會頭となりて市政の刷新に盡力せり客年北方炭坑を三井より引渡し伊萬里福島炭坑に全力を傾注せり君今や伊萬里灣の要港なるを認め貿易港を開かんご眼を眩ま注きたりしが果せる哉全地有志に推撰よめて請願委員となり不日上京乃筈なりと云ふ君性温厚篤實よして議論眞摯頗る耳を傾くるも乃あり加之義俠を以て世に立つ故に君の徳を慕ふもの多しごかや君乃配下に實業熱心の聞ある小田某あり君の輔翼となりて其の業に努む君が嶄然頭角を顯はし其名聲の高きを致す故なきに非ずとす君が伊萬里港經營の意見なりと云ふを聞くに

夫國威ヲ發揚シ國權ヲ宇内ニ振盪スルノ道ハ國ヲ富マシ兵ヲ強フスルニアリ富國強兵ノ策ハ人材ヲ育シ殖産興業ヲ盛ナラシメ國力ヲ充實セシムルニアルハ更ニ言ヲ要セス而シテ殖産興業ニ隨伴シテ之レガ利益ヲ收ムルモノハ實ニ對外貿易ニアリ對外貿易ヲシテ盛ナラシメンニハ之ヲ吞吐シ夫レガ活動ノ基点タル港灣即チ陸海ノ運輸連絡其宜シキヲ得對外航路並ニ至便ノ地ニ於ケル一大商港ノ設備ハ最緊切ナル事ナリトス方今實業振起ノ聲徒ラニ高ク國ハ農ト云ヒ工ト稱ス而カモ對外貿易ニ就テノ施設一モ見ルベキモノナシ富國ノ道農亦大ニ重ンズベシト雖凡世界ノ大勢ニ鑑ミ吾國ノ地勢ニ審察スレバ農立國ノ時代ハ已ニ去レリ吾國民タルモノハ須ク商工立國ノ方針ニ依リ思想ヲ基トシテ猛進スベキハ將サニ吾國民ノ採ルベキ國是ナリト信ズ今や歐米之富強國ガ競フテ利權ヲ收メントスルハ揮テ東洋ニアリ即チ未開ノ支那ニアリ兵ヲ損シ互

大ノ資ヲ投シテ願ミナルモノ要スルニ支那ノ利源ヲ開發シ其實益ヲ把握セント欲スルニ外ナラズ吾人ハ幸ニシテ東洋二國ノ清韓ニ對シテハ一並帶水世界航路ノ一大「ステーション」ニ立チ東亞商權ノ命令者タル此最大利便ニ位置シ拱手安座爲ズ所ナク清國ノ利源一ニ歐米ニ倚テ開發セラレントス限ラ世界ノ大勢ニ注キ思フ東洋ノ經營ニ凝スル者豈齋起セスシテ可ナランヤ東洋ノ利權ヲ吾ニ收メ日東帝國ノ福祉ヲ増進スル者ハ兵ニアラズ武器ニアラズ一ニ實業ニアルハ言フ俟タヌ殖産興業ヲ振起シ對外貿易ヲ盛ナラシムルハ之ガ發動ノ基點タル良港ヲ九州ノ西岸ニ需メタル可カラズ而シテ今ヤ即チ之ヲ試ミニ九州ノ地圖ヲ点檢セヨ此希望ニ副フ港灣何處ニカアル長崎、口ノ津、唐津、博多、門司、若松、ノ諸港アリト雖トモ一トシテ探ルニ足ラス長崎ハ港灣狹少陸運生産ノ便ニ乏シク博多ハ水深ナク風浪亦船ヲ泊スルニ適セス其他口ノ津唐津門司若松ト雖トモ灣内狹少或ハ潮流急ニ水淺ク到底二十世紀ノ良港ニ適應セサル事ハ識者ノ夙ニ首肯セラル、所タルハ疑ハズ果シテ然ラバ日本人ハ何レノ地ニ於テ港灣ノ良ヲ求メ平和ノ戰爭場理ニ立チ輸産ヲ決セントスル者ゾ伊萬里港灣アリ以テ吾人ノ意ヲ強フスルニ足ル伊萬里灣トハ北松浦郡青島ヨリ以東伊萬里河口ニ至ル灣内ヲ云フ北西ハ福島鹿島ヲ以テ玄海ノ海嶺ヲ防ギ南西ハ佐賀縣伊萬里ヨリ陸地連絡長崎縣北松浦郡星鹿ノ津崎ニ至テ盡ク延長凡ソ六里幅平均凡ソ一里半ニ下ラズ港灣水深ク四時風浪ノ憂ナシ（灣形水深等郵船會社發賣ノ伊萬里灣海圖ニ詳也就テ見ルベシ）海底泥沙ニシテ拔錨ニ便シ清韓其地對外航路ハ九州西岸中最至便ノ地位ヲ占ム幾ニ海軍省ガ佐世保鎮守府ヲ設置セラレントスルヤ伊萬里灣第一ニ其候補地ニ指定セラレタルヲ見テモ優ニ地勢上良港ナルヲ知ラル然リ伊萬里灣ハ棧橋ヲ橫繫シテ貨物ノ揚ケ卸シヲナス事ヲ得此ノ延長線路ハ僅カニ二十哩余ニシテ工事モ亦至テ容易ナリ伊萬里灣ノ經營成ルノ緒ニ就ガバ九鐵ハ喜ンテ延長線ヲ敷設スベキヲ信ス此港灣ニヨリ吞吐スベキ諸種ノ貨物ハ多クアルベシト雖トモ今其大要ヲ略グレバ左ノ如シ

- 一米穀類 一石炭類 一有田及其附近ノ産出陶磁器 一對州五島壹岐其他近海ノ海産物
- 一棉花輸入紡績所ノ建設 但金巾其他ノ織物ヲ含ム 一麥稈細工其他輸出向ノ工業品
- 一食鹽ノ輸出製造場ノ建設 一船渠建設船所ヲ設置 一伊萬里河岸之埋築浚渫

以上ハ只其概況ヲ示センニ過キスト雖凡各項ニ就キ聊カ説明ヲ試ムベシ

一米穀類……佐賀縣産出ノ米穀類ヲ重ニ筑後大川港ニ運搬シ全灣ヨリ京坂並ニ各地ニ輸出スルモノニシテ航路陸運共ニ至大ノ損毛ヲ蒙リツ、アリ今伊萬里灣開港ノ曉ニ於テ當港ヨリ輸出ヲ企テシテ海路ヲ省略スルハ勿論陸運ハ輒車便ニ依ルカ故ニ縣下穀類ハ期セシテ伊萬里灣ニ集中スベキハ更ニ論ヲ俟タザルナリ

一石炭……伊萬里灣ノ周圍ハ悉ク石炭ヲ含有セザル所ナク目下最モ多額ノ探炭ヲ爲スハ福島炭坑長者炭坑伊萬里炭坑ノ三坑ニシテ壹ヶ月各幾千噸以上ノ探炭ヲ爲スガ故ニ三礦ニテ壹万噸ノ石炭ハ優ニ探掘シツ、アリ是ニ附近ノ小炭坑ヲ合セバ現在ニテ壹万五千噸以上ノ産出アリ若シ夫レ開港ノ場合ニ於テハ灣内ノ新

炭田隆然トシテ勃興スルハ勿論現各炭坑モ更ニ擴張ヲ企ツベク加フルニ杵島郡ニ産出スル壹々年五億万斤ノ石炭ハ現今多額ノ運賃並ニ取扱ノ不便ヲ恐ンテ長崎口ノ津等ヨリ海外ニ輸出シツ、アリ是ヲ伊萬里灣ヨリ輸出センカ陸運車賃金ニ於テ長崎ニ比シ半額ヲ減ジ得ベク對外汽船貨亦大ニ低減スル事ヲ得ヘシ如斯伊萬里灣ハ礦業者ニ至大ノ利益ヲ與フルノミナラズ開港ノ曉ニ至ラバ悉ク當港ニ諸物産ノ集中ヲ見ルハ必然ノ道理ナリ右算シ來レバ當灣内並ニ杵島郡産出炭ノミニテ一ヶ年現今ニテ四十八万噸今假リニ一噸平均四圓ノ價ト見バ百九十二萬圓ノ價格ニ達ス若シ夫ノ唐津線ト伊萬里線トノ連絡工事ヲ爲サバ唐津平均額ノ石炭ハ必ズ當灣ニ吸收スル事ヲ得ヘシ

一有田産出陶磁器……伊萬里灣或ハ陸路線便ニヨリ神戸ヨリ外國ニ轉出スル爲メニ陶業者ノ損失ヲ招キツ、アル者多シ今是ヲ伊萬里灣ヨリ清韓其他ノ諸外國へ直輸出ヲ企テナバ運賃其他諸種ノ經費ヲ減シ傍ラニ外國需用者ノ形勢ヲ審ニシ陶業者ノ益スル所頗ル大ナルモノアルベシ有田附近陶山今日ノ衰運ヲ挽回スル蓋シ容易ナランカ予輩ノ見ル所ヲ以テセバ各陶業者ガ其製作意匠ニ於テ徒ラニ舊套ヲ逐ヒ需用者ノ如何ヲ察セヌ唯田特有ノ磁石ニ依賴シ以テ足レトスルガ如キ觀アルハ吾人ノ大ニ取ラサル所ナリ有田陶業者ハ進テ内地向ハ勿論清韓並ニ南洋諸嶋ニ向テ續々輸出ヲ企テバ唯ニ有田陶山一個ノ利益ノミニアラザルナリ而モ此貴重ナル磁石カ濫掘ヲ極メ且ツ原料ノ騰貴ヲ來スノ趨勢ハ一日モ忽諸ニ付スベカラザル事ト思唯ス是ハ專門家ノ定見アルト信スルヲ以テ只其概要ヲ摘要スルノミ

一對州五島壹岐……其他近海ノ海産物並ニ鹿島地方有明灣ノ海産物ハ稍改善ノ兆アリト雖モ未ダ以テ幼稚ノ感ヲ免カレズ現時海産者ノ爲ス處ヲ見ルニ支那向輸出ニ係ル煎海鼠鬚揚卷等ノ乾燥物ニ於テ唯舊套ヲ固執シテ天然ノ勢力ニ倚リ一モ機械的ニ倚ラサル故ニ完全ナル製品ヲ爲ス事能ス品質不良腐敗シ易シ而カモ販賣輸出ノ方法完備セス爲メニ支那人ノ跋扈跳梁ニ委シ此無限ノ海産ヲシテ姑息苟安ニ拱クハ實ニ嘆スベキノ極ナリ今日日本海産商人ハ唯支那人ノ鼻息ヲ伺ヒ九州ノ海岸ハ逆ニ神戸横濱ニ運搬セラレテ更ニ清國ニ向テ輸出ス日本海産ノ振ハサル者ヨリ其所也今之ヲ伊萬里灣ニ集メ直接海外ニ向テ輸出センカ九州西北海岸ノ海産カ隆然トシテ振起スベキハ刮目シテ見ルベキナリ更ニ朝鮮ノ漁業ヲ見ルニ我日本ノ出漁商幾千ヲ數ヘ無盡ノ魚介ハ吾人ノ到テ捕フルヲ待ツモ是ガ販賣ノ方法完備セザルガ故ニ幾千漁舟ハ根據地ヲ有セズシテ戰ヒツ、アリ根據地ナキノ軍勝利スル事ノ實古來未ダ之ヲ聞カズ吾人速カニ遠洋漁業者ノ根據地ヲ伊萬里灣ニ定メ大ニ吾海産ヲ隆起シ國富ヲ増サシムルベカラズ世ノ遠洋漁業ニ熱中スルノ人士ハ猛省ニ番其根本ニ向テ策ヲ講セザル可カラザルナリ

一麥稈細工發達……其他輸出向工藥品佐賀縣ハ諸氏ノ知ラル、如ク縣内ノ工業ハ振ハズシテ土地ニ衣食スル人多ク漸々生活困難ノ狀ニ陥リツ、アリ故ニ年々出稼勞働者ノ増加スル狀勢ナリトス此多數ノ子女ニ向テ相當ノ職業ヲ與ヘサル可カラズソハ手細工々藝品ヲ獎勵スルコト最適切ナルベシ
即チ麥稈細工差蠶織物燐寸工業等ヲ盛ニ振興セシメ是レヲ伊萬里灣ヨリ輸出セバ唯佐賀一縣ノ幸ノミナラ

ズ實ニ日本帝國ノ福祉ヲ増進スベキ適切ノ手段ナリ

一紡績工業ハ今ヤ印度支那地方ノ棉花ヲ門司京坂ニ輸入シ東京。大坂。久留米。大牟田。ニ於テ紡績シ之ヲ支那其他ノ海外ニ輸出シツ、アリ此間ニ於テ日本紡績業者ノ運搬費ヲ損失スルコト又多シ今ヤ日本紡績ノ衰退ヲナサントスル京坂之紡績所ヲ以テ到底海外紡績ノ勝ヲ制スル能ハサルノ理見易キ事ナリ日本人ハ今ヤ海外航路至便ニシテ勞働賃ヲ低落シ安價ナル石炭ヲ有スル地ニ移設スベキ機運ニセマラレツ、アリ伊万里灣ハ實ニ此要求ニ應スベキ最適當ノ地ナリトス製鹽ノ輸出伊万里灣ハ古來九州ニ於テ最上等ノ鹽價ヲ博ス而シテ天日製法ノ鹽田ニテハ鹽質不良一定ノ製鹽ヲ爲ス能ハズ到底充分ノ收利ヲ見ル事ヲ不得今西比利亞鐵道完成セントシ滿州西比利亞ニ鹽ノ需用甚々多シ而シテ天然ニヨル鹽田製法ハ漸々衰退シ機械製法ニ倚ラザルベカラザル機運ニ到着セリト雖モ如何セン各製鹽ハ石炭供給ノ便ニ乏シ爲ニ其事業成立セズ伊万里灣ハ實ニ鹽質ニ於テ第一等ヲ占ムルノミナラズ石炭ハ日本中最安價ノ便ヲ有ス附近沿岸ニ於テ盛ニ機械製鹽場ヲ起シ清韓魯領西比利亞ニ向テ輸出ヲ試ミナバ實ニ至大ナル國益ヲ増進スベキナリ

一造船所ノ運搬船渠築造 本項ハ他日詳細ニ論スベシ茲ニ今里河岸埋築設築ハ只其項目ヲ示ス前項ハ唯其概畧ヲ陳スルニ過ギスト雖トモ伊万里港灣ガ如何ニ有望ナルカラ推知スルニ足ルベシ而シテ京釜鐵道ハ將ニ明治卅八年ヲ以テ竣工セントス是レ連絡ヲ取ル港灣ハ唯九州ニ於テ今里灣ナルハ地理ノ證明スル所ナリ頃日開ク京釜鐵道ハ門司馬關ニ其連絡ヲ取ラントスト然レドモ官民ガ一致シテ此ノ今里開港ノ事業ヲ遂行セバ必ズヤ伊万里トノ連絡ヲ取ルニ至ルベキハ營利上必然ノ理數ナリトス而カモ伊万里灣ト京釜鐵道ノ連絡ハ軍事上ニ於テ最必要ナルベシ之ニ就テ多言ヲ好マズ唯識者ノ沈思熟考ヲ要ス以上陳べ來ルガ如ク伊万里港ハ近時ノ見込ナキ特別輸出港ノ如ク輕卒ナルモノニ非ラズ實ニ國家經營上重要緊切ノ事ニ屬ス

東亞ノ風雲益々急ナル時日東帝國ノ消長ニ思ヲ致スモノ奮テ此ノ開港ニ努力セラレンコトヲ切望ニ堪エザルナリ予ヤ一介ノ商人文ヲ作ニ拙ニシテ加フルニ調査材料ヲ有セズ故ニ唯概見ヲ陳スルニ過ギズ言稍ヤ粗放ニ涉ルモ請フ之ヲ諒セヨ

○私立佐保裁縫女學校

該校は本年一月福岡縣人大長廣吉氏の創立に係り和

洋裁縫特志者の爲めに設け隨意科として國語、習字、算術、禮法、家政、生花、茶道、編物、刺繡、教育學等を教授し智徳を涵養し以て國家の良母たる資格を有せしむるにあり校主大長氏は元本縣技手を奉じ平素教育に心を傾け我國女子教育の普及せざるを慨し斷然其職を辭し當地よ來り市役所技手となり本校を創設し校主となりて傍ら該校監督の任に當れり校長には氏の夫人久田わき子全校顧問囑托教授は明治法律學校を卒へ後ち本縣會議員の名譽職を務めし某氏あり花生の教授は今

村實之助氏より飯盛やす子刺繡編物茶道を麻生なつ子裁縫禮法を擔當し何れも熱心懇篤に教鞭を執れり校長わき子は資性温良恭謙として頗る熱心の聞へあり曩きに長崎玉の浦女學校を卒業せり子は女子裁縫此振はさる嘆し長崎女子裁縫學校に入り修業乃後尙其奧技を極めんこ奮然上京し有名なる渡邊裁縫女學校に入り非常の勉強を以て客年八月修業せし經歷を有す飯盛やす子は佐賀縣武雄の人資性英敏活潑にして奇才に長す嘗て東京職業女學校に入り甲科を卒業せり麻生なつ子は性敦厚寛和として頗る教育に熱中す嘗て東京渡邊女學校を卒業し久田校長とは同窓の友なりこかや本校は佐世保唯一の女子教育機關として創立以來日尙淺く僅か半年の間に於て頗る隆盛の域に進み現生徒の數百名以上に達せりこ云ふ將來の繁榮期して俟つべきなり過般市内高砂町六番地市役所通の家屋を買受け校舍を充て大に改修を加へ寄宿者の便を計れり今左に本校教程の梗概を記して讀者の一察を資せん

本校教程を本科、速成科、高等科の三種に分つ本科……初學者の爲めは設くるものよして二ヶ年を以て卒業せしむ

速成科……普通裁縫を修業せしものにして補修せんが爲めは設くるものよして生徒の技倆より六ヶ月以上一ヶ年以下に於て卒業せしむ

高等科……は裁縫教員志望者又は同等乃裁縫を修めんとするものゝ爲めに設けたるものよして高等科程度表に依り和洋服裁縫を教授し生徒の伎倆に依り六ヶ月以上一ヶ年以下に於て卒業せしむ

但教員志願者は隨意科中乃國語教育家政習字等兼修する者こす

授業時間……午前八時より午後四時迄こす

但し前項の時間は時宜に依り伸縮するをゆるべし

◎質商松尾良吉君……君は安政四年五月佐賀縣下有田町に生る幼よして父母を失ひ故ありて阿兄乃家に居る十六歳實業志し上京し身を礦山業を營み居る同縣出身某方よ投じ實業上乃研勉をなす居る事四年よして歸郷し伊萬里阿兄の家に留まる君二十歳の時阿兄よ向ひ獨立の商業を營まん事を請ふと切なり阿兄其意を容れ

て之を諾す君躍然として有田町に至り僅かの資本を求め全所よ於て古着商の開業をなせり君か單獨にして實業を經營するは之の時を以て嚆矢となす當時君資産饒かならず幼年の雇人と共に自炊をなし千辛萬苦をなめ日夜商事は勉勵し後ち吳服反物商は轉業す明治十四年大に感ずる處あり海外渡航を思ひ阿兄定吉氏は謀り全年郷關を出て兄弟手を携へて清國上海に赴き商況を視察せしは事心違ひ滞在一箇月にして歸國す當時我邦より彼の地は渡航し居るもの僅かに男女百名は過ぎざりしと云ふ全十九年佐世保に鎮守府の設置せらるゝを聞くや吳服反物商を營まんとて當地は來りたるも事情意乃如くならざるも乃ちりて空しく歸郷せしも君は先見の明あり佐世保が有望の地たるを看破し歸郷するは臨み田地若干を買ひ置き後ち茫茫たる蒼田(現住所)を埋め家屋土藏を建設し二十年再び佐世保に來りて質屋業を營む二十五年暴風の爲め吹き破られたるを以て更らに改築し以て今日に至る君が公義心は富み實業に熱心なるは市民一般の知悉する處にして其事蹟頗る見るべきものあり就中去る二十六年の如きは公衆の便利を謀からんが爲め多大の費用

を擲ち佐賀縣有田を基點とし彼杵、川棚、嬉野、武雄、祐徳院、伊萬里、唐津、佐世保等の各地は通する路傍は堅牢なる石材を以て指導標を建設せしが如き且つは佐世保停車場設置は際し率先して二百有餘坪の所有地を寄附せしか如き其他社寺學校等公共事業は盡瘁されし事蹟少なからず君天資温厚篤實にして慈心深く頗る先見の明は富む其名聲は赫々たる豈偶然ならんや

◎雜貨商市丸政助君……君は明治九年五月佐賀縣東松浦郡濱崎に生る幼より學を好み夙に實業の志あり明治三十三年當地濱田町四十三番地に移住して和洋雜貨商を營み傍ら商業の趨勢を視察すると半年佐世保の商業たる唯單に鎮守府若くは軍艦等に倚り供給をなし僅か佐港一局部の取引は過ぎす其能くならずなきを看破したり偶々海軍部内に佐賀縣人の組織に係る同好會あり君は部内一二の有志は計り廉價を以て全會員は日用品供給の特約をなせんことを請ひたりしは非常な賛成を得三十四年始めて同好會は氣脈を通じ其特約をなすに至れり君性快豁にして頗る理想は富み實業を尊び商業取引上正確を旨とするを以て全會は勿論一般の信用を

受け商業益々熾んんに至れり君未だ少壯なりと雖理財は長し議論亦頗る聞くべきものあり而かも義侠は富み常は心を教育其他公共の事業に寄せ從來私費を投じ公益を計りたる功蹟少なからず近頃海軍々属の組織せる庚寅會あり同好會と共に君か樓上を以て俱樂部に充つ君常に之れが幹旋をなせり客年初めメリヤス製造所を松浦町に設け海軍艦團隊、要塞砲兵聯隊、福岡及大村聯隊乃御用達をなせり爾後其業務益々擴張の域に至り客月濱田町本通りに工場を開設し目下職工三十餘名を使役し日増は盛況を呈するに至る佐世保に於けるメリヤス工場の開業は君を以て嚆矢となす君は尙ほ之を以て足れりこせす各種の方面に向つて業務擴張の計畫をなしつ、ありと云ふ君が少壯實業家として佐世保に名聲ある決してゆわれなきにあらざるなり

◎金物商齊藤松之助君……君は縣下北松浦郡山口村に生る明治二十四年三月佐世保に來て濱田町に住し金物商を營む君は實業は熱中し勤勉能く其業を勵み大は信用を博したりしが遂は海軍御用達となる客年議員の撰擧あるや推されて市會議員となる爾來孜孜精勵市の爲めは盡瘁する處渺ならず君天資機敏篤實にして果斷は富み又俠義を以て鳴る君が社寺學校其他公共の事業は私費を擲ちたる功蹟あるは一般が認識する處君が今日の隆運を來たし嶄然頭角を顯すに至るもの豈故なきとせんや君の如きは將來實は有望の士と云ふべし

◎洋酒店今泉袈裟太郎君……君は明治十一年三月佐賀縣佐賀郡寺井津に生る幼より實業は志す偶々感ずる處あり海外の商況を詳かよせんと欲し二十九年君が十九歳乃時奮然渡航歐亞に諸國に遊び各種の商業を視察し得る處あり二年乃後歸朝す三十一年佐世保に來り濱田町に共有商會を創立し和洋酒の販賣をなしたるも時至らすして失敗を招き翌年三月全商會を解散して北海道に赴き全地方の商況を熟察す居るは二年餘君内外商況其心は自得す三十三年八月再び佐世保に來り本島町は和洋酒店を開きたるが開業の當時より非常の好評を博し日増に盛大は赴き業務の擴張は自然に移轉の必要を感じ客年春常盤町本通四ツ角は轉居せり君が熱心と經驗と確實とは相俟て一般の信用を受け海陸軍の御用達をなし市の内外に卸販賣を

なせり君性沈着にして果斷に富み實業熱心の溢るる處君が今日乃隆盛を來したる所以にして將來佐世保實業家の中堅となるの人君よあらずして誰ぞ君夫れ旃れを勉めよ焉

◎實業家長齋秀夫君……君は明治三年十月本縣北松浦郡星鹿村に生る家世々宗教家を以て名あり君天資銳敏幼より學を好み普通學科を修め後ち三年間佛學研究せしも感ずる處あり郷里小學校に教鞭を執ると殆んど五年二十四年君二十二歳乃時始めて實業を志せり由來星鹿村は麥類産出多き土地なるに拘はらず需用多き麥麵他邦より輸入するもの年々其多きを加ふるは全く實業不振の結果なり君大に慨する處ありて自ら麥麵製造の傳習をなし多數の職工を使役して熱心以て斯業に従事せり當時麥麵の原料たる麥粉は水車によりて製造せしに夏期乃候に至れば減水乃爲め事業の擴張を圖る能はず種々苦心し居る中偶々東京に麥粉製造器械の專賣品あるを聞き喜んで直ちに器械を注文をなせしに不幸詐欺同様の奸計に陥り器械は遂に到來せず且つ一面は失敗を招き財産を名譽を水泡に歸せしめ是より幾

多の困難は君が身邊に蝟集して一頓挫を來せり然れども失敗は成功の母なり君は君が平素唱導する處なりしが此の失敗は却て志氣を鼓舞振作せしむるの材料なり家財は悉く賣拂ひ眼を海外の状況に注ぎ布哇渡航を企圖し自ら勇を鼓し氣を勵まし二十六年初め上京せり既にして其準備も整ひ將に出發せんとするに際し不幸病魔の犯す處となり療養する事半年携帶の旅費は悉く使ひ果て身体の衰弱は容易に回復するの見込なく郷歸するの外他に詮術なきにより、意を決して暫く郷關に靜臥し時の至を待てり暫くにして病癒も稍や輕快し赴たりしが君が意思は茲に再び奮ひ大に鵬翼を遠洋の漁業に伸さんご欲し漁業熱心の有志を募集したりしも地方の弊風として冒險事業を恐れ同情を寄するもの少なく従つて資財を投ずるものなく當時君の行動を目して狂と呼ぶものあるに至る又決して怪しむ足らざるなり此の時、當り君乃心事果して如何追想する毎に感慨湧出止まらざるも乃あらん君は時勢の非なるを悟り憾みを吞んで機會の至るを待ちつ、ありしも不幸再び病床に呻吟せり其病延びて二十九年春に至り漸くにして快方し赴きたるを以て

て佐世保其他各地に商業視察の爲め奔走せり君は前途遼遠の望みを抱きつゝ魚類の仲買をなし一時口糊を凌ぎ居たりしも知人の勸誘によりて一の水車業を營めり時恰も炎暑灼々焼く如き三伏の候君自ら車を挽き粉骨碎身終日孜孜經營怠りなかりし結果地方の信用を得業務隆盛に赴きつゝありしが何の不幸ぞや大水の爲め又もや損害を蒙り且家財は悉く流失するの災厄に遇ふ其困頓疲憊の狀は殆んど言語を絶せり君再び佐世保に來りしも適當なる業務なく糊口は苦しむのみなるを以て暫らく身を造船廠に潜む居る事數月全所を辭し造船部に日用品供給の特約をなさんご日夜孜孜奔走中財主旗島氏乃同情を得二十九年十二月共立商會なる一小店を開き雜貨の販賣を業とす翌三十年乃初め斯業を廢し海軍用達は從事専ら石炭販賣並運搬業に從事せり三十二年に至り合意の上商會を解散して獨立の營業となし唐津、相知、炭坑と海軍運搬用の石炭販賣の特約を結び海軍需品庫より各船艦への石炭搭載を請負ひ一面は石炭の販賣をなし北清事件並は大演習施行中の如きは君營利の頭胸を擲つて國家的觀念を以て其業を勵みたりし故に漸次官衙の信用を得

三十二年頃迄は一日運搬力四百噸内外なりしも現時に至りては僅に三千噸以上を昇り加之土納炭軍用人夫請負の主力を握り又石炭運搬用は小蒸氣船を有し大は機敏の働きをなせり而して君が地方事業發達に緒を開きたる一例を擧げんは曩きは北松浦郡江迎地方出張の際該炭坑業者が文明の利器を用ひず殊に運搬に勞力の多大を見て君は坑主に向つて軌道運搬の利を説き且つ多額な資金を投し以て江迎鹿町に輕便軌道を敷設せしめたる事あり君は業務擴張の結果客年初め濱田町五十番地にある壯麗なる洋館を買収し移轉現に此處に住せり又目下一の有望なる炭坑を譲り受け且つ佐世保倉庫株式會社の中途解散するを見るに忍びず君獨力之を引受け尙進んで有志數名を計り會社組織にて佐世保に確實なる倉庫を設置せんごし目下熱心盡力中なりと云ふ勇將の下は弱卒なし君の下は君を輔翼する支配人下條氏を始め城島、吉岡、最上、山口、の諸氏あり何れも熱心な業務を執れり就中下條氏の如きは學識經驗並に備はり市内屈指の人物と稱せらる氏は明治四年北松浦郡南田平村に生る初め小學校を出て尋常中學を卒業し後ち崎陽に遊び柴田英語

學校を卒へ爾後八箇年間長崎米國商館に入り米國人よ就き英語專修傍ら商業も從事す二十九年商館を辭し稅務屬となり居る事年餘後ら米國人の主管長崎商館も事務員となる事數年三十五年五月以降長醫商會乃支配入となり業務に鞅掌以て今日に至る商會の隆々たる盛譽豈偶然ならんや

編者曰君は公義心に富み實業熱心家として一般の信用あるもの平素義侠を以て世に立ち能く情實を諒得し能く人を救濟し能く下を愛するを以て君の徳を慕ふもの多しとかや君は百尺の竿頭常に精神一到何事不成の語を掲揚し最も困難なる事業を経營し素志を貫徹成功するを以て最大の快樂となすと云ふ其抱負誠に君が實業界に斬然頭角を露はし今日の盛況を致したるの因ならずとせん哉

◎旅館森田福次郎君……君は嘉永五年正月を以て長崎市紺屋町九番戸に生る幼よして實業も志し米穀質屋兩替等種々の業を營み幾多の經驗を重ね明治十九年佐世保に鎮守府の設置せられんとするを聞くや君は單身佐世保に來りたりしが當時佐世保の情況は元町に三十餘戸の人家ありしのみ他は悉く蒼田荒野にして僻陋孤村寂寞を極めたりしが明敏なる君は將來有望乃地なりと覺り島の地船山某の家屋

を借り回漕店を開きたりしが先見空しからず次第に繁榮を來すも至れり爾後桑田を埋め(現住所)結構華麗の大家を建築して回漕業及旅館を營めり試みよ佐世保川を下りて松浦町に至れば鶴谷回漕店の旗幟中空に飄へり左に折れて中通に石門儼として華燈燦なるの處は鶴谷旅館と記せる三層乃高閣即是なり室内の燈火は晝を欺き玄關は大鏡を装へ幾十の客室は清麗にして風光佳絶食品精良數多の侍女は叮嚀懇切なり浴場の廣き清水は滔々として龍口より噴注し瀟洒愛すべし客室には電鈴を装置し食膳には山海乃珍味を供へ寢具亦清淨にして最も衛生に注意し佐世保第一の旅館となす君性沈着にして義心も富み各所神社佛閣其他公共事業も自ら進んで多額の寄附をなし其功蹟擧げて數ふべからず賞品賞狀積んで山を爲し質朴の狀言語も溢る眞に實業家の龜鑑とや云ふべし

◎用達商水村仁三君……君は安政二年熊本縣飽託郡荒尾村に生る幼よして實業も志し或は魚商となり或は炭坑事業も或は瓦商を開業する等幾度か躡きて幾度が起き千辛萬苦を嘗め盡し實業上頗る經驗を得たり明治二十七八年日清戰役の際し佐

世保も移住し土石商を営み瓦石灰等の大販賣をなし一般の信用を博したりしが三十四年同業者の組合成るも及んで君は推されて組合長となり其事務を所理し盡瘁せし事渺ならず三十二年に至り傍ら土木建築受負業に従事し海軍用達を務めたりしが爾來熱心も其業も勵みたるを以て鎮守府其他一般乃信賴する所となれり君性淡泊果斷に富み而かも慈心深く多涙多情能く人を救濟するを以て君の徳を慕ふもの多し君が公共事業に巨額の金員を寄贈し盡瘁せし事蹟擧げて數ふべからず其筋より木盃其他賞状を受けたる事亦數次なりき君今湊町六十五番地に居住し盛大に其業を勉む君が佐世保實業熱心家として人望ある亦宜ならずや

◎土木建築受負業須古高司君……君は安政元年十月佐賀縣佐賀郡尼寺村に生る家世々門閥家(六百石着座)にして八歳の頃佐賀市北堀端成富兵庫守孫成富禮太郎氏の近習となり傍ら文武を練習し能く禮讓を重じ只管勤勉忠誠なりしを以て當時鍋島閑叟公の御側役成富氏の信寵する處となりて全家の養子となれり君夙より實業を志せしが大に感ずる處ありて養父と共に北山、金立村、山林の開墾事業を企て農事も心を寄せ旁ら樞の實を碎き芋を原料として葛を製し舊主鍋島直大公に獻納せしむ非常なる賞賛を得養父と共に金若干を下賜せらる明治九年佐賀役起るや養父は舊主の殘務を取扱ひ君は愛國六番小隊入り時の司令官吉村喜八氏の指揮の下に三根郡天慶寺村、江美村、六田村、宅田村、目原村、田手村、神崎宿境原村の各村より連戦し小隊過半戦死せしも君は不幸生存を得て歸る當時佐賀市は戦後經營維れ日も足らず大に衰頽を來し爲めに舊臣乃困難に陥りたるも乃少ながらざりしかば君は養父と共に舊臣を救濟せんとするの念轉た禁ずる能はず種々考案の結果殖産興業に如くはなしと舊主も乞ひ數萬圓の資と舊城内の土地を借用して開拓し養蠶と織物業の開始をなし徒食せる舊臣をして悉く就業せしめ大に公益を謀りたりき明治十年養家成富家も男子出生せし爲め双方合意の上離婚をなし須古家を相續する事とはなりぬ明治十六年公債の下附を受けたるを以て資を投して石炭業を営み小城郡多久村裏遠見山炭坑を引受け専心之に従事せしが當時炭價非常に低落せし爲め意外の失敗を受け又如何ともなす能はざるの境遇に陥りたるを以て君は斷然

去て長崎に赴き一時看守を奉職せり明治十六年に至り佐賀縣養父郡旭村字下野親戚戸主死亡に付き后見人となるの已むを得ざるに至り職を辭し歸郷し養蠶製糸の業を起し各地に巡行して斯業乃國益なる旨を説き日夜孜々勸誘し努む尙久留米厚生社長鹿野準次氏と謀り米國直輸入を企圖し九州聯合共進會各所より於て南糸織物賞状を受領せり明治十八年に至り蠶糸準則發布せられ蠶糸業組合の組織せらるゝに際し君は信用を得て基井三根養父三郡の組長に撰擧せられ専心之に従事し熱心と奮勵を以て斯業の發達を計りたりしも時未だ至らずして再び失敗を招きたり君は斷然去て大坂に赴き安治川水上警察署に於て巡查を奉職し商船調査係を命ぜられ二十二年東警察署に轉勤せり偶々海軍中將牟田司令長官横須賀より吳鎮守府に轉任せらるゝに際し君は職を辭し吳に隨行全地へ滯在中九鐵會社設置せらるゝや熊本土木會社長有間源内技師伊東隆三郎此両氏は從ひ土木業に従事せり君が斯業に従事する此時を以て始めとす爾來同業者阪吉太郎と共に筑前遠賀郡(戸切)宗祿郡赤間熊本縣(立山村)福岡縣(大牟田)等の鐵橋架設工事に従事し全二十三年より

肥前嬉野驛に轉住し全所温泉會社株主となり全社業務擔當員に撰擧せられ後ち會社法發布に際し創立委員に撰まれ傍ら杵島郡橋村大字長島野田勘四郎の管理を委託さる三十年十一月佐世保に移住し土木建築の請負に従事し陸海軍乃御用達をなし一般の信用を博し居れり君資性沈勇豪膽にして寡言義俠に富み公共の事業に盡瘁せし事少なからず殊に北清事變に際しては卒先金員を寄贈して賞状を受けたる事あり君は曩きに市内名切免千二百八十六番戸に壯大なる家屋を新築現住して旺ん土木建築請負に従事し頗る隆盛なり

◎用達商森永泰兵衛君……君は鹿兒島縣下の人鎮守府開廳の當時より佐世保より來り海軍御用達を務め傍ら煙草商を管なみ尙土木建築の業をなし頗る信用を博す君が經歷に付ては更ら後編に詳述すべし

淺からぬ、ろつくしよかきつめし

文は千ひろの玉藻なりけり

佐世保

澄子

◎福竹商會雪山文四郎君……君は縣下東彼杵郡福重村に生る明治二十七年福竹株式會社の創立せらるゝ、及び君推撰せられて其支配人となり大に信用を博す後三十年に至り福竹銀行に改稱せり總取締役は全郡全村西川精一氏を推薦し業務日に月を旺んなり氏は多年警界に在りて福岡、大分、兩縣の警察署長の職を奉し或は新聞記者となりて世道人心を啓導して社會に貢献せし所尠なからざりし今や名望を擔て現職を保てり氏の名聲隆々不日必ず本縣逐鹿界に月桂冠を戴くの人資性寛容篤實而かも義侠に富む故に其徳を慕ふもの多し客年八月當市に福竹商會を設け海陸軍の用達をなし諸物品の上納及販賣專業を營む雪山君撰はれて其主任となり着實熱心の聞へある青木龍三郎君其業を助け業務大に熾んよして目下松浦町三十七番地に移轉す主任雪山君は從來屢々失敗を招き幾多の經驗を重ねたる人然れども此失敗は君の志氣を鼓吹するの興奮劑となりて今日の立脚となり尙益將來に勇飛するの基礎たるものあらんと思す

◎藥業家藥劑師溝上松次郎君……君は安政六年三月佐賀縣下有田に生る家世々藥種商たり明治十八年長崎に遊び森永伊吉氏に就き理化學を研究し傍ら醫學校に入り後ち藥劑師試験に合格し二十一年歸郷藥種業を開く君篤望家にして地方の信頼を得町惣代町議員其他公共事業に盡力少なからざりしも感ずる處あり臺灣に至り藥種店を開きし事ありき三十四年佐世保に移轉し居を全市六十八番戸とし本業を營み調劑に従事せり君温厚篤實にして其名高し

◎用達商大塚庄次郎君……君は長崎市引地町に生る父君を清兵衛と云ひ筑前清田村に人家世々大庄屋を務め郷黨の重なる所となる君は其五代なり幼より實業に志し或は回漕業となり或は石炭商となり實業上幾多の經驗を重ね二十六年佐世保に移住し一意専心商業に従事し三十年に至り海軍の御用達を蒙る現下高砂町二十四番地四ツ角に於て開店醬油の製造販賣をなし漬物乾物等の納入を爲す君性謹直にして實業熱心業務頗る繁榮なり是れ全く君が正確なる取引正直の志操即ち今日あるを致したる所以ならん乎

◎藥業家富永定八君……君は明治十一年九月佐賀縣西松浦郡大川内村に生る家産稍豐饒なり父を外之助と云ひ元陶器製造業を營み精巧を以て其名高く鍋島侯の御用焼を務め特々信用を受け嘗て洋人某が陶器製造工師として有田より來りたる時の如きは拔擢せられて其教を受けたるの人君は其四子たり十四歳にして伊万里藤田藥店より勤む君は十年一日の如く熱心誠實に能く業務を勵み稍や藥業の一斑を知得するに及び獨立藥店を開業せんと斷然全店を辭し佐世保より來る時恰も北清事件に際し商業最も旺なりしを以て君は此機逸すべからずこなし米穀及種油等供給の必要を看破し急々郷里より歸り貳千餘円を以て悉く之を買ひ再び佐世保より來り販賣せしが君の先見空しからず巨額乃利を得るに至れり君益々進んで是れに従事せんと勉めたるも父母の勸告によりて中止し松浦町二十一番地より於て藥業を開く爾來夜々能く業務は熱心し確實は取引をなすを以て日増に繁榮し赴くに至れり君は益々其業を擴張せんとして客年九月本島町四番地を買受け移轉せり君は尙進んで物品委託の便宜を計る乃目的を以て鹽濱町より堅牢なる倉庫を建築せり君性質温良篤實にして佐世保藥業家中屈指の人物として將來有望の材

◎土木建築請負業林喜久太君……君は弘化三年佐賀縣杵島郡龍王村に生る幼より學を好み性温良恭儉にして村内外人望あり明治七年より全郡深浦村人民惣代を勤め明治九年より地租改正に従事す全十一年山林原野地主惣代に撰擧され或は村會議員となり或は村吏となる等名譽ある職を奉じ生産的事業を奨勵し郡内乃土木係は撰擧せられ公共の事業は奔走せし功蹟擧げて數ふべからず君は少しく感ずる處あり一時炭坑業に従事せしが不幸失敗して土木受負業に轉し後ち回漕店を營みたるも時至らずして再び失敗を招き終に友人に勸誘よりて西彼杵郡書記となり節を折りて時の至るを待つ後ち煉瓦の必要を感じて之が製造に従事せし結果良好ならず時偶々二十七八年戦役の際に佐世保より移住し再び土木建築請負業に従事し爾來夜々奮勵幾多の經驗を積み目下盛んに其業を營む君は事業熱心家にして能く部下を愛するを以て君乃徳を慕ふもの多く而かも志氣最も正確にして信用あるは受負人中屈指の人勢力隆々一般の視線悉く君に集る

◎石鹼製造業宮地金吉君……君は文久六年九月廣島縣尾の道市に生る父を徳兵衛と云ひ吳服商を營む長ずるに及び長州備州兩侯被服銃劍の御用を被り其名高かりしが失敗頻りな續き家産を傾くるに至れり君は父倒産の跡を承け十七歳の時古着商を營み傍ら養蠶業をなし絹織物業を始めたりしも失敗を招き斷然中止せり後ち石油製造業をなし若くは荷受問屋をなしたるも皆な失敗に終りたるを以て一時糊口の資を得んがためは氣船會計を務めたるも平素獨立の精神は胸間を蟠りて制し難く遂に他乃信用を得百石乃和船を製造して獨立の商業を營むに至れり然るも不幸なる哉或る日疊表を搭載して阿波徳島より紀州に航行中鳴門の沖に於て暴風は遇ひ逆捲く山の如き激浪の爲めは哀れ顛覆するの災厄は遭ひ又如何にも爲す能はず進退維れ谷まり斷然意を決して上京せん志し五圓金を懐にし神戸に至りしは早や懷中無一物身の倚る處なく神戸海岸を徘徊せしに圖らざりき知人米國テレン商會店員岡本某は逢ひ全社は雇役せられ終り物品保管主任となりたり君が熱心勤務は商會の信用を得て次第は幸運な趣きつゝありしに不幸病魔乃犯す處となり

已を得ず歸省療養の後再び氣船問屋を開業する事殆ど三年天時を與へず又もや失敗を招き三十二歳の時始めて長崎に赴きぬ君は災害頻りに加りて困頓盡は昆布を擔ぎ行商し夜は露店を出して辛くも日を送り孜孜吃々日夜拮据の結果は遂に夜市の取締をなすに至れり偶々阿兄仙之助君は伊崎屋佐世保支店に在りしかば君は其請ひに應じて二十六年佐世保に至る居る事年餘時恰も日清戰役後な當り奮て渡清し大連旅順威海衛金州等の各地に於て海軍酒保物品供給に盡力し二十八年歸保せり時に阿兄歸國せしを以て君は伊崎屋の跡を引受け獨立して石鹼製造の業を始め將さに盛ならんとするに際し三十四年三月夜祝融の厄は遇ひ家財悉く烏有に歸し一頓挫を來せしも屈せず卅四年島瀬町憲兵屯所隣に移轉し石鹼製造をなせり之より先き君は海軍の御用を蒙り居るを以て益々奮勵し日夜寢食を忘れ心膽を凝し研究をなしたるに結果今や其品質は善良にして比類なしと云ふ各艦團よりは特出品質佳良なる證明書を與へらるゝ等君は大に面目を施し名聲日に隆盛な趣きたり依て益々業務を擴張せんが爲め過般家屋を一大改修を加へ製造所を増築し現今一日

数千本を製造するの盛況に達し殆ど輸入品を壓倒するに至れり君性淡泊にして交際に富み公義心は長し其實業上の談は頗る耳を傾くるも乃ち有り莞爾たる面貌と愛嬌を以て人に接するの態度は能く顧客をして親しましむ君か名聲の世は布く眞は羨むべし

◎土木建築受負業江原源之助君……君は慶應三年六月佐賀縣西松浦郡有田町に生る家世々陶器製造を業とす父を芳太郎と云ひ陶器業は熱心而かも美術的工業は精しく夙に名聲有り君は幼より父の業を繼ぎ明治二十一年より數年間は大坂以東の地は有りて其販賣を爲せり偶々日清戦役は際し君感ずる處あり佐世保に來り熟思百考の後方針を轉して土木建築受負業に従事するところなれり爾來鐵道工事或は砲臺工事若くは土木建築は幾多の經驗を積みたるの故ありて一時歸郷三十三年十二月再斯業を以て今日に至る君性沈靜寡言にして義俠は富み頗る信用あり目下市の工事に着手し熱心は精勵せり

古への文乃鏡に照されて今の業をば磨くべきなり 佐世保

土部祝山

◎回漕業山下楚代太郎君……君は明治元年八月本縣東彼杵郡日宇村に生る明治十三年早岐村岩永回漕店に店員となる當時早岐、時津間に於て汽船の競争あり君は身を犠牲に供し忠實精勤したるの結果其功空しからず主人の信認を受け全二十五年佐世保に岩永支店を置き佐世保、大坂間の汽船航行を開始するや君は其主任たり全二十七年日清事件は際し港灣汽船の航行を禁せられたるを以て一時面高に支店を移して日夜業務は鞅掌す全二十八年八月航行禁止を解かれ佐世保濱田町に於て開業全三十年六月に至り君は獨立して湊町海岸通に同業を營み大に繁榮せり三十一年二月下京町三番地戸の尾橋側に移轉し旺んば斯業を勵み一般の信用を博し居れり君が汽船航行の開始は盡瘁し交通機關上に致したる功績大なりと云ふべし君性温厚篤實公義心に富む君が實業上の談片は頗る聞くべきも乃ちあり同業者中屈指の人

◎藥店小笠原吉太郎君……君は安政三年十一月肥前南鹿島に生る資性沈靜寡言にして頗る果斷は富む幼にして漢學を修め後ち鹿島商會に入り藥業を究む折柄藥舖

開業試験の發布あり茲に於てか君鹿島中學に入り理化學英學等を修め又醫師久布白藤太に就て藥劑學を修め免許狀を得然れども君は從來免狀の恃むべからざるを悟り身を藥種業に委ねんとするの心止まず偶々明治十九年佐世保に砲臺を設置するや君は爲以く時來れりと即ち藥劑師松田孝吉氏を傭聘し佐世保に藥店を開く初め君が佐世保に轉住するや鹿島商會店長の名義を以てしたり後ち海軍御用を命せられ明治二十三年に至り該店を君の名義となす蓋し是れ君が既往の勞に酬いんが爲めなり君藥舖團體の必要を感じ先づ藤津、杵島、小城、西松浦、東彼杵の五郡の團體を勸成し遂に藥劑會を組織す後ち獨立して佐世保藥業者同盟會を起し君は其會長たり君は公共の事業に奔走し又貧者の爲め義捐を擲ち賞狀賞盃を受けたる事尠ならず君が令息達次郎君は曩きに第五高等藥學校を卒業して藥學得業士となり目下父の業を扶け居れり佐世保藥業家中屈指の人物にして將來有望の士なり

◎吳服商森田源三郎君……君は幼名を山下源三郎と云ひ慶應三年四月長崎市西上町に生る幼にして不幸而親を失ふ本木、笹山の両先生に就き學を習ひ十三歳の頃全市安中半三郎氏の家へ養はれ商業見習をなす居る事十數年一日の如く熱心勤勉よして他店員の模範たり後ち親戚森田家を繼ぎ米穀商を營むること數年時恰も日清事件の際に伯父森田福次郎氏は既に佐世保に於て回漕業を營み傍ら鎮守府の御用達を受け業務繁忙を極め居るよこして明治二十七年四月來保伯父の業を扶け海軍用達の主任となり日夜熱心誠實に業務に勉勵し一般の信用を博せり三十二年分家獨立して目下佐世保市常盤町三十六番地に洋反物商を開業し主として露國浦汐更紗の特約販賣に傍ら小學校教科書乃發賣をなし近來大に盛大を見るに至れり君性温良よして熱心誠實の人

◎藥業家馬渡庄三君……君は佐世保の青年藥業家中勉強家にして實藥熱心の人なり幼より實業に志し佐賀縣下伊萬里藥業家吉富氏の許にあり後ち佐世保小笠原吉太郎氏の店員となり専心業務に勉勵し漸次藥業の一斑を知得し獨立自營の目的を定め卅二年現時の處に開業し屋号を敷島藥館と唱へり然れども少壯にして未だ開業の日も深からず爲めに同業者間の信用も乏しかりしが君が熱心の結果は追々世の知る所となり今や業務日々隆盛に向ひ同業者中屈指の藥業家となれり現今京坂の同業者も君の店頭を訪問するもの多しとかや年今二十七君は又公共的精神に富み藥業に關し盡瘁少からず目下佐世保藥業同盟會の幹事及

ひ濫賣船正員を務め居れり夫れ藥業界の前途は尙遠きなり君が手腕を顯はすべき時期必ず到来すべし君夫れ游れを勉めよ

編者曰君は萬難に處して屈せず幾ます忍耐以て業務を勵む誠は後進の龜鑑と云ふべし

◎獸醫松尾稔君……君は明治二年縣下大村に生る二十歳の時長崎獸醫學校を卒業成績頗る良好なり廿三年二月佐世保に牛疫流行するに當り豫防員として大に功績あり三十一年四月長崎獸疫検査官を奉す三十三年十二月佐世保宮田町に藥業を開店し君之か管理をなす君は數年前より佐世保警察獸醫を勤め現に其職に在り性沈着温厚として一般の信用あり

◎藥業家岩松熊吉君……君は明治二年八月佐賀縣小城郡三ヶ月村に生る明治二十八年佐世保に來り濱田町九番地に移住し盛大を極む性温良として業務熱心藥業家中有望の人なるが詳細の事歴に就ては後編に記することあるあらん

◎土木受負人副島政十君……君は佐賀縣杵島郡住吉村の人幼よして學を好み後ち人望により佐賀縣會議員に推撰せらる後佐世保鎮守府の開廳に伴ひ當地に移住して旅人宿魚商質商等をなせり今を去る數年前土木受負業に轉ず官廳に信用あり昨年村制より一躍して市制を施かる、や市民の輿望を荷ふて市會議員市參事會員となり爾來市の爲に盡す處少ならず性坦白直言直行市内一流乃人物なりと稱す君か今日の勢力を得たるは蓋資性の然らしむるにあらざる歟

◎吳服商新居末吉君……君は肥後熊本の人他家々吳服商を營む明治二十三年佐世保に來り天満町中通に住し同業を始む全店の反物類は凡て東京より仕入をなし品質良好として大に信用あり店員數名日夜顧客集繁盛を極む聞く本店を横須賀に設け居れりと天満町は其支店なり君性温良として沈重の体度あり頗る世人の信する處多しと云ふ

編者曰君は佐世保吳服店中屈指の人記事材料蒐集中君商用を帶ひ上坂中なるを以て遺憾ながら詳細の事歴は後編に記すべし

◎下駄商荒木幸平君……君は熊本西阿彌陀寺の人十一歳よして不幸父を失ひ十三歳の時某吳服反物商に預けらる長するよ及び聊か感ずる處ありて單身郷關を脱し

て長崎より赴き永見呉服店に勤む居る事十數年一日乃如く正直忠實にして主人に愛せられ信頼せらる二十年六月永見分店を佐世保に開くや君は其支配人たり是れ君の功績として店主永見氏が君に對するの報酬なり昨年三月東京より各種の下駄龕足袋等の特約販賣をなし佐世保唯一の商店たり職工を東京より雇入れ尤も美術的信用的に努め保存確實精巧無類の良品なりこの評聲頗る盛なり性質機敏商業熱心家として人々接するは温容を以てす頗る難得の人物なり

世につれて新らめづらしや大鏡

佐世保の業や今うつりけん

佐世保

高取箱快

◎紙巻煙草製造所……東京鎮西商會佐世保製造部は佐世保有志の共同に成る純粹内國生産煙草を以て原料とす口紙共に精撰を盡し多年の經驗を以て精磨せる熟練の職人を雇入れ嚴重なる監督の下に製造し普通有振れたる物品とて其趣を異にし香味と云ひ品質と云ひ其他衛生に適し他は比類なき良品として名づけて「やましろ」及「干城」と云ふ製造所を設けて以來日尙淺きも係らす一般の好評と確實の信用を博し頗る盛況を呈せり

◎料理屋業中九久太郎君……君は熊本の人幼として實業に志し各種の業を管み明治二十三年佐世保より料理屋業をなす現下天満町七十九番地に住し頗る繁榮を極む樓内清風を納れ麗月を招き加ふるは衛生上最も適切にして而かも懇切丁寧一般の信用を受け就中紳士紳商の愛顧を受く君性温厚篤實として義俠に富めるの人

◎シンガー製造會社……本年五月佐世保市港町三十七番地に佐世保分店を開く木岡救八君其主任たり全店は裁縫機械一切の販賣をなし大に一般の便宜を計り月賦其他便宜の方法を以て販賣し且つ機械使用法の如きも店内熟練のもの有りて無報酬を以て教授する等普通有觸れたる店とは大に其趣きを異にするを以て開業日尙淺きにも拘はらず大に信用を博し頗る繁昌なり

◎裁縫同業組合……佐世保に於ける裁縫同業者は協同一致を旨とし諸般の便宜を計り同業者の信用を高かめんと目的にて本年七月五日を以て組織會を開けり因みに本會組織に就てはシンガー會社佐世保分店主任木岡救八君幹旋の勞を執り同業者間に贊成を求めたる結果なりと云ふ今發起者の人名を擧ぐれば

松田榮太郎、橋本駒太郎、井上友次郎、本森保、中菱洋服店、鷺見洋服店、山口吾一

◎洋服店十一屋……佐世保市相生町の四ツ角に透明なる硝子を以て構造せる洋服店あり之れ主人松田氏が朝夕熱血を注いで以て製造し世上に普く好評を博し居る洋服店なり十三年前長崎市江戸町より當地に來り盛に業を營む六年以前東京芝區在の榮太郎君養子となり家に入る爾來父を補け大に業を擴張す氏は十一歳の時より此業に従事せりと云ふ七年以前唐津裁縫學校の教員たり精巧の仕立妙技の裁縫見るべきものあり専ら海兵團の御用を蒙る店員數名日夜休憩の餘暇だになきの繁盛は以て同店の如何に信用あるかを知らるに足る榮太郎君年二十又九性質温厚にして正直其勤勉業に超ゆ

◎藥業家大串鷹次郎君……君は安政六年佐賀縣西松浦郡有田に生る十四歳小學校を修業し志を實業に立て武富吳服店の店員となり居る事數年所感ありて陶器販賣に従事すること三年傍ら古着商を營る二十四歳陶器學研究の爲め京濱其他の各地を歴遊し二十八歳歸郷し再び有田にて陶器編書附販賣を營む佐世保鎮守府の開設せらる、や君土木業に従事す二十二年歸郷里の信認を受け町會議員に舉げらる偶々有田陶器業間に大紛議起りて容易に鎮定する模様なかりしかば君其間に處して大に斡旋の勞を取り遂に調停するに至れり二十七年日清戰爭に際し再び保石炭運搬事務所員となり土木受負を兼ねしが客年十一月相生町九番地に於て藥種商を營み傍ら海軍用達をなすに至れり君性温厚篤實義心に富み頗る信用あり

◎土木受負業森清一郎君……君は佐賀縣杵島郡住吉村に生る幼にして學を好み神官黒髮良澄氏に就き漢學を修め十五歳の頃より商業に従事す明治九年地租改正に際し村界規定の丈量に従事し西南の役起るや戦地に赴き商業を營む十一年以後壹岐對馬に於て商業を營み多くの利潤を得後、嚴原立神遊廓に於て貸座敷を開業したりしも失敗に終りたるを以て去つて韓國釜山に渡航し爲す處あらんとせ之より先き君屢失敗を蒙りたるの結果に遂に田畑を賣却して負債を償ふに只剩すところ僅かに嚴父の遺志料に過ぎずといふ明治十四年春全縣杵島藤津兩郡聯合し宇治より教師を聘し茶製造の研究を始むるや君亦修業の一人なりき修業の後製茶業に従事せしも到底失敗を回復するの目途なきを覺り全年十月より僅少の資金を以て金貸業を始め頗る利する處あり明治十七年春家屋を新築し全年秋唐津神樂島に組織せる捕鯨大敷組合の一人となり又松尾、中原の二氏と合同して唐津、佐里村炭坑の金主となる全十八年五月大雨坑内に浸水して又もや失敗を蒙り後唐津、大串、高津、寺浦、炭坑の借區を願ひ探炭に従事すること殆んど三年なるも皆不幸の結果に歸せり是より方向を轉して宿屋業を營むの已むを得ざるに至る已にして衛生組長に舉げられ又區會議員村會議員の名譽職に推擧され就職すること十數年其功績少なからず日清戰役に際し君は佐世保に來りて軍夫を募り戦地に送り一面には石炭の運搬を請負ひ人夫長となりて自ら之を監督し後土木工事に従ひ幾多の經驗を重ねたるも時至らすして佐世保要塞砲兵聯隊砂利敷工及交通路開設工事に及もや失敗して已むを得ず家屋を賣却して償却なし爾來致々土木業に従事し漸次回復の機に至らんとするに際し本年二月夜不幸不慮の火災に遇ひ家財蕩盡せり然れども君平素信用厚かりしより知人同業者間に斡旋するものありて本業に従事するを得て官衙の信用以前に異ならむ本年六月海軍省工事の請負に従事するに至れり君性温

良篤實にして精神潔白事業に熱心にして日々自ら工事の監督をなしたるが故に未だ嘗て休みたる事なしと云ふ以て其平常を知るに足る是れ君が名望の隆々たる所以ならん歟

◎**藥業家野田源五君**……君は明治九年十二月佐賀縣杵島郡武雄町に生る幼より學を好み藥學に志す明治二十四年熊本九洲學院に入り後ち外國語學校に轉し獨乙學を修め傍ら理化學、動植物、礦物學を精磨し二十七年熊本藥學校に入學し二十九年三月全科卒業全年五月大坂に於て藥劑師試験に及第し藥劑師の免狀を受く三十年二月佐賀縣武雄町私立病院調劑主任を囑託せられ三十二年二月福岡縣立病院調劑師に任ぜらるる全年十二月佐賀縣武雄町に藥局開設せられ其調劑主任となる三十二年二月福岡縣本病院藥局長に就職し全年十二月辭任全時に郷里武雄に獨立藥局を開く三十五年四月佐世保市に移轉し榮町六番地に藥店を開業し調劑をなせり君は業務に熱心なるを以て一般の信用厚しと云ふ

◎**回漕業楠本清三郎君**……君は安政二年五月本縣西彼杵郡嶺岳村に生る家世々庄屋たり幼にして武を好み劍道修業の爲め大村に至り留る事數年郷に歸りて後十六歳より保根係を勤む明治十年鹿兒島事件の際右に應じ本縣巡查となり勤績五ヶ年明治十五年二月大甲村役場書記となり後ち西彼杵郡書記に轉じ地租改正調査の主任となる二十一年佐世保救濟會社の肉類販賣を主る是れ君が實業に従事せし發端なり君は自立の精神を以て米穀酒類等の販賣業を営みしも利する所なきを以て更に佐世保海岸通に家屋を新築し明治二十五年荷受問屋を始め夫れより回漕業を営み以て今日に至る君久く衛生組長を務め且つ公共萬般の事業に奔走し大に信用あり君性質温厚取引確實なるを以て人望愈加はり頗る盛況を見るに到れり嗚呼君は實業界の龍驤と云ふも過言にあらざるを信す

◎**建築業一家卯兵衛君**……君は弘化元年二月千葉縣香取郡佐原村に生る父を源兵衛と云ひ家世々農を業とせ君幼より實業に志す十三歳より大工職に従事し修業殆んど十年其間日夜職業に勉勵して其奥技を極む然れども未だ以て足れりとせず尙ほ進んで斯業の精磨をなさんと欲し明治十年上京有名なる大工職立川彌平次に就き立川流の秘法を傳習する事三年漸くにして立川古風の社寺其他建物の製圖等の血技を極め始めて東京に於て獨立大工職を營む爾來君が精進なる伎術と熱心なる勤勉によりて各所よりの依頼多かりに偶々建築受給人市村氏に雇入れらる當時市村氏は沖繩縣廳其他の官衙建造の請負をなし居りしを以て君は其設計製圖を擔當し全氏に従ひ沖繩に至り工事の監督をなす事一年餘竣工の後歸京せり明治十七年市村氏が朝鮮京城公使館建築の請負をなすに當り君亦是が設計製圖をなし全氏に従ひ朝鮮に至り又工事監督をなす竣工一年餘にして歸京君は感ずる處あり一時市村氏の雇傭を解き獨立職業に従事し居りたりしが御造園建設に際し拔擢せられて工事の監督を申付けらる明治十九年十月再び市村氏に雇はれ佐世保に來る當時市村氏海兵團其他の建築を請負ふ君其棟梁となりて總監督をなす後ち市村家を辭し獨立に大倉組建築の下請負をなす當時建築請負を目的とせざる佐賀信用社なるものありて佐世保に出張所を設けしが君は全社の懇請によりて建築の監督をなす已にして全社を辭し自ら諸建築の請負をなせしが時至らずして大失敗を招き困難の境遇に陥る明治二十五年美濃大地震あり君斷然意を決し所有の家屋を賣却して旅費を調達し全地に赴き社寺其他の建築に従事する六年幾多の利益を享け京都二條通に居を構へしか偶々市村氏に對面し氏の懇請によりて臺灣澎湖島の監督をなすの目的を以て三十二年市村氏と共に佐世保に來りしに右澎湖島の建築は本省直轄工事に變更し已むを得ず市村氏は解約となりたるを以て君は爾來獨立に其業を営み立川流

の堂宮建築及繪圖仕様等の受負をなし現下高砂町七番地に居住し盛んに其業を勵む

◎龍甲細工薦野要次郎君……君は明治四年二月福岡市稻葉町に生る十二歳の頃より龍甲細工職に従事す養父亡秋吉政常氏は龍甲職に精巧にして其名頗る高し明治三十三年聯合共進會に龍甲製糖養生花二個を出品し時の林農商務大臣より褒賞状及銀盃を賜はりたる事あり君其跡を繼承し目下相生町に於て龍甲細工並に金銀細工を營み數名の職工を雇入れ盛んに其業を勵む君は佐世保に於ける龍甲細工の泰斗にして其技術の卓越なる其職務に熱心なる共に市内一般の認むる所となる君愈々益々勉められよ

◎回漕業共同組……佐世保共同組は廣島市西木川町石井武太郎氏の主管にして船主は尼崎伊三郎氏なり去三十四年七月迄は岩永回漕店に於て擔任したりしが業務擴張の爲め港町十八番地に共同組を設置し石井久平中村豊吉の兩氏擔當にて其業を營みしが石井氏は不幸にして逝去したるを以て爾來中村氏は石川三次郎氏と共に依然其業を繼ぎ熱心に業務に従事せり尼崎汽船の特色は他の汽船とは大に其趣きを異にし如何なる事情ありとも航路を変更することなきにあり殊に中村君の知きは曩きに廣島關西汽船株式會社廣島代理店の主任を務め又台灣新竹街驛傳社支店主任となる等實業上幾多の經歷を有するの人員なる哉敏腕家として信用あるや他日の盛況愈著しからん

◎平戸屋旅館……館主星野文吉君は過般逝去し未亡人タツ子今其業を繼ぐ二十九年家屋を新築し當地上京町二番地に移住し旅館を營む年齢正さに五十性温良にして待遇可憐尤も衛生に注意し評判頗る宜ろし殊に客室多く清潔にして幾多の旅客を泊するに足る

◎吳服商一の瀬淺太郎君……君は明治三年七月早岐に生る家代々吳服商たり阿兄兵吉氏は不幸にして病魔の犯す處となり遠く黃泉の客となれり君は其家を繼ぎ奮て業務を擴張せり偶々日清戰役に際し當地に支店を設け本支兩店の事務に精勵す後も早岐本店は嗣子に委ね當地に居を定め目下濱田町に家屋を新築し歐米諸國及び京坂地方より諸種の吳服太物の仕入をなし店前一層の華飾を極め品質は良好にして頗る世上の信用を博す君天性温厚禮節を守り能く一家を治む其の月を重ねるに順ひ繁盛を見るに到れるは全く君が獨特の勤勉と資料に富むべきものあるに依ればなり店員數名何れも熱心に勉強す

編者曰君は公義心に富み而かも質朴慎重にして華美に流れず信に實業界の龜鑑と云ふも過言にあらざる
◎回漕業岩永實藏君……君は弘化四年五月佐賀縣伊萬里町に生る明治拾二年早岐へ全二十三年佐世保へ移轉せり屋號を肥前屋と稱す當時吳服太物米穀仲買業を營みしが二十一年回漕業を創め傍ら九鉄會社の物品用達を爲し早岐佐世保間線路の工事材料運搬は君一手に引受け爲に大に信用を得たり後大坂佐世保早岐間船運開航につき苦心經營する處あり今其畧歴を記さんに明治十七八年前の狀況を顧みれば實に寒僻村にして商貨の多くば之れを長崎伊萬里等に供給し京坂地方も直取引の便利無く僅かに淡路小豆島等の和船より輸入する貨物を以て其需用を充たしたるの姿にて不便少なからざるを嘆し京坂地方と直接取引を爲し商業の振興を圖らんには是非大坂發航船を寄泊せしむるに如かずと考へしも如何せん寄港する船舶へ積載する物産に乏しく千思萬慮の末物産貨物の蒐集に盡瘁し終に米穀眞珠貝あわび貝ほる或は黒竹地金等あらゆる物品を集め京坂地方の物品と交換輸送するの策を講じ大坂回漕業吉田春吉君に圖りて同地の船主尼崎伊三郎君と談じ船舶寄泊に就て收支償はざる時は一航海毎に若干の補助を出金するの契約を爲し終に其許諾を得て第壹第貳電信丸を寄港せしむることとなり京坂地方の交通端緒を開きたりしも當時輸出入共

至て微々にして船主同屋共に損失を往すること免かれざりしも君堅忍不拔斯業の開發に拮据勉勵し漸次増荷を見る事となり遂に今日の便益と公益とを公衆に與ふるに至れりと云ふ當時の困難に想ふべし後日清事件の起るや佐世保は非常の繁昌を極め隨て輸出貨客額繁となりて愈々船積の寄泊其數を増したり爾來佐世保商業界に一新面目を顯はし今日の盛況に至りたるは之れ畢竟君が卒先業方の致す所と云はざる可からず君性篤實業務に熱心にして同業者中屈指の人

◎大倉組代理店主任前田貞四郎君……佐世保市港町海岸通りに大倉組代理店あり君其主任たり陸海軍の用達をなし其他諸負事業に従事せり君は東京本郷區元町壹丁目に生れ二十餘年間大倉組に奉勤明治二十五年當地に轉任し以て今日に至れり君性温順篤實にして禮儀を重んじ頗る信用あり君が經歷に就ては目下採訪中なれば後編に詳述することあるべし

◎旅館池田岩太郎君……佐世保市松浦町六十九番地宮地嶽の麓に玉屋と稱する一旅館あり君其主人たり慶應三年十月佐賀縣藤津郡吉山村に生る幼にして不幸父を失ふ長するに及び實業の志あり米穀商を營る頗る地方の信用を得ず爾來村會議員、村總代、衛生組長、寺宮總代の名譽職を奉し尙舊業、杵島兩郡水車組合の取締に推選せられ同業者の一大革新を圖りたる等其名高かりしか時至らずして米穀商に大失敗を招き殆んど家財を傾くるに至れり偶々日清戰役に際し君大に感ずる處あり二十八年の初め軍夫を募集して佐世保に來り戦地に赴かんせしも意の如くならざるものあり方針を變更して九鉄工事の請負をなし大に功績あり爾後佐世保(現住所)に家屋を新築し酒類販賣をなし三十三年に至り旅人宿を營み以て今日に至る君性沈着篤實にして義侠に富み世に明かに又議論頗る耳を傾くるものあり佐世保に於ける實業熱心家として將來有望の人

◎石鹼製造白龍堂……白龍堂は本年五月の創立に係り市内中通免田中牛乳搾取所の前に在り陸海軍の用達をなす工手には上野豊次郎君あり君は明治元年正月長崎市に生る家世々酒屋を業とせ長するに及び實業に志し大坂に遊び石鹼製造を精修修業の後歸郷八坂町に於て同業を始めたりしも不幸失敗を招き客年九月當地に來り目下白龍堂に勝せられ熱心勉強頗る信用あり君は從來各地に於て製造業の興衰を極め居るの人君が詳細の經歷は都合に依り後編に掲載すること、せり

◎佐世保開業醫

(いろは順)

◎醫師一番々瀬健太郎君……君は明治二年十月佐賀縣西松浦郡東山代村に生る幼より學を好み郷校に教鞭を執る事數年二十一歳始めて醫學を志し研究するに數年二十六年に至りて醫術開業免狀を受く二十九年佐世保に移轉濱田町に於て開業せり當時國技醫學士時々出張して君の業を扶けたりしを以て開業の日尙淺きも不拘治を乞ふもの多く名聲頗る旺んなり三十三年現住所なる松浦町に移轉せり爾來君が懇切の診療を獨得の手腕は市内に信用を高め勢譽隆々佐世保の内外を歴せり君益々醫業の擴張を企て目下全町に壯大の家屋を新築し今後一層患者の便を計り

日進月歩の學理を基礎として斯業に従はんご欲し日夜醫學の溢奥を探り居れりご云ふ君資性温厚篤實人に接する謙讓患者に對し丁寧親切にして醫界有爲の人物たり編者は君乃經歷を求めんごせしに左の如き書翰を得たり又以て君が性行乃一斑を窺ふに足らん歟

謹啓陳者向暑の節に相成候處愈御清安御座遊され候段奉賀候扱今般佐世保管見御發刊成され候由にて小生履歷御問合せに預り赤面の至に御座候早速御挨拶可申上筈の處多忙に取紛れ且又小生は何も書き立候程の經歷も之れ無く候處より終に今日まで遷延致候段多罪御海容被成下度候小生は明治二年十月二十五日佐賀縣西松浦郡東山代村大字川内野と申極めて邊鄙なる地よ生れ候者にて農家に生ひ立なから性來の惰け者勞働がいやよて數年間小學校よ奉職致し僅かよ糊口を凌ぎ居候處明治二十二年の頃不圖醫者となり度氣に相成晩學ながら醫學を修め掛け候も家貧にして學校よ入る資力もなく藥局生となりて各地よ流浪致し明治二十四年と全二十六年は前後期の試験をすまして醫術開業免狀を頂戴し全二十九年乃春此佐世保よさすらい來り始めて開業いたし爾來今日まで孜孜奔走致し居申候開業以來指を屈すれば既よ八年乃星霜を閱し候も其間何一つ出來

したる事もなく依然たる一ヶの窮措大よして吳下の阿蒙終よ名を成す乃節もなく既往を顧み將來を想へは背よ汗せざるを得ざる次第よ御座候只淺學不才の身を以て今日まで醫學乃片隅よ航し得て覆没を免れ候ものは全く師と友とを懇切なる扶掖よ頼れるものにて常よ其のみ感謝罷在候右の始末よつき小生よは何々卒業生や何々學士など申立派なる肩書は更らよ之れなく候人生の浮沈は豫期し難し未來は如何に成行やらん相分り申さず候得共今日迄の經歷(こいふ可くんば)荒々右の通よ御座候クロムウエル自家の肖像を描かしむるにて畫工よ告げて曰く『有の儘よ寫せよ面上乃痣をも』と吾人は敢て英雄を氣取るよは之れなく候得共小生の略歴御掲載下され候ごならは亦有の儘に御記載下され度候先は延引の御詫旁々如此御座候取込中亂筆御免下され度願上候草々頓首

偶 成

那處青山容此身卅年書劍老風塵愧無功業可誇說吾
是東西南北人

御一笑下され度候

七月五日

一番ヶ瀬拜

侍史

編者曰我聞斗南一番ヶ瀬先生於醫術既入其室詩文亦靡々而臻
作者域偶成一絕所謂寸鐵殺人者足以窺其一斑哉甚佩甚

◎醫師池田元作君……君は明治八年三月佐賀縣下北川副村に生る家世々庄屋を務む君幼よして學を嗜む然れども君不幸父の倒産の跡を承け學資なきよ苦む十五歳の時佐世保に來り一時糸山吳服店の店員となりたるも是れ決して君の志はゆるさるなり居ると數月辭して郷に歸り十八歳初めて醫學に志し神崎郡醫師兵働龍潛氏よ就き研究する殆んど二年爾後全郡醫永演、行徳、黒瀬等乃諸先師に就き醫學及臨床上の研究を爲し明治三十年醫術前期試験よ及第し全三十一年四月上京濟生學會に入り修業傍ら順天堂醫院山竜堂病院よ於て内外科を研究全三十四年四月醫術開業試験よ及第し全五月佐賀縣立病院乃醫員となり青木醫學士に就き研究頗る好評あり本年四月全院を辭し佐世保市名切免田代構内よ開業せり君は皮膚病、梅毒、耳鼻咽喉科の診療最も巧みよして開業早々治を乞ふもの多しと云ふ

◎醫師原豐夫君……君は明治五年佐賀縣杵島郡北方村に生る父君を權太夫と云ひ君は其三男たり幼よして頓悟夙よ醫學よ志し明治二十六年奮然鄉關を出て崎陽に遊ひ第五高等醫學部よ入り爾來切磋琢磨成蹟良好常に衆に超ゆ全二十九年卒業醫學得業士となり爾後或は公立壹岐病院に若くは長崎病院大谷博士所屬の内科部に奉職する殆んど五年其間研究怠らず能く道の濫奥を極め特よ大谷博士の信を享く三十四年五月同院を辭し全年九月當地よ移住し相生町に於て内科専門を標榜して開業せり君が經歷と手腕は開業の當時より市の内外よ傳はり三十五年十二月佐世保赤崎兩校の囑託醫となり三十五年よは檢疫委員を命せられ誠意檢疫事務に盡瘁せし功勞尠ならず殊に君は大谷博士乃下よありて數年間内科の研究を極め居る事よて獨得の技倆は以て診療を乞ふ者多く爲めよ家屋の狹隘を告げ客年初め松浦町二十四番地に移轉せり君又海陸軍部内よ好評あり現下一日患者八十名餘に上り日夜多忙なりといふ藥局は高野氏外三名擔當し熱心其業を勵む過般室内を改修し

て患者の便を計り又入院患者の需めは應すと云ふ君資性温良恭謙として人に接する寡言禮讓を重んじ患者は對する懇切を旨とし貧者に向つては施療をなすと云ふ其高潔慈善の志は人をして轉た敬仰の念を生せしむ君が佐世保醫會の幹事となり同業者の信頼を受け一般の好評を博するに至る以て其素あるを知るに足る

編者曰君が禮讓を重んじ寡慾にして仁術に富み温厚寛和の容態は人をして春風胎蕩の裡に在るの思ひをなましむ世の驕慢無禮貪らん飽くなきの醫をして君の行爲を見せしめは果して如何の感がある

◎醫士村兵之助君……君は明治元年縣下東彼杵郡日宇村に生る十九歳の時始めて醫學を志し佐賀に赴き醫學を研究せんことせり家餘財なく學資も窮したりしも難境に處し萬難を排して志氣益々堅く愈々窮して愈起ち愈蹶きて愈奮ふの精神は君が他日爲す所の導火線となりて成業の目的を達し後當地は開業非常の信用を得目下島瀬町は新築移轉の計畫中なり

編者曰君の事歴津々として材料頗る多し詳細は後編に掲載すること、せり

◎醫師奥川友一君……君は文久元年五月佐賀縣杵島郡西川登村大字小田志に生る

長ずるに及び醫學を志し成業の後郷里に於て開業せしも事情意の如くならざるも乃あり明治三十二年佐世保に來り一時天満町に開業せしは非常の好評を得業務を擴張し客年始め常盤町五十一番地に移轉せり君の經歷は付ては後編に記載する所已むを得ざるものゆれば讀者之を諒せよ

◎醫川崎玄龍君……君は安政五年七月本縣北松浦郡北魚目村に生る明治七年醫學に志し刻苦精勵全十六年長崎に於て醫術開業乃免狀を受く後ち大坂醫學校に於て研究中不幸疾病に罹り郷關に靜臥して病軀を養ふ稍輕快は趣くや偶々島原公立病院より聘せられ君同院に藥局長となり傍ら院内開設醫學場は教鞭を執りしが感ずる處ありて明治十九年上京し駿河臺醫師緒方氏に就き醫學を研究傍ら獨逸學を修む全二十一年一月業を當地に開く當時佐世保は僅かに二三漢醫の開業せるも乃あるに過ぎず君が東下りの治療は新たに一生面を開けり時偶々鎮守府工事着手中の事にて數千乃男女來集し従つて負傷者等日々多き折柄君は其治療の任に當り又檢微密を囑托せられ日夜業務に従事す二十七年一月再び上京順天堂病院に於て醫

學を研磨す全年六月歸保し君が聲譽益々旺んるに至れり二十八年一月家屋建築
 工を起し二十九年落成今の住邸常盤町本通なる私立佐世保病院即ち是れなり君
 は三十年已來醫會々長と擧げられ村會議員に撰出せらる、等公共の爲め盡瘁され
 たる功擧げて數ふべからず殊に政治的思想は厚く曩きは實業同志會の組織せらる
 りや君は其中堅となり身を犠牲に供して市政の刷新を計らんごせしも時至らずし
 て空しく敗歸の怨を吞んで機に到るを俟ち勢力を潛養しつゝありご云ふ君性寛容
 にして快活頗る交際場裡に長し海陸軍部内に於ても君は信賴する者多し君は果し
 て醫界中の元老歟

◎醫師堀原平次君……君は万延元年熊本縣天草郡木戸村に生る父君を平太と云ひ
 醫を以て夙に名聲あり君は父の業を繼ぎ明治十年熊本公立病院に於て醫學を研究
 するに數年間開業免狀を受け郷里に開業父の業を扶く全二十年上京濱田醫學博士
 の門に入り醫學研究の傍ら醫科大學に於て婦人科撰科を修業二十八年佐世保に移
 住し以て天満町に開業其名頗る高く三十三年業務擴張の爲め常盤町三番地へ移轉

し以て今日に至る佐世保市に於ける婦人科専門は君を以て嚆矢となす資性温良方
 正にして慈心深く患者に對し懇切而かも老練なる技倆は衆に挺んず過般産婦の便
 宜を謀り更らに産院を設け其業大に振ふ

◎醫師宮田憲之助君……君は元治元年十二月本縣下廣田村に生る家世々農を業と
 す君幼にして慧敏夙に醫學を志し二十歳の頃上京醫科大學撰科卒業の後歸郷明治
 二十二年二月佐世保に移住開業せり市内上町九百八十九番戸六號に在る成子醫院
 是なり君性機敏にして才略は長し佐世保協和會の組織せらる、や其會長と推擢せ
 らる君は新聞に言論は八方より矢の如き批難攻撃を受けたるも少しも屈する色な
 く一意市の爲め盡瘁せり市制施行の今日ある所以のもの君與つて方ありご云ふ
 も敢へて過言はあらざるべし君は現下縣會議員及市會議長に職に在りて日夜政治
 は奔走せり君は醫界の士と云わんより佐世保政治家の王と云ふを適當とせん哉

編者曰君は佐世保に於ける秀才唯一の策士として名聲頗る隆旺たり他日必ず遠處界に日桂冠を戴くの
 人君にして少しく謙讓に心を傾け熱情の油養に留意せられなは一般の信用を受け層一層の名聲を博す

◎産婆田中クマ子……嬢は明治十五年佐賀縣神崎郡千年村に生る全三十三年全縣立病院に入り看護婦を務むる年餘傍ら産婆學を研究し全三十四年六月産婆開業免狀を受く客年六月佐世保に來り常盤町梶原醫院の看護婦となり傍ら産婆の業を營む性温和容姿端麗加ふる品行方正にして頗る人望あり

◎醫師吉住慶次郎君……君は明治七年一月縣下北松浦郡江迎村に生る父君を勤兵衛と云ひ君は第二子たり幼にして進取の志あり小學校を出て平戸中學猶興館を修業し二十四年上京英語學校に入り全科卒業二十五年濟生學會に入り醫學研究二十九年東京に於ける醫術開業試験より及第し尙有名なる醫師に就き醫術を極め後長野縣下に於て開業せり君は尙進んで斯道の研究をなさん三十一年再び上京後藤博士の順天堂病院櫻村博士の山龍堂病院に於て内外科を研究細菌學を修め尙ほ田代高田兩醫學士に就き研究三十二年京都某病院に聘せられ内科診療の主任となる三十三年佐世保八幡町に開業爾來診療を乞ふも多し三十五年の虎疫流行の際に

本縣檢疫委員に任命せられ瀧車檢疫に従事せり殊に虎列拉注射液の如きは君自ら長崎に赴き注射の狀況を實見し本縣警察部に出頭して注射液を持歸り注射せしめたる等君が公共の事業に盡瘁せしと趣なからず今日の盛況を致す豈偶然ならんや

◎醫吉田宗敬君……君は安政四年五月當佐世保に生る幼より醫學に志し明治十六年開業免狀を受け當時今の佐世村に開業し大に信用を得たりしが全二十九年頃より佐世保八幡町四十九番地に移轉せり君は産科、婦人科、内科に最も巧みとして現時専門的治療をなせり君性正直にして業務に熱心患者頗る多しと云ふ

◎醫師田崎健一君……君は明治五年八月本縣東彼杵郡廣田村に生る二十一歳醫學を修業を卒へ二十七年平戸に於て開業殆ど五年君は小成に安んずるを好まず益々斯學を研究せんとするの志切なり明治三十年春斷然門を閉ち上京長興胃腸病院の醫員となり消化機病の研究をなす數年尙傳染病研究所に入り北里博士に就き細菌學を修め大學病院及び山龍堂病院に於て内科の實驗に従事す蓋し消化機病専門は最新の學問にして我國にて之れが専門の業をなすもの僅かに指を屈するに過ぎざ

るを以て世人が其眞價を知らざるに創業の日淺きことより未だ甚しき盛況に至らず。雖も二十世紀の學術は必ず専門的ならざる可らざるの時、當て君今や此の嶄新なる學問を以て開業す。將來の繁盛期して俟つべし。況んや屢々良好なる成績を以て患者を全癒せしめつゝあるに於てをや。

編者曰君性剛直にして人にたもねらば然れども一度相知るや洒落にして頗る愛すべき風あり君も亦醫界中一奇材の人物なる哉

◎醫師高須潮君……君は佐賀縣醫界にて名聲ありし高須春潮氏乃長男文久二年を以て全縣佐賀郡久地井村に生る。明治十年始めて醫學志し高須廉純氏に就き醫學を研究佐賀縣公立醫學校に入學し將さに業を卒へんとするに際し父君の逝去に遇ひ家政已むを得ず退學せり君か素志を一貫せんとするの心は毫も屈せず家道經營の餘晝夜勉勵の結果明治十五年醫術開業の免許を受け福岡縣三池郡集治監に奉職す。居る事三年全監を辭じ三池稻荷村に開業し大に好評を受く。偶々天然痘流行に際し君は警吏及有志に謀り避病舎を建て患者を收容す。君は熱心な避病舎に在りて日

夜治療に從事す。收容患者一時二百名以上上り云ふ如何に病勢の劇甚にして如何に盡瘁せしがを推知するに餘りあり。全十九年東京及大坂に於て實地の研究をなし二十二年長崎に開業殆んど四ヶ年二十五年再び上京從兄醫學士高須鎌一郎氏乃宅に寄宿して醫術を研究す。二十八年以降長崎或は佐世保檢疫醫員となり引續き開業三十五年再び日守村に開業中客年虎疫流行の際に避病院に醫員たり。現下上宮田町に開業せり。就中梅毒科の如きは君が最も得意にして嶄新の治療を施すを以て一般の信用を博し居り。

◎醫師中尾千代二君……佐世保行幸橋を渡りて元町乃中央に至れば右側の上坊數仞の石垣を築き其上に建造せる高樓あり。門關鐵嶺女史の健筆になる「資生堂醫院」の標札あるを觀ん是れ即ち醫師中尾千代二君診療の處とす。君明治四年縣下西彼杵郡瀬川村に生る。明治三十一年長崎高等醫學部を卒業して醫學得業士となり。後ち長崎病院大谷博士の所屬内科部に或は佐賀縣伊万里病院に或は福岡病院に於て殆んど一ヶ年間實地の研究をなし三十三年四月當市相生町に開業せり。爾來佐世保庵の

浦學校醫を囑託され三十三年檢疫醫を命せられ三十四年村醫を務め其他大阪、共濟、有隣、日宗、内國、眞宗、等の各保險會社の囑託醫となり其他公共の事業も盡瘁せしむ多し君は内科に最も得意にして特に海軍部内は信用厚く遠近より治を乞ふもの多し過般上町は壯大の家屋を購ひ移轉せり土地高燥眺望佳絶にして病軀を靜養するに好適の處たり君が平素の手腕と現時の信用と好適の土地とを以て救世濟民の業は従ふ其功を奏する今より期して待つべきなり君性温良寛洪にして能く人に交わる温平たる其容は患者をして欣慕をしてせしむるに足らん

◎醫永田晋君……君は佐賀市松原町乃人本年初め當地へ移轉榮町は開業一陽醫院と稱す君は外科眼科、齒科の三科を以て患者を療す過般常盤町は住む野村ちよ眼病に罹り治療するも其功なかりしも君の治療により數日を出でずして病症一變し全快したりと云ふ君開業日尙淺きも治を乞ふもの多く頗る好評あり

編者曰君の事歴に就ては掲記する事頗る多し目下材料蒐集中なれば後編に詳述して讀者へ紹介すべし

◎醫師朝山勘一君……佐世保天満町警察署横側に架せる橋畔は源泉堂醫院の標札

ある家屋あるを見る是即醫學得業士朝山勘一君の居室なり君は慶應二年本縣西彼杵郡龜岳村に生る父は友齋と云ひ嘗て本縣々會議員徵兵參事員縣公共の名譽職ありしが今や閑雲野鶴を友とす醫界に好評ありし人君弱冠にして楠本碩水翁に就て漢學を修む明治十六年東京に遊び本郷獨逸學校に入り獨逸學を研勉し二十四年千葉縣第一高等中學醫學部卒業し歸郷の後父の業を扶け二十八年職を縣立福岡病院の醫員に奉じ大森博士に就き外科實地の精究をなし得る處ありしが君の手腕は早くも縣下を歴し結果全縣より拔擢せられ縣費を以て醫術研究する事となり三十二年四月上京北里傳染病研究所に於て研修卒業の上全年八月歸宅十一月日本赤十字社員支部準備醫院を囑託せられ時給も肥築の野に於て大演習施行の際救護員として演習地に出張職を完ふして歸院其筋より慰勞を爲金若干を賜ひたりと三十一年八月福岡病院を辭し全縣藤棚明治兩炭坑の醫務主任となり同地方刀圭界に於て有名なる加來數馬氏と計り經營慘憺新た炭坑病院を新築し炭坑労働者の疾病救護に付大に盡す處あり日々數十の患者を診療して益々外科術に付得る處多かりし三

十四年八月佐世保市に移轉し高砂町九番地に開業せしが頗る好評あり君が獨得嶄新なる外科手術に至ては就中信用を博し遠近の患者其門に集るもの多し客年虎疫流行の際は檢疫委員となり三伏の炎暑を忘れ鞠躬盡瘁せし巧蹟尠なからす現下警察の囑托醫となり一般の信用を博するに至れり性淡泊にして能く情を知るの人文學の素養あり語辭明晰理論整然として頗る耳を傾くべきものあり君が今日の聲望ある豈偶然ならんや

編者曰君は節儉を重んじ公德を貴び公心に富む而かれども時に或は嚴格に失して冷淡に流かるゝの嫌ひなきを保せずされど一たび言を交へたるの人は其胸襟洒々落々たるに驚くなるべし今日の時勢に處するには寧ろ之を以て適當とせん

◎醫朝日研太君……君は嘉永二年三月佐賀縣下新北村に生る嚴父は醫を以て其名聲隆々たり君又父の業を繼かんご欲し明治元年九月佐賀藩醫學校好生館に於て醫學を研究す全年三月藩公乃命を受け奥羽の役に從ひ羽州佐竹の戦地に出陣し傷病の治療手術に従事して大に功あり明治二年藩主より奥羽戦役の功勞を賞せられ判

金若干を下賜さる全三年長崎に赴き洋人某に就き醫學を研究す後大坂に遊び醫師横尾氏に從學す全八年歸郷父の業を扶く全十年四月醫術開業免狀を受く全十九年八月佐賀郡檢疫醫を命せられ縣廳より檢疫盡力の功により金品を賞與され三十年君は同志と謀り諸富私立病院を設立し元佐賀病院長池田專助及副院長津田一藏の兩氏を聘し自ら主幹となりて診療に従事せしが客年有志の招きを應じ佐世保へ移轉し目下本島町に開業せり君は性質沈着淡泊にして患者に對する尤も親切なるを以て開業日尙淺きも治を乞ふもの多し君乃手腕は近き未來に於て發揮するや必せり君夫れ旃れを努めよ

◎醫七種周哲君……佐世保天満町より相生町に至れば萬松叢樹の下一段高く嚴としたる石門に内科小兒科七種醫院と記せる標札あり是即君の邸宅なり君慶應元年より明治三年に至る舊平戸藩撰拔生として大阪日本大外科醫花岡醫院若くは日春内科醫の門に入り日夜斯業に精磨をなし成業の後歸郷開業せり君は數代相傳りたる醫師として實驗上乃奧技と家傳乃秘法とにより小兒科内科の専門を標榜して和

漢折衷診療をなせり小兒科内科は君が獨得の技術にして殊に熱病、癩病、金瘡に特效の名藥を調劑し難患者を全治すと云ふ其名高し令息純一郎君は曩きよ京都府立醫學校を卒業し客年東京に遊ひ微菌學傳染病及胃腸病の研究を極め現下京都府立病院醫員として勤務せり聞く君は近日中歸郷父の業を扶くるならんこと云ふ

◎醫師三原虎三郎君……君は安政六年五月福岡縣三池町に生る幼より醫學に志し明治十四年一月東京大學醫學部入學精勵の闢あり全十八年六月別科醫學卒業熊本縣下高瀬町に開業す居る事四年此間全縣醫會玉名支部會長に推撰せらる二十三年二月上京醫科大學第一醫院内科補充員拜命内科眼科を研究二十三年八月熊本縣驗微醫長拜命且つ飽託郡醫會支部會長となり三十一年再び上京醫科大學に於て眼科皮膚病梅毒の各科を研究三十二年二月歸郷全年三月福岡縣柳河に開業大よ一般乃信用を受けたりしが佐世保有志の勸よよりて本年四月より當地へ移轉天満町七十二番地を開業せり君が經歷と既得の手腕は開業日尙淺きは拘はらず診療を乞ふもの多し君性温厚篤實よして患者よ對する懇ろに而かも義俠慈善乃心よ富み貧者を

救濟する多々人望頗る高く將來有望なる人

編者曰君は數回上京精磨以て醫術の奥伎を極めたるの人容姿端正技術巧妙人に接する温和にして厭慕せしむるの徳あり開業日ならずして君が名聲の隆なる雲蒸龍騰の觀ある豈偶然ならんや

◎醫師柴原爲吉君……君は明治九年縣下西彼杵郡高島村に生る幼より醫學を好む當時家貧志を達する難きも君感するあり奮然崎陽に至り長崎病院に勤め傍ら醫術を研究す后三菱造船所或は佐賀病院に藥局生となり勉學數年後も上京濟生學舎に入り修業の後醫術開業試験よ及第し尙三十三年佐賀市醫學博士池田陽一氏よ就き専ら内科産科婦人科等を研磨す爾來難産婦を診療手術するに數十名よ上る幸ひに未だ替て産婦胎兒に不幸を與へし事なく其成績頗る良好なり三十五年五月業を八幡町に開しが今又上京町に轉し益々治療よ力を致せり君性沈着よして淡泊なり患者ニ接する懇切丁寧故を以て大ニ信用を博せり

◎醫師神宮司砲助君……君祖先は島津藩士よして維新後農を業とし資産頗る豐饒なりしが失敗交々至り遂に資産を蕩盡せり君幼にして學を嗜む然れども家餘財な

く刻苦精勵漸く高等校を卒へ後ち笈を負て鹿兒島城下よ遊び某辯護士の食客となり傍ら中學私塾入り法學を研究す居る事二年所長乃信用を受け學資供給の約成り君は法理を研究し素心を貫徹せんものと手乃舞ひ足の踏む所を知らず躍然として上京乃準備中不幸所長の破産に陥りたるを以て君の目的は愈々齷に属し是より方針を變して醫學に志し某辯護士の媒介を以て醫家の食客となり日夜寢食を忘れて醫學の研究に餘念なかりしが螢雪の業空しからず年餘よして前期の試験も及第し爾後各地乃醫師も就き眼科産科婦人内外科等を研究する事殆んど三ヶ年間僅かの給料を貯蓄し之を以て學資の一部に充て熊本醫學校に入學し夜は勞後に從事し學資を求め孜々奮勵遂に全校を卒へ内務省開業試験に及第せり君は之を以て足れりこそす尙熊本病院に實地研究し續いて全院醫員となり小兒科部を担当せり而れども君が進取の志は胸間を蟠りて制し難く翻然全所を辭し上京外科、胃腸、眼科、婦人科の各病院に就て研究修業の後千葉縣下養生病院院長に聘せられ内外科婦人科を兼任せしが君が獨得の技倆は能く其効を奏し其名聲隆々たりしが再び上京眼科

婦人科呼吸病等を研究し歸郷今回佐世保有志の招きに應じ當市相生町五十二番地に移轉開業せり君性淡泊質朴にして能く禮讓を重んじ患者も對して懇切なり云ふ將來の繁榮期して俟つべきなり今年二十有七

編者曰君が千辛万難を排し不屈不撓の勇氣は驢蹶失敗に遭ふも愈堅く螢雪擲頭の苦學は近世遺傳の青年をして驚醒奮起せしむるに足る君能く世事に明かに又頗る交際場裡に當む佐世保醫界中、奇村の人物ならん

◎醫師森口謙哉君 當市名切街に森口醫院の根柢あり君其院長たり君は佐賀縣杵島郡福富村に生る幼にして佐賀藩醫赤司道哉氏の養子となり佐賀醫學校に入りデーニツ氏の教を受く後笈を負て東都に遊び醫學院に於て勵精し明治二十二年醫術開業の免狀を受く君性深沈にして氣概あり小成に安するを欲せず常に人に語て曰く既に醫術に従事せば精磨の間なきのみならず實重の生命を托せらる其の責重に堪ふとせんやと君深く感ぜらるあり再び上京櫻村博士の山龍堂、佐藤博士の順天堂、須田圓手の明々堂或は櫻井學士の婦人科病院に於て實地の精磨をなし錦衣歸郷佐賀市に開業するや患者雲集する事數年君は後家を辭し三たび上京し北里博士の傳染病研究所に入り細菌學を修習し修業の後三十一年佐世保に移轉開業し出張所を小佐世保に置く君檢査醫を拜命し現下佐世保驕梅院の院長として醫員以下を監督せり君は内科に精く婦人科に長ず婦産は其得意とする所なりと一時佐世保を震動せしめたる島の地戎島森山某殺害事件の如き或は小柳某の「ピストル」事件の如きも君が熱月の下に明瞭に其原因を知るを得裁判醫學上判官をして司直の

職を全ふせしめたる事あり今日の隆盛を來す由なきにあらず

◎醫師杉森玄益君……君は佐賀縣杵島郡住吉村に生る世々醫を業とす君は其十一世たり而して令息は日進の醫學を修め醫學得業士となり正八位は叙せらる君は久しく郷里に開業して地方の好評を得たりしが三十三年五月佐世保は移轉目下嶋瀨町旭座附近に開業して内外科の診療に従事す君は漢洋兩法を修め古來家傳の秘術秘傳を以て難治の病ひを平癒するに巧妙なること、て治を請ふも乃多しと云ふ君が家傳は俗に云ふ小兒乃しけの藥其他種々萬効の妙藥として嘔吐下痢等の症其甚きもの雖も多きは全治せしむと云ふ客年虎疫流行の際には檢豫防員の職にあり功勞多し編者一日君と會し醫術に關する秘書等々閱覽を乞ひ其書の多きは一驚を喫したる事あり斯界は老練なるがを察知するは足る君性温和にして慈心深く一般の信用を受く宜なる哉君か今日の隆盛を來したる事

◎醫師山尾清君……君は明治四年八月佐賀縣神崎郡脊振に生る家世々醫を業とす七歳の時父を失ふ君學を好むと雖も家計豊ならず資の給すべきなく或は村役場の

書記となり或は小學校の教員たりしも醫學研究の志し止まず二十六年某藥局生となり傍ら醫術を研勉す二十七年熊本九州學院醫學部に入學醫術開業前期試験に及第し上京醫學專門濟生學舎に入り臨床上の實驗を重ね尙ほ峰ドクトルに就き内科を研究する二年餘三十四年醫術開業後期試験に及第し茲に始めて素志を貫徹するを得間もなく當地日守村福石免に於て濟生醫院を開き診断に従事す爾來君が銳意熱心なる伎倆と患者に對する篤實懇切な取扱は一般の信用する處となり遠近より治を乞ふもの多く特に内科は巧みなりと云ふ其隆盛想ふべきなり

うるわしき花や咲くらん業乃

鏡よりうつる今ぞたのしき

博多

愛子

◎齒科醫飯田健吉君……君は慶應三年正月大分縣下生る明治二十八年感ずる所ありて中津に於て齒科の研究を爲す全二十九年東都に遊び研究する事三年全三十二年十一月大阪府下に於て成規の試験に及第し開業の免許狀を得本年初佐世保に來住濱田町海軍橋通角に於て開業せり君性温順正直にして禮儀を重んじ人と接す

る最も寛容たり君が開業日尙淺きにも拘はらず一般の信用を博するに至る豈故なしとせんや

◎雜貨商向井定七君……君は紀伊國奈加郡池田村に生る幼より實業に志し各地を遊び幾多の經驗を重ねたり明治二十七年時恰も日清戰役に際し佐世保より來り雜貨諸式屋を開き熱心以て今日に至る目下港町海岸四ツ角に居住して和洋酒米穀砂糖及罐詰等を營む他店に比し頗る廉價なるを以て顧客多く店前市をなすの有様よし一見繁榮なるを想像せらる君性温和事業熱心の聞へあり君は明治三十三年榮町に壯觀なる家屋を建築せり是れ佐世保唯一の演劇場旭座なり是れ君が事業に熱注する乃一班を見るべし

◎齒科醫中島嘉太郎君……君は佐賀市木塚小路の人万延元年に生る幼にして醫學に志し佐賀醫師江口氏の門に入り研究する事數年明治七年江藤新平の亂より斥候隊となり大に戰ひ特殊の功勞あり後齒科を精磨せん爲め各地を歴遊し十七年朝鮮釜山に趣き二十四年釜山病院の齒科部を担当す已にして元山病院に轉じ二十六年露

領浦鹽斯德に趣き全地病院長アングジノ一に懇請して全院齒科部を担当し二十七年歸朝九州各地を巡遊し三十四年七月佐世保に移轉目下常盤町に開業せり性質快活にして義侠に富み能く世事に明なり技術巧妙にして頗る信用あり

編者曰君淡泊にして頗る交際に富み議論明晰斯界中一奇材の人物かな

◎産婆高増エツ子……弘化三年三月縣下北松浦郡山口村に生る明治二十四年四月佐世保鎮守府開廳の當時より佐世保市矢岳九百二十三番戸に於て産婆營業を營みたる以來子が熱心に技術を以て業に従事せるを以て非常に評判宜しく日夜業務に忙かしく殊に子は産婦に對して親切にして寡慾慈心深く佐世保産婆中屈指の一般の信用淺からず

◎寫真師川上新藏君……君は慶應三年一月熊本縣玉名郡八幡村に生る父を川上円藏氏と云ひ君其三男たり幼より學を好み長ずるに及んで武を好み明治十九年陸軍教導團へ入り二十一年五月卒業熊本歩兵聯隊附となり日清戰役の際には各地に轉戰其功に依り叙勳八等白色桐葉章並に年金從軍記章を賜はる君が受得したる名譽

と功績は如何に軍務に忠實なりしかを知るに足る卅年五月服役満期精勤證書を得歸郷の後福岡博多熊本大阪等より良師を求め寫眞師を研究し其妙技を覺ゆ三十四年七月佐世保相生町谷郷の入口に卜居開業せり君が熱心にして敏活なる技倆は陸海軍人は勿論衆人の知る處となり非常の繁榮を來たし常は業務は忙殺せられ居るの觀あり

編者曰君は衆に對する温厚篤實にして而かも技術巧妙を以て人に重せらる思想精密眞に美術的妙技を修むるの人

◎寫眞師後藤千代治君……君は明治八年熊本縣天草郡富岡に生る拾七歳始めて寫眞師に志し崎陽に趣き寫眞師節信一氏より就き研究する事數年三十二年九月渡米桑港に於て斯道を研磨し三十四年六月歸朝常盤町に開業せり君が獨得の技能は一般に好評を博し殊に軍人社會ニ其名高し君の經歷詳細は後編に譲らん

◎旭館主山口素順君……君は西彼杵郡瀬村に生る天性慧敏美術的思想に富む幼よして山水人物畫を嗜み道に精磨怠らず良師を擇て審美の古畫を研磨せんこせり

偶々明治維新と共に交通乃開發を促し歐米の文物燦然として其新を加ふ特に理化學の進歩は實に驚くべく就中寫眞術の如きに至りては特は然りとす君一たび此技を觀るよ及て直は其巧妙に感す即躍然起て身を寫眞術に投す爾來各地に遊歴して斯道の研究をなす三十四年一月精練研磨の功を卒へ當市に來り島瀬町に寫眞館を設置せり日尙淺しと雖も勤勉と熱心を以て高尚佳美の肖像を撮影するを以て顧客日よ増加し益々繁榮を招き同業者中屈指の人となれり

◎寫眞師石井健次郎君……君は佐賀縣佐賀市乃人嘗て軍籍に在りて國家の爲め粉骨碎身其功蹟尠ながら三十九年期満て歸る爾後寫眞術に志し從兄より就て斯道の研究をなし尙各地有名なる寫眞師に従て美術的奧技を極め三十一年末佐世保に移住九品寺の下高燥なる地を撰擇し日の出館と稱し開業せり技術巧妙殊に軍人社會には低價を以て撮影し大に便宜を與へらる、を以て頗る好評を博せり君性剛直よして廉潔是れ其素養乃然らしむる處而かも公義心に富み佐世保斯界中屈指の人物よして今日の隆盛を來す豈故なきよゆらざる也

◎寫眞師古川安一郎君……君は數年前當市八幡町に寫眞術を開業せり君は技術乃
巧妙なるまよりて一般の信用を受く君の事歴に就ては後編に詳述すべし

◎寫眞師戸田敏章君……君は文久二年八月熊本縣飽託郡城山村に生る明治十七年
教導團に入り軍務の傍ら東京寫眞師二見朝陽氏に就き研究教導團卒業後熊本兵營
に在り全二十四年滿期後八代に於て寫眞館を開く偶々日清戰爭に際し召集に應じ
て清營の地を從軍其功よりて勳八等瑞寶章及從軍紀章を賜はる凱戰の後佐世保
八幡町に開業廿三年中高砂町警察署傍らに壯麗なる洋館を新築し今年十二月移轉
盛んは其業を勵む君が獨得の妙伎は市の内外は好評を得撮影者多く又地方有志の
招きに應じ出張撮影は忙しと云ふ君性機敏にして淡泊職務熱心家の聞へあり

◎寫眞師鳥谷頼助君……君は肥前佐賀の人夙は美術の思想あり二十七年十九歳の
頃上京有名なる森金寫眞師に就き斯道を精磨する事數年不幸疾病により下坂滞在
暫く静養の後有名なる若林寫眞師に就き精磨し業成りて歸郷開業す然れども君が
若年なるを以て信賴するもの少なく小倉馬關地方を歴遊し幾多の經驗を重ね三十

三年冬當市松浦町八十一番地に於て開業佐世保館と名づく君歳二十又七性質朴寡
言以て其業を務む將來の繁榮期して待つべきなり

◎銅座寫眞館……館主は長崎銅座町に生る船大工町古賀寫眞館に學び美術寫眞乃
技術を習得し三十五年五月佐世保に來り上町に住む大に業務を擴張し熱心に業を
勵む館内顧客頗る多しと云ふ

◎愛國生命保險株式會社出張所……編者は該支店の景況を報するに先立ち先づ本社其もの、起因
由來組織に付て記す處あるべし佐世保市名切免愛國生命保險會社出張所を有する同會社は東京に在
り其設立の主意たるや他保險會社の目的の如く營利的會社にあらずして前代義士鈴木萬次郎君が政界に勢
力あるの當時全國菓子商が負担すべき菓子税六十五万圓の全廢運動紀念的に此會社を産み其株主の如きも
一人にて數百株を有するものなく株主の如きも意外なる人物多く板垣末松大森鶴山目下氏等の如き政治家
の株主多く社長には故海軍少將藤田文海君を戴きたりしか一昨年君逝去するに當り安川繁成君を以て
社長となせり君は尤も確實なる人物を以て名ありと而して全會社の現狀は毎期八歩の利益を配當し成績は
全國至る處六百餘の出張所代理店あり年々積立金と保險申込人とは驚くべき増加の有様を見る昨年の如き
は全國中無數の會社中屈指と稱せらるる保険料は三十餘万圓拂ひ渡したる金額は八万圓餘と四分の一強に止

まり資本金の四分の一強に當る當地出張所には川村君主任田中君事務員として尤も嚴格に而かも敏捷に熱心に被保人募集に従事し居れり被保人の數も各會社中一二の地位を占むと云ふ全社には募集員として敏腕の聲ある川村九郎吉君あり元海軍々人たりし田中味三郎君事務員として該社の爲に奮勵し大に信用を博し居れり

◎裁縫師内藤俊正君……君は成長乃後身を官途に委ね盡瘁する所尠ならず明治二十三年斷然官を辭し爾來幾星霜専心は衣冠服裝の縫方及形狀に研究を凝らし三百種以上の新案を出せりと云ふ過般當地に來り目下天満町三番地に居住美術的裁縫を教授し頗る好評を博せり

◎自轉車……自轉車が文明の利器にして實利實益多くなるは一般に認むる處一瞬千里飛行縱横以て吾人の萬用を辨するを得べく餘暇は悠々自適郊外に遊乘して鬱を散し所謂浩然の氣象を養ひ以て健康を保全する事を得べし近時佐世保は自轉車の流行日盛なる其偶然は非らざるを知る

◎山本宇藏君……君は早岐に生る明治十九年佐世保に移住雜貨商呉服店を營む十二年以來村會議員として名望あり後ち市會議員たり陳列する處に雜貨物品は遠

く歐米諸國より輸入海陸軍の御用として信用あり性質温厚篤實にして勤勉其名を知らざるものなし養子幾三郎君は元平戸の人明治七年に生る君も亦其業に忠實業務の擴張に熱心し三十二年四月自轉車俱樂部の組織に際し奔走し其功空しからず近時愛輪家乃増加して盛況を見るに至るは蓋し君が大に與りて力ある處なり同店は相生町一番戸本通四ツ角にありて頗る繁榮を極め居れりと云ふ宜なる哉今日の隆盛を來したるを

◎中村庄三君……長崎市山田雜貨店及盛輪商會の支店を當市上町三番地に開店せるや君は其主任となりて海軍の用途を兼ね一面は愛輪家乃便宜を計り自轉車販賣貸輪ピアス、アイバンホー、ハームス其他各種並附屬品一式の修繕をなせり君は過般福田町裁判所通三百坪以上の空地を借受け自轉車の練習場を設置せり君が開業日淺きも一般の信用を得非常に繁榮を極む喜ぶ可きなり

◎麵包製造所竹田三郎君……君佐世保市上町十七番地四號に竹田茂の名義にて君の主管に係る麵包造製所あり實息茂氏の名義をなせしは知る人ぞ知らん編者深く

云ふを好まず君資性英敏よして才氣有り投機的事業を好み鎮守府開設の當時より麵包製造業を創め海軍用達をなし今も繼續せり製造高一ヶ月壹萬斤より上り佐世保よ於ける麵包製造は君を以て嚆矢とす君が抱負の才氣を以て一意専心自家の營業よ熱心したらんよは一層の繁榮必然なるを覺ゆ

◎綿商杉本與三郎君……君は西彼杵郡浦上山里村に生る當市宮田町六十九番戸に於て綿商を営みしか現今米酒等の兼業をなし居れり綿は清國より輸入し上宮田町に水車を借り受け盛んに其業を勵む顧客頗る多く大に信用あり

◎廢物商大島藤太郎君……君は佐賀縣下朝日村宇高橋に生る明治三十年三月佐世保市天浦町三番地第一号に移轉し本業に従事せり商業正確にして信用あり其名市内に顯る

◎吳服反物商谷口彌吉君……君は今年四十四歳佐賀縣伊万里よ生る二十二年八幡町よ於て吳服店を開き伊世屋と号す誠實熱心店員數名商況頗る盛なり同店よ坂本某にて開店の當時より爾來今日よ至る十數年間忠實以て業務よ勵精し大に主人の信用を受け居ると云ふ嗚呼此好漢よ幸ひよ健全よして益々主家に忠なれ

編者曰君は實業熱心家として事歴頗る多し目下材料蒐集中なれば後編に詳述するとせり

◎陶器商今村伊三郎君……君は縣下折瀬村三河内の人陶器を以て業となす三河内の産地より奇巧妙麗の陶器を仕入れ本年三月より佐世保市濱田町三番地に開業を將來の繁盛必らず見るべきものあり

◎陶器商石茂太郎君……君亦縣下折尾瀬三河内の人二十五年佐世保に來り松浦町四十八番地に開店す全業販賣の陶器類は第一平戸物産三河内製次に有田製錦繪附き其の他各地有名の品を取寄せ二階に陳列場を設け正直を旨とし正札付きの販賣をなし一般の信用あり顧客頗る多し

◎廢物商前田平次兵衛君……君は明治元年に生る生來實業を好み三十一年常盤町よ開店下駄傘帽子シャーツ等を盛よ販賣す過般度量衡の販賣を兼ね正確にして一般の信用を得性温良柔和人よ接するよ禮義を守り對談須臾よして人を信頼せしむ商業家適切乃好人物なり

◎ラム子製造御厨直吉君……君は専らラム子製造を以て業とし傍ら飲食店を營む榮町四十三番地に本店を置き製造所を芦刈氏の裏に設け純淨なる水道の給水を使用製するを以て大に其販路を開き有田、大村、三河内、相の浦日野等に出荷し其の商況盛なり君性質素にして熱心業に勵むの人とす

◎理髮道具店大坪文三君……君は佐世保松浦町名切入口四ツ角に理髮業を開き傍ら新式理髮器械一切の販賣をなせり是を佐世保唯一の店よして日よ益々繁榮せり

性温良全家の二階には至て老練なる女髪結あり一般の評判宜しく日夜婦女羣り至るに云ふ又た更らに自轉車の販賣をなし業務を勵み居れり

◎煙草商安福興三郎君……君は明治拾一年大坂南區に生る明治三十五年三月佐世保島瀬町七番戸に於て煙草和洋酒類の販賣をなし目下非常の繁昌を極む君は豫備陸軍々人として商業の取引正確にして紀律あるふこさすがわ軍人そたちこて君か信用あるふこ驚くに堪へたり

◎洋服店大淵房太郎君……君は安政五年十月福岡縣三池郡開村に生る吳服商小宮前原の両氏が客年十月佐世保市常盤町三十二番地に海軍造船所職工共濟會服調所を設置するや君は其主任たり職人數名調製正確にして信用あり

◎菓子製造業古賀ハル子……子は佐賀市水ヶ江町に生る三十五年二月佐世保に來り常盤町に住む全年十二月島瀬町千二百三十九番戸に移轉し熱心業を勵む家號を壹岐佐屋と云ひ頗る信用を受く

◎陶器商田中松藏君……君は安政四年肥前藤津郡久間村に生る幼より實業を志し各地に遊び後感する處ありて陶器業に従事し二十四年佐世保に移住し本島町二十番地に於て開業爾來熱心に業務を勵み各地有名の陶器を取寄せ販賣するを以て頗る信用あり君性正直にして人望を受く

◎萬松樓小嶺賢一郎君……佐世保谷郷の高丘萬松蒼翠の間に巍々たる一大高樓あり萬松之樓と云ふ嘗て博文伊藤侯が此處に淹留せし際自ら命名されし處亭々たる青松は雲を凌ぎ石段幾十級蜿蜒々曲折して正門は續き樓上の廣間は以て群客を集るに足り樓下の各室は以て嘉會を開くは適す樓上より港灣を望めば佐世保市街は勿論艦船輻輳の狀一昨の下に落つ海陸軍人を始め紳士紳商其他群客の來遊するもの日夜絶へず佐世保第一流の旗亭にして君は即ち其主人たり嘉永元年本縣下南高來郡東有家村に生る去る廿一年始めて佐世保に移住し翌年園田町(今のト一亭)に一屋を構へ料理屋業を營む君は夙に軍港に適當なる旗亭なきを嘆じ東奔西走土地の撰擇に餘念なかりしが偶々東公園の地高燥にして眺望佳絶なるを認め二十五年一月地盤の工事は着手二十八年に至りて成る時の總理大臣伊藤博文侯は西郷桂の

諸將官と共に台湾視察の歸途佐世保に立寄り君の旗亭に宿泊せらるゝと三日侯此光景を一觀して樓名を萬松樓と賜ひ自ら萬松樓乃三大字を書して君に授く君欣喜掲げて扁額と爲す樓上大廣間ある即ち之れなり君益々規模を擴張し更らば建築を計畫し三十三年四月全部落成す之れ現今乃建樓たり敷地百八十餘坪にして其壯觀云ふべからず君性温厚篤實にして全般の信用を博し且同業者も重んぜられ過般料理屋組合乃總取締に推舉せらる嗚呼萬松樓上の紅燈は皎々たる明月の如く夜毎に響く管絃の聲は宛から君が繁榮の狀を想はしむ

◎ト一亭馬場衍君……海軍橋を渡り郵便局の前を過ぎ勇名かくれなき服部中佐の銅像の下に沿ひ歩を移して少しく上れば水交社の裏門と相對して一旗亭あり之れ即ちト一亭なりとす構造宏麗清淨にして而かも閑靜瀟洒なり器物整頓食物佳良供するに山海の珍味を以てし殊に上流社會の多きが故に衛生も適切なる注意をなすと云洋食は其妙技なりと聞く全亭は管絃を禁するを以て普通料理屋とは其趣きを異にするが故に上流社會も信用せらる主人馬場衍君は南高來郡有家村の人三十年

七月此の業を始む萬松樓主小嶺君は其叔父たり

◎鰻店主人遠藤豊次郎君……君は文久元年東京麻布六本木町に生る幼にして俊秀の譽れあり普通學科を卒へ明治十二年東京神田簿記學傳習所に入り修業の後大坂交換所計算係長となる全十七年斷然全所を辭し佐賀三省銀行開設の際に銀行營業の教師として傍ら實務も服せり居ると二年後長崎に赴き職を縣廳に奉ず時の縣令石田英吉氏の勸誘によりて柴田昌吉氏の設立に係る英語學校課目中簿記科を増設し其教頭となる君は長崎に於ける簿記學指導の嚆矢にして教を請ふもの踵を接す該地に於ける紳商五六名は實も氏乃指導を請け現下威勢隆々たるものあり加之君は公務も忠實なるを以て大に縣令の愛する處となる勤績數年家事の都合にて歸京後佐世保鎮守府に聘せられ出發途中長崎に滞在終り第五高等醫學部會計主任となり居る事三年二十四年再び佐世保鎮守府に聘せられ特別待遇を受く廿六年大倉土木組佐世保出張所庶務主任となり傍ら臺灣水道工事を管す再び本店詰となりしが已まして全店を辭し相州鎌倉海濱院に聘せられて通辯の務めも服す當時杜

米戦争の爲め外人の來遊するもの多し君其導者となりて名所舊蹟の案内をなし大に便宜を與へたり又北清事件に際し三度び佐世保鎮守府に聘せられ勤務中君は犬と感ずる所あり官職を辭し直ち歸京緣故ある大和田鰻店乃家法秘傳を會得したりしかば三十四年四月來保天満町三十一番地に於て鰻店を開業せり是れ即ち音よ名高き東京麻布大和田の分店たり君が獨得妙伎の蒲焼鱈鍋は東京流として世人の嗜好に投し香氣よく郁店前を過ぐるもの流涎三尺宜なるかな來客常々樓中に充ち佐世保一流の鰻店と稱し其名隆々たるや尙本年乃初め當り海水浴場清潮館の開かる、や君は率先して構内支店を設け頗る繁榮なりと云ふ君が今日の盛況を致す豈偶然ならずとせんや

◎宮田町料理屋(第一部組)……佐世保市街の北端狹斜の境あり宮田町と云ふ鎮守府開設以來小旗亭を業とするもの三々五々途には淫風に吹き荒さむの弊屈とはなりぬ是れ世人一般が特に認め又營業者自からも百も承知二百も首肯し居る處なるが爲めに風紀を紊り恐るべき病毒に感じ終生其患を除く能はず官廳は全力を注ひて之が取締を勵行せしも更らに其甲斐なかりしが客年十一月前記營業者の一人行村央氏義侠にも此有様を奮慨し改革せんことを謀り東奔西走以て此惡風俗を矯正せんとし各營業者の集會を催

し遂に組合を組織して嚴重なる規約を結び相互に警戒せざる處ありしが今日に至りては舊來の弊風を一掃し其面目を新たむるに至り漸次世の惡評を滅せんとする傾きに至りしは行村氏の盡力大なりと雖亦同業者が協力以て反省の實を擧げたるは誠に賞すべきなり

◎料理屋(第二部)……本組合は佐世保市全体の同業者を以て成立するものにあらず佐世保市中央部の同業者にして風紀を重んじ徳義を厚ふし且つ業務に熱心なる同志を以て結合し本年一月十五日組織せり組合長は萬松樓小嶺貫一郎氏にして全組合と天満町藝妓券番松永武吉同石橋作一両氏との間に契約條件ありて双方の便宜を計り居れり

◎煙草商本田林三郎君……君は長崎縣南高來郡島原町の人幼より實業に志あり明治二十七年十月佐世保に來り榮町一番地四ツ角に住し煙草商を營む爾來各國煙草を輸入し市内は勿論各地方に卸賣をなし盛んに業務を擴張し熱心に業務を勵む佐世保煙草商中屈指の一人たり性温良篤實にして頗る信用を博す

◎觀世流曲俱樂部……本會は上町二十四番地に設け觀世流曲の研究發達を謀るの目的を以て大會毎月會の二種に分ち本年五月一日創立せしものなり主任二宮嘉一郎君は愛媛縣松山の藩士本年三十八歳性温良信義篤行あり大に本會の爲め擴張を謀り居れり

◎料理店いろは屋……佐世保市天満町河畔陸軍橋側に大なる高樓あり是田崎重八君が多年辛酸經營せし料理いろは屋にして建築宏壯客室清淨なる翠濠園万松樓と對等の料理屋なり過般大廣間を増築して席に充つ裝飾華麗庭園亦廣く海陸軍將校其他紳士紳商の登樓多く管聲湧くか如きの有様は眞に其繁榮の一斑を窺ふに足れり君は慶應元年二月熊本縣天草郡志岐村に生る君幼より實業に志し明治十五年頃斷然郷里を出

て長崎に赴く當時不幸にして財政上困難を極め實業を営むの餘裕なきを以て某料亭に奉勤する事數年君誠實に勤勞せるを以て信用を受け居りしが偶々佐世保に鎮守府の開廳せらるゝを聞き明治二十年全所を出で、佐世保に來り僅かの資金を以て小料理店を開く是君が獨立營業の始めなり某料亭の主人は君が營業の始めに因みいろは屋と名づけたりと爾來千辛萬苦幾多の困難を重ね誠實と勉強とを以て只管營業に熱心せしが次第に信用を受け明治廿四年業務擴張の爲め今の天満町二十三番地に移轉し漸次信用を博し以て今日の隆盛を見るに至りしなり君性質沈着營業熱心にして義侠心に富み一般の信用を受け過般本縣料理屋組合組織に際し本部を長崎に置き支部を佐世保に置かるゝや君は撰はれて支部長となれり

◎古物商山本淺吉君……君は廣島縣沼隈郡水呑村乃人明治四年を以て生る郷に於るや花筵商を營み三十年佐世保宮田町に於て料理業を成し本年三月より古物商を兼ね君機敏にして替て其の筋乃信頼を受け盡力する處ありたりと云ふ

◎靴製造愛甲幸次郎君……君が靴業を開始せしは實に明治二十七年にして嘗て海軍兵器廠皮工を勤む店舗は佐世保相生町にあり海陸軍に大に信用あり其製靴は遠くは韓國臺灣近くは對州及九州各地に至る花客は海軍部内に多しと職工は晝夜の區別なく勤勉誠實其業を勵む以て全店の繁榮を見るに足るべし

◎獸肉販賣業井手貞五郎君……君は文久三年に生る爾來幾多の經驗と幾多の萬難を排し以て今日に至る前後十數年海軍御用達となり現下榮町四番地は盛大なる獸肉店を開く肉質佳良にして大に諸家乃信用を博す君公共的慈善事業は尤も力を盡くし神社佛閣其他の事業は同情を寄せ少なからざる寄附をなしたるにあり君性質直よして胸襟潔白實業熱心の聞るあり

◎時計商山口友吉君……君は長崎市小川町の人時計機械術は巧妙なり二十八年七月佐世保天満町六十四番戸に於て時計販賣眼鏡類純金並に寶石入指環類を販賣す店頭整然として壯麗顧客頗る多し

◎時計商平野峰三君……君は東都の人嘗て故郷を出で諸國を巡遊し各年四月佐世保に來り相生町八番地に住居し時計販賣器械修繕の業を開く君十數年の經驗と熱心とを以て大に信用を博し居れり

◎藥種商森格次郎君……君は東彼杵郡早岐に生る父を喜平と云ふ明治十九年質屋を開業し二十四年に藥種商となり佐世保相生町三十一番地に開店今其繁榮を見るに到る氏温良にして正直なり

◎質屋山下幸右衛門君……君は佐賀縣杵島郡橋村の人嘗て炭坑業魚業等に失敗を招き三十五年八月佐世保市松浦町に於て質屋を開業せるが營業上確實にして頗る信用あり

◎靴製造松本清次郎君……君は客月新に松浦町四番戸第二號山下質屋の隣りに靴製造を開業せり君は二十七年頃より靴製造を傳習し以て今日に至る君が製造する處のもの頗る精巧なりと云ふ

◎川原商店……濱田町海軍橋通左側に大なる下駄を以て看板となしたる商店を見る之れ即ち川原商店にして下駄の外足袋小間物を販賣し頗る盛況を極む殊に三府の製造履物を集め中に精巧を極めたるもの多し

◎雜業染川新太郎君……君は東彼杵郡大村の人なり性質温良十九年佐世保に來り濱田町に住す苦心經營の後其業務擴張の域に達し熱心以て本業を營み居れり

◎酒商前田繁一君……君本店は長崎五島町肥塚與八郎君にして君は其支配人として十九年佐世保に來り開店業務の發達を謀り本店と相俟て繁榮に越きたるは全く君が熱心忠實の然らしむる處なりと云ふ

◎洋酒商清家浪三君……君は伊豫國宇和郡吉野に生る二十七年當市濱田町海軍橋通に盛大なる商店を營み重せらる且其商品良好なるより益々信用を厚せり二十八年二月より海軍の用途をなし又郵便切手賣捌をなす性温厚の人

◎菓子製造業金田藤助君……君は兵庫縣神戸市に生る茶町四十九番地に於て卅一年來菓子製造に従事す有名なる神戸煎餅と稱せる名産の菓子は君が製造する處にして美味なり且其製品は最も衛生に注意す

◎表具師内田徳市君……君は佐賀市水ヶ江町の人明治九年二月生る十五歳佐賀白山町の表具師永池氏に就き研習す居る事八年明治三十年の頃當市に移住し目下天満町五番地に於て表装を開業せり陸海軍は勿論市中一般乃信用を得業務日に多忙

なりと云ふ

◎時計店山村太三郎君……君明治十三年大坂府下東成郷平野郡に生る幼より時計商店に就き傳習經驗を積む二十九年來佐世保八幡町に於て開店し目下海兵團の御用を受け信用あり

◎古物商橋本政吉君……君は明治五年十一月廣島縣沼隈郡草戸村に生る幼より學を好み精勵怠りなく頗る村内に信用あり三十三年全郡草戸袖島兩村會議員に撰舉せられ現に其職に在り客年一月佐世保に來り米穀商を營みたりしが全年十一月松浦町大村屋旅館裏に古物店を開業せり君事を成すに正確議論亦聞くべきものあり佐世保古物商中屈指の人物なり

◎煙草商曾我部圓三郎君……君は明治三年阿波國三好郡足代村に生る十四歳始めて商業に志し藍商をなす明治二十年葉煙草仲買業を營む事數年二十七年より全郡足代村秋田美彰氏方に於て煙草製造に従事せり君日夜精勵の結果主人秋田氏の信認を受け遂に全店の支配人となりて販路擴張の爲め九州各縣を巡り卅五年四月當市湊町海岸に支店を開業して主任となり煙草專賣をなせり君取引確實にして信用を博し顧客多く繁榮を極む性質機敏篤實商業熱心家にして普通教育あり將

來有望の人

百二六

◎小間物商秦久助君……佐世保天満町天満神社の傍ら、新免小間物店と記せる店舗あり之れ元新免氏が熱心と誠實とを以て開店し非常の信用を受け繁榮を極めしものなり氏は不幸病魔乃襲ふ處となり客年十二月黄泉の客となりしを以て君其跡を繼承して今日の繁榮を來せり君明治八年佐世保に生れ十一歳の時商業志し二十三年全店を勤む居る事十數年爾來勤勉忠實以て今日に至る將來の繁昌期して待つべし

◎用達商青木竜三郎君……君は明治十二年陸下北松浦郡佐々村に生る幼より實業に志し數年前より佐世保に移住して海陸軍用達を務め頗る信用ありしが昨年八月福竹銀行と連絡して當地に福竹商會なるものを設け海陸軍の御用達をなし全銀行支配人雪山氏を主任とし君は其樞軸となりて旺んに其業務を執れり尙君は過般市内高砂町三十六番地に活版所を創立し頗る隆盛なり君が経歴に於ては後編に詳述すべし

◎旅館坂本彌三君……君は嘉永四年十一月朔日佐賀市屋外町に生る幼にして實業に志し長するに及び商業の營業をなし大に地方の信用を得たりしが佐世保に鎮守府の設置されんとするや感ずる所あり明治二十一年當地へ移轉し宿屋業を営み濱田町本通四十五番地に住し岩見屋と号し以て今日に至る佐世保にて旅人宿岩見屋と云はれ誰知らぬものなしと云ふ本年三月頃より運送問屋を開きたるが取引確實にして開業

の口荷は淺きにも拘はらず顧客頗る多く業務日々繁榮なるを見受けらる君性淳厚にして寡言者實業務に熱心せるの人二十七年頃より町内の人望によりて衛生組長に擧げられ現に其職に在り三十三年營業人力車組合の組織せらるゝや推されて副取締となり同業者の爲めに盡瘁す客年虎疫流行の際には君率先して衛生事務に従事日夜寢食を忘れて奔走せしは一般が既に罷むる所君が實業熱心家として將又徳望家として今日の信用を受け業務の隆盛を致したる所以のもの豈他あらんや

◎料理屋多久島庫介君……君は佐賀縣西松浦郡東山城村に生る數年前佐世保に移住客年九月上町三十二番地に料理屋を開業せりいは屋より橋上を渡りて上町に登らんとする右側に一亭あり多久島屋と稱す君は其主人たり結構壯麗にして顧客の望みに任せ調理を食品精良にして至極輕便なり橋上より望めば公園の山色蒼々として頗る佳絶なり佐世保川其元を流れ恰も一帶の白布を晒らせるが如く一糸を垂るれば獲る處は夫れ松江の鱈乎過般より海軍下士兵會所の御用を務め尙仕出料理の依頼にも應ずと云ふ

編者曰此稿を草し了らんとする時報あり君は元町青餅亭を引受け移轉せりと詳細は後編に記載せん

◎水筒製造宮田重助君……君は明治四年大分縣宇佐郡宇佐町に生る家世々水筒製造を業とし其名高し君亦其業を繼ぎ熱心に従事せり水筒製造の因縁は甚だ深し往時神武天皇日向より宇佐に行幸ありし時宇佐國造の祖宇佐津彦尊一柱勝宮を建て響應し賜ひし響物の一にして其後神后皇后皇子應神天皇を養育し給ひし時此筒を用ひられしと云ふ應神天皇の神靈當宇佐に御鎮座の後製筒の業益盛にして今に豊前特有の宇佐筒の名聲世上に聞ゆるに至る需用益々多し二十八年七月第四回内國博覽會に於て褒賞を得二十九年八月香川縣第五回公益共進會に二等有功賞を得たりと氏は本年四月當地松浦町に開店し關屋と号し爾來誠實

百二七

◎時計店馬場十郎君……佐世保相生町八番地に各國時計店乃標札あり之れ君が開店せる處なり店員數名各國時計の内目覺時計柱時計金銀製婦人用紳士用軍人用乘馬用等精巧の品々店舗に充つ殊に君時計修繕は其技精巧なり云ふ軍人尤も信用を博し店前何時も顧客を絶たず君當市に住する事八年八幡町より相生町に移り以て今日の盛大及べり是れ熱心誠實の然らしむる所にして人皆信を措く君は佐賀市小關町の人なり

◎煙草屋敷下瀧藏君……君は佐世保市相生町本通煙草店の主人たり明治二十九年より開業して今日に至る君の事別掲ぐべきものなし知る人ぞ知るべし

◎印判業陳内基亮君……君は佐賀市吳服町に生る幼にして商業を好み父の業を繼續し提灯製造に従事せり二十三年佐世保市天満町に來り彫刻業を營む二十六年相生町二十番地に移住し専ら業務を擴張し精々勉勵せり君は印刻精巧世人其技を賞す嚴父儀六氏は公共事業に斡旋し頗る人望あり

◎材木商井手秀五郎君……君は佐世保市字田代の人性質朴久しく農業に従事せしが後商業に従事せり君は夙に實業に志し或は米穀商酒類商等を營み商業上幾多の經驗を重ね明治十八年材木商を營み軍部内

に信用あり十九年海軍の御用達をなし爾來十數年間熱心に従事せり君は公義心に富み神社佛閣等に寄附をなし褒賞を得たること多く且世事に明かなり信に實業界中其名高し

◎染物職馬場金藏君……君は本縣北松浦郡鹿町村に生る從來染物業を以て名あり二十五年三月より二年間職業精磨の爲め博多若松宮市廣島吳松山及京坂等各地有名なる染業家に就き練習二十七年三月郷に歸り直に當地八幡町勤工場前に開店したり全年八月日清交戦の際陸軍豫備役召集に應じ二十八年十月戦功に依りて勳八等白色桐葉章及金若干を賜る二十九年二月名切元鉄工場前に開店後常盤町に移轉三十五年四月再び現住地に轉宅し非常の注意と熱心とを以て業務の擴張を謀り勤勉怠りなかりしが漸にして業務も隆盛に趣き倍舊の繁榮を來せり君は幾度か墜跌せしも君が勤勉の功空しからず益々斯業の發達を計り居れり其前なるものを擧ぐれば紋書黒染小紋形友仙洗張及湯のし等にて其巧妙の技術は各吳服店の信用する處なりと君は軍人的教養のある爲めにや尤も嚴正にして且誠實信義を重んずること篤しと云ふ

◎古物商岩切土吉君……君は文久三年五月二十九日宮崎縣兒湯郡高鍋に生る性質正直にして人に接する尤も寛厚篤實なり幼より實業に志し始め材木商を營み後三十一年來小佐世保免四百十四番戸宮崎町に移轉し古物商を營み頗る盛なり君は最も金物類に心を注ぐ事他の古物店と少しく異なる處あり

◎氷販賣山村吉三郎君……君は明治元年一月縣下南高來郡北有馬村に生る家世々農を業とし頗る徳望あり性順良恭謙にして夙に實業に志し大坂熊本馬關各地を歴遊す日清事件に際し佐世保に來り海軍酒保を擔當して渡清し旅順金州威海衛の各地に於て物品の供給をなす日清事件平和の局を結ぶに至り二十八年歸國思ふ所あり土木諸負業者となり面高依浦日野小首等の各砲臺工事に従事せり三十四年に至り長崎製氷

株式会社佐世保支店の主任となり以て今日に至る君が熱性的業務の擴張は事實の上に顕はれ隨て一般の信用を受くるに至れり君が將來の隆盛蓋し驚くべきものあらん

◎酒類販賣前田龜藏君……君は文久二年五月佐賀縣西松浦郡伊万里町に生る明治十九年鎮守府開設の當時佐世保に移住し酒類の販賣をなす壺屋即是なり廿五年海軍酒保の設けあるや之が納付の卒先者となり熱心誠實は勉強と相俟て一般の信用を得商業頗る繁榮と赴き目下相生町三十番地と和洋酒罐詰類乃大販賣をなす主任として店員原口次吉を矢岳と中野貞四郎を名切通りに派遣し支店の業を司らしむ君等熱心は從事信用あり舍弟前田喜聰氏は湊町に於て又壺屋と稱し和洋酒類酢醬油卸及雜貨商を營み頗る信用あり同業間中屈指の人物なりとす

◎酒類商吉永兵助君……君は萬延元年西松浦郡伊萬里に生る二十年比より佐世保に移住し和洋酒類醬油米穀の販賣業を營み傍ら海軍用達をなす君性淡泊正直にして一般の信用あり目下天満町五十五番地に住せり

◎材木商森又吉君……君は佐賀縣小城郡多久村に生る明治十九年佐世保に移住し賣商の傍ら指物職をなし數年間村會議員の職に在り引繼き市會議員となりて公共の事業に盡碎せし事跡なからず性順厚頗る信用あり

◎醬油製造古賀平八君……君は佐賀縣三養基郡旭村に生る家世々醬油製造家を以て開け明治二十八年佐世保に移住し港町に住し醬油製造販賣をなせり君は實業熱心家として一般の信用を受く君の經歷に就ては後編に掲記すべし

◎陶器商田代浦四郎君……君は三川内の人本年廿六其間各地方を歴遊し實業に經驗あり三十三年市内元町に陶器業を始め當時大火の厄に遇ひ今天満町五十五番地に轉住陶器上繪入等に熱心し陸海軍に信用あり頗る盛況を極む

◎指物業米田吉松君……君は大坂府阿波座に生る明治三十五年六月より佐世保市相生町九番地に移住し建物建具指物所を開業し熱心に從事せるが評判頗る宜らし

◎荒物商井村寅三君……君は慶應二年八月縣下東彼杵郡西大村に生る明治十二年大村中學校に入學し後佐賀中學校に轉し親戚上野專一氏(當時領事館書記目下廈門領事)の勸誘にて海外渡航を企てしも父母親戚の止る處となり已を得ず一時郷校に教鞭を執る事三年二十年四月本縣巡查を奉職佐世保署に在勤二十三年辭職佐世保衣糧庫筆生となり二十八年九月辭し次きて東京淺野セメント會社の代理店を開き二十九年舞鶴に赴き煉瓦製造所を開きたるも不幸水害の爲め損失を招きたり君は客年市會議員選舉に際し推され市會議員となる少壯議員として好評あり君性温良公共の事業に盡力せし事少からず目下港町に居住しセメント代理店の外荒物商を營む將來有爲の人

◎古物商眞崎又藏君……君は天保九年五月熊本市六間町に生る父を安次郎と云ひ家世々古物商を

營む君亦其業を繼ぎ東京京都大坂等に轉住して古物商を營み頗る經驗を重ね二十七年佐世保に來り相生町九番地に同業を營み書畫茶道具其他高尚なる古物を販賣し頗る信用あり

◎煙草商阿野久次郎君……君は香川縣丸龜市葭町に生る十七年海軍々籍入り滿期の後商業に従事し三十年より煙草販賣をなす三十三年十一月佐世保に移住阿産煙草の販賣を始む商業熱心にして一般の信用を博せり君は業務を擴張し其販路早岐大村附近の諸島伊萬里武雄嬉野鹽田等の各地方に及ぶ過般佐世保市上京町四番地に移轉し業務逐日盛なり

◎京都屋米村さこ子……熊本縣玉名郡の産廿八年當地に來り天満町五十三番地警察前の四ツ角に履物煙草店を開き重に京坂地方より商品の仕入をなす其品高尚にして美觀を盡したる者多く顧客群り至るに志せり明治二十年頃より當地に來り産婆業をなす數年前市内相生町に於て宿屋業を始めたなり主人の逝去に遭ひ宿屋を廢業し専ら産婆の業に熱心し大に信用あり今や同業者幹事として名望あり目下上町千〇二十六番地に住す

◎獸肉販賣業野中儀一郎君……君は佐賀縣佐賀市松原町に生る明治十九年七月牛肉販賣店を佐賀市に開く爾來銳意熱心終に佐賀屠畜合資會社を創立し君其社長となる尙柳川に支店を開き久留米に屠畜會社を組織する等該業に熱心の狀實に感すべ

きものあり三十一年佐世保に移住して獸肉販賣をなし信用を受け三十四年以降海陸軍御用達となり目下常盤町本通四ツ角に轉居し獸肉類及食糧品一切の販賣をなし品質を精撰し代價を低廉とするる結果は業務の繁榮を招き數名の店員は日夜孜孜奔走せり就中瀧本、山本氏の如きは誠實勉勵大に信用あり君性快活義侠富み慈心深し君が主管屠畜合資會社も日増に隆盛し赴く故を以て名聲頗る高し

◎表具師岩坪景三君……君は明治三年に生る性來書畫を好む有田に於て勉學十九歳博多に遊び管觀古堂に於て表裝法を研究し歸郷相の浦に開業すると數年已よして當市上町三十一番地に移り鳳文堂と稱し業を開く海軍部内は信用あり大に其繁榮を察知す

◎時計店蒲原喜一郎君……君は佐賀市白山町に生る先代より時計店を業とす本店は佐賀白山町に在り支店を當市相生町二十九番地に開く各國各種の時計を陳列販賣し盛大なる事佐世保中厩指の店舗たり器械修繕は其妙伎とする處技工數名あり頗る信用を保つ君着實克く業務を勵む技術又精巧なり

◎印判業中島精章堂……主人中島氏は佐賀縣伊萬里の人十三歳より東松浦郡唐津町籍堂に於て普通學研究二十歳に至り印判業を傳習京坂地方に於て斯道の研究をなし明治二十八年より佐世保に移住し濱田町四十八番地に印判業を始む各官衙の信用を博し頗る隆盛なり

◎代書人……佐世保に於ける代書人は現下市内を通じて三十七八名其數少なしとせず中には相當の學識を備へ正當に其業を行ふものなきに非ざるも往々表面誠實を装ふて内心奸策を弄し強慾非道の者無きにあらざるといふ抑代書の業たる人民相互及び官廳と人民との間に介在し其手續を便にし事件の敏捷を計る者にして其業の必要にして至便なるは言を俟たざる所也然るに世間や、もすれば此至便にして必要なる業務を弊し種々の悪計を企て良民を苦しむる者ありと云ふ此等惡譎ふ可き似而非代書人の慣用手段なりと云ふを聞くに彼等は依頼者の無智に乘じ甘言を以て瑣細の事を針小棒大になし驚くべき料金を食はり利さへ警察又は裁判所に關する書類の依頼を受たる時は原被兩者の間に挾在して判檢事若くは署長部長等は自己の惡意なれば甘く取成し置く杯嘘八百を並べたて双方より多額の金錢を強請し其他種々の惡貨を回らし不當の報酬を受け或は高利貸三百代言等と相結托し不正の行爲を働く事を常業の如く思惟する輩ありと云ふに至つては言語同斷の所爲と云はざるべからず吾佐世保の同業者には是等のありとは信せざれども若しも之に類するの行動あらんには其の筋の注意は勿論同業者中より放逐驅除せらるに務めざるべからず代書人たるもの夫れ深く三省せざるべけん哉

◎代書業高取小次郎君……君は本縣長崎市西山に生る幼にして學を好み多年漢學を修め後十數年間官途に奉職せり性剛直にして巧言令色を好まず君が長崎上下村役場を奉職中の如きは村治紊亂を慨して大ひに村内の惡弊を改善せんごし幾多の批難攻撃は君が身邊に蝟集し來りたるも君泰然として動かす村治の刷新に全力を注ぎ其功蹟頗る看るべきものあり客年四月佐世保區裁判所開廳乃當時より當市木場田町に移轉して代書業を開く君が十數年間の經驗を君が敏活な手腕は自然に信用を博し代書の依頼も亦從て多しと兎に角佐世保代書人中の一偉人なり

編者曰君交際に富み詩歌に長し快辯酒を流る、か如く又能く酒を嗜む醉微に乘し玲瓏なる音聲を以て歌ひ且舞ふや譽座をして昏醉せしむるの感あり是れ君得意の處

◎代書業嬉野米一郎君……君は明治元年佐賀縣杵島郡に生る資性温良曾て村校の教鞭を執り又郡吏敗稅屬巡查等の職を奉し明治二十七年乃頃大村區裁判所前に移轉し代書業を營む殆ど九年其間地方の信用を得客年三月佐世保區裁判所前に移轉し代書業を爲す斯業に老練の聞へり

◎代書業岡研一君……君は慶應元年縣下彼杵村に生る普通學を修め郷里に於て教

青事業に従事後も巡查を奉職する數年客年三月當市木場田町に移轉し代書業の傍ら印紙賣捌をなし頗る信用あり

◎代書業池田仁吾君……君は明治三年九月佐世保に生る十六年より學校教員たる事四年土地臺帳編製地圖調製に従事後も藤津郡吉田村役場書記となり傍ら勉學し小學校正教員の試験に合格す君性深沈宗教的思想に富む嘗て神道光教會講師となりし事あり後も海軍用達及米穀仲買等の業を營みたるも失敗に歸し先年より代書業に従事し佐世保區裁判所通に於て開業せし君が代書の熟練と知人の信用多きとは相俟て事務頗る多忙なり

◎吳服商井上増藏君……君今市内濱田町四ツ角に在りて吳服反物商を營む店員數名業務頗る盛にして大に地方の信用あり海軍部内の風評は編者深く云ふを好まず君の性行よ就ては後編に詳述して讀者に紹介すべし

◎小間物商岸川宇太郎君……君は佐賀縣小城郡牛津町に生る幼にして實業の志あり祖父利三郎氏が盛大なる小間物商を佐賀牛津町に營むを幸ひ同店に於て見習を成

す數年二十五歳郷里を出て各地に多年の經驗を積み二十八年九月佐世保に來り天満町三十三番地の四ツ角に盛大なる小間物業を開き頗る業務を擴張し京坂地方舶來品の諸種を仕入れ華美清潔の品を陳列し大に世上の信用を得店前頗る盛況なり

◎貸家業橋口勝治君……君は嘉永元年四月本縣東彼杵郡大村に生る幼にして武術に志す文久三年大坂大村殿屋敷警衛を命せられ慶應四年大坂へ赴き己にして京都に轉じ相國寺毘兒島陣屋に入る嘉永三年大村より官軍として進み全會津の城をせめたる等當時戦況歴史に載る所のもの皆之を知る明治三年成展の軍功に由りて金若干を下賜せられ全常備兵へ編入全七月出京を命せられ全九月上等戎兵に進み十四年退後十五年四月本縣巡查を拜命爾後十一年勤績十六年四月全郡農會副長となり勤績十年賞金賞與を拜受せし事多し今や貸家及貸金を業とし大に繁榮を極む

◎飲食店高橋平四郎君……君は昔て元町に住し漁業に従事せしも失敗を重ね家産の整理を爲しや九年鎮守府の附屬に従ひ八幡町に移轉して飲食店を開業せり當時同地附近は悉く田圃にして僅かに八幡神社の高丘松柏の間に巍然たりしのみ商工業の日々に盛んに商人の來るもの踵を接ま惜も一陽春復春風の胎蕩たるか如き光景を呈するを思わん君先見の明あり商店の位置を高砂町十九番地に定め大田屋と號し營業を開きたりしに非常の繁榮を極めたりしが今や市役所の移轉によりて益々好適の地となり將來層一層の繁榮を極むること疑なし

◎理髮業者……現下佐世保に於ける理髮業者は七十餘名に達せり明治三十一年四

月初めて同業者の組合を組織す當時組合總代は仁戸田喜一郎氏なりしが三十四年四月佐世保市上町十七番地平田孫太郎氏に改撰せり氏は大に組合を改善を計り組合細則なるものを設け副總代は南里甚太郎會計係十々岩巳之吉取締役大坪文三外十三名鑑定人岡本辰次郎一番瀬與一等乃諸氏を以て組織せり過般色紙當警察署長は各理髮業者を署内よ召集し消毒方法に關し懇論する處ありしが愈消毒法實施の事となり目下消毒機械注文中なり

編者曰本稿を草し了る際役員の改撰ある等多少の異動ありしを聞く詳細は後編に叙述せる事とせり

◎理髮業船津慶三君……君は明治四年八月佐賀縣神埼郡城田村に生る性質温順にして諸種ノ事業に幾多の経験を有し就中金銀細工に最も巧みなり明治廿年以來此業に従事し廿五年六月始めて理髮業を志し獨立を以て自得し現今は益々熟練し頗る信用あり店內消毒器を裝置し客を接する懇切丁寧且つ義侠に富み該業中屈指ノ人物なり

◎理髮業平田孫太郎君……君は佐賀縣三養基郡旭村大字江島に生る幼にして醫學に志し醫學校に

入學精勵せしも事情あつて中途退學し數年前當佐世保市上町教法寺脇に移住理髮を業とし盛に業務を擴張せり明治三十四年頃より同業者組合の總代となり頗る信用あり性質直にして同業者中の一人物なり

◎理髮業者橋本治四郎君……君は大分縣直入郡昨田村に生る今年三十三性質機敏業務に熱心明治三十四年佐世保市天満町四ノ角に移住大に業務を擴張し盛況を見るに至る

◎同業者大坪文三君……君は今年三十七佐賀縣下久保田村に生る數年前佐世保市に移住し同業を開店傍ら理髮道具一切及自轉車の販賣をなす頗る義侠的精神に富み大に同業者間に信用あり

◎同業者十々岩巳之吉君……君は佐賀縣金立村に生る二十八佐世保に移住し同業を営み爾來孜々勉強同業組合の爲大に力を致し後ち信用を受け同業組合の會計に擧げらるる年三十七性質篤實濃厚技術亦巧みにして頗る盛況なり

◎同業者南里甚太郎君……君は本縣佐世保市榮町十二番戸に住す性質直にして快活十數年以前より同業に従事せしが數年前同業副總代となり同業者の爲め盡す處頗る大にして信用あり年三十二

◎同業者岡本辰次郎君……君は明治六年佐賀縣小城郡上砥川村に生る性質敏にして義侠心あり若年にして各地に遊び三十一年五月佐世保市に來り同業を営み相生町四十一番地に住す君は客年同業組合の鑑定役となり大に同業者の公益を謀り居れりと云ふ君が店前常に群客あるは以て同店の繁盛と君が熱心營業の功果を見るに足る且つ君が義心あるを知り各地より當地に同業の目的を以て來るものは先づ君が店に來る君能く之を助け之を養ひ且つ教育して各店に配置す其好意實に感すべきものあり

◎同業者吉田駒太郎君……君は佐世保市松浦町千九十九番戸に住し同業を営む年二十九業務熱心

にして昨今大に業務の擴張を謀れり性篤實大に信用あり

◎同業者千速卯二君

君年三十佐賀縣神時郡城田村に生る數年前佐世保市松浦町海軍橋通りに移住同業を開き熱心に業務に従事す君正直篤行あるが爲め人之を信す

◎同業者橋本次吉君

君は佐賀郡古瀬村に生る今を去る十年以前當市上京町四ツ角に住し同業を営む技に長し熱誠に其職に従事す性温順にして信用あり年三十九

◎同業者香田徳吉君

君は當市榮町四ツ角に住む年二十五尤も業務に勤勉衛生に注意す性活潑公善心に富む頗る信頼を受く

◎同業者一番ヶ瀬與市君

君は佐賀縣金立村に生る年二十一數年前佐世保市福田四十一番戸に轉住し大に業を營み技巧は同業者組合の鑑定役となり頗る信用あり性質短氣なりと雖正直而かも頗る敏腕家とす

◎同業者吉原文吉君

君は佐賀縣西松浦郡伊万里町五百十八番地に生る數年前當市八幡町學校前に移住し開業す顧客頗る多く客に對する親切丁寧性温厚にして同業者中屈指の人物なり

◎同業者鶴出愛太郎君

君は佐賀縣小城郡春田村に生る長する及び同業に志し今日に至る現下小佐世保派出所入口に移住し熱心に業務を執り客に對する親切而

かも衛生に注意す君性快活にして義俠は富む是れ亦同業者中屈指の人

◎同業者竹尾倉太君

君は大分縣大野郡南野津村前河津に生る長する及びんで各地に遊歴し明治三十五年三月當地に來住し天満町いろは屋側に開店盛んは斯業を勵む客に對する懇切丁寧にして頗る花客の愛顧を得同業者間も重んぜられ千客

萬來盛なり君年二十三

◎周易者

世は次第に僥倖となりて道德澆然として地を掃ひ輓近賊易卜者の輩各所に徘徊し安りよ吉凶禍福を説き以て米錢を貧ぼり病者に對しては死靈生怨の

災害を告げ或は妖魅の蟲毒を託し神佛の祟咎なりと稱して甚しきは藥を與へ醫業

を妨害し疑惑の途は迷はしめ窮苦乃渦に投入せしめ社會に害毒を流すもの多し當

地は於ても此等不正の輩出沒徘徊するを見る豈警戒せざるべけんや

◎周易師梶川彌平君

君は弘化三年三月廣島縣加茂郡白市に生る成年及び周易を學び大に得る處ありて各地を漫遊し後ち長崎に至り周易を以て業とする事十

數年二十八年頃當地に移轉し熱心は斯道に従事せしに相傳へて依頼者多し目下周

易を學び大に得る處ありて各地を漫遊し後ち長崎に至り周易を以て業とする事十

數年二十八年頃當地に移轉し熱心は斯道に従事せしに相傳へて依頼者多し目下周

易を學び大に得る處ありて各地を漫遊し後ち長崎に至り周易を以て業とする事十

數年二十八年頃當地に移轉し熱心は斯道に従事せしに相傳へて依頼者多し目下周

易を學び大に得る處ありて各地を漫遊し後ち長崎に至り周易を以て業とする事十

數年二十八年頃當地に移轉し熱心は斯道に従事せしに相傳へて依頼者多し目下周

易占筮の傍ら實業に熱心し居ると云ふ

百四二

◎周易師土居龍山君……君は豫州松山の藩士幼よして易を好む十九歳よして松山武知五男よ學び大よ曉る處あり二十二歳家を出づ爾來十數年易業よ從ふ過般佐世保よ來り島瀬町よ卜居し占筮を開き明理館と號し頗る隆盛を極む

◎清潮館……佐世保停車場の傍らよ結構佳麗の高樓あり清潮館と云ふ是れ潮湯浴場にして客年秋深堀彦太郎氏當地よ潮湯の必要を感じ自費を投して福岡、廣島等の地に赴き潮湯乃實況を調査し來り之を當市の有志者に謀り賛同を得以て本年初め新築落成せるもろ也編者數次此處に遊ぶ高壯乃樓清麗の室春に宜しく夏も宜しく秋冬の候尤も宜し一たび樓上よ上らんか春は風穩よして雲雀飛揚晴空よ吟し後峰の松は綠に柏は蒼く前は一面海にして幾多の樓艦船艦相銜む乃狀縱陣か將た横陣か煙突煙り長閑にして水雷艇或は汽艇の駛走する宛がら白鷗の波間に戯る、よ譬ふへし絶景いはん方なし夏は綠樹鬱蒼として涼風梢を動かし爽快の風色幽奥の妙境なり秋よ至れば金風桐葉を吹き潮流の洋々は翠松蒼樹と相映して彩霞尙一層

を添ふ何んそ好景なる冬は五寒凜々として肌に沁るの候峨々たる巒峰巒々として銀裳を着るの時此樂境に遊び潮湯よ浴し以て体軀を養ふ其樂如何ぞや浴場は之を三等よ分ち一浴千金の價値あり待遇懇切茶菓を求むるもの酒盃を呼ふもの皆其欲する處に従ひ便宜至れり盡せり侍女數名何れも口も八町手も八町客をして少も倦怠なからしむ眞よ無上の樂境衛生の親玉たり編者如きの田舎漢は喜び極りて手の舞ひ足の踏む處を知らず館主深堀彦太郎氏は性機敏よして事業熱心の聞へありて屈指の人物たり左に其自作よ係る清潮館四季の歌を掲げ讀者乃一祭よ供す

春は遙よ打霞む、金毘羅山や愛宕山、小島の内は一面よ、舳と艦と連て、山かこまがふ軍艦の、煙り長閑に立昇り、遠近見ゆる眞帆片帆、水雷艇やバツテラ、胡蝶の飛ぶが如くなり、夏は一入涼しさよ、心も清き白南風よ、前は一面艦隊や、商船漁船よ燈火の、幾百千の數知れず、秋は氣も澄み空高く、福石山の鐘の音よ、庭の木も葉もかつ散て、最ごごさやく澄む月乃、影は金波や銀の球、垣根よすたく鈴虫の、聲振立る面白さ、冬は木の葉も散り果て、日宇と梢を吹鳴らす、風に降來る雪嵐し浪は怒りて白馬乃、暴る、か如く見ゆるなり、早一面に銀世界、誰か結びしか白妙の、臺に珠乃庵の浦、實よ面白き眺望めかな

百四三

◎料理屋松福亭 佐世保市京町郵便取次所の筋向に一旗亭あり主人を納富佐一
郎と云ひ業務繁榮なり君は佐賀縣下よ生れ頗る信用あり過般料理屋組合(第三部)
の組織されんとするや君其副取締に撰擧され今又一般の輿望を擔ふて取締に撰擧
せらる君の詳細事歴は後編に掲載すべし

◎旅館山本逸太郎君 君は佐世保土着の人天満町幸行橋側ま在り家世々酒造家を
以て名あり鎮守府開廳の當時より旅館を開きたりしが家屋麗潔佐世保川ま濱し空
氣亦清淨海陸軍將校紳士紳商の宿泊多く佐世保屈指の旅館とす君性温厚篤實よし
て頗る信用あり君は村制の當時村會議員ま推撰せられ村治の刷新ま全力を注きた
る人詳細の事歴は後編ま掲げん



佐世保軍港規則

第一條 佐世保軍港内の海面は別圖の如く之を二區に分ち赤線以内を第一區と稱し第一區以外黒線以内を第二區と稱す

(圖面畧す)

但軍港區域は明治三十年九月一日以後頒布の關係圖に據るべし

第二條 軍港内へ入港せんとする艦船は軍港外三海里以外の所より投錨の地點まで各自の艦船各符字信號旗を掲揚すべし

第三條 第二區に於ては航路の妨げならざる限りは艦船自由へ碇泊することを得

第四條 第一區は帝國海軍艦船の外鎮守府司令長官の許可なくして進入することと禁す

第五條 第一區に進入する艦船は錨泊緊留お關しては十五噸以下の舟艇を除くの外總て知港事の指示に従ふべし但風波避難の際おは知港事の指示を待たず適意の錨地お就くことと得

第六條 鎮守府司令長官は必要なる場合には艦船お錨地の轉換を命し或は退去を命することあるべし

第七條 凡て艦船は爆發藥火藥炸藥彈其の他危険物と積載せし儘第一區内の棧橋及陸地に接して緊留し又は火藥庫と距る百三十間以内へ碇泊することと禁す但鎮守府司令長官お於て無害と認定するものは此の限にあらず

第八條 小蒸氣船又は焚火したる舢舨其の他總て之に似類の火氣と有するものは火藥庫と距る三十間以内へ接近することと禁す

軍港境域内の山林お於ては濫りお焚火すべからず

第九條 第一區内於ては禮砲號報及鎮守府司令長官の許可を得たるもの、外砲銃水雷其他爆發物と發
火することと禁す

軍港域内の陸地於ては濫り發砲すべからず

第十條 第一區於ては物品灰燼砂石塵芥等と遺棄することと禁す艦船於て遺棄物ありて其の用に供す
る船隻と要するときは之を知港事ヲ請求すべし但第二區と雖も有害と認むる場所には以上の物品等と
遺棄することと禁し臨時其の場所ヲ指示することあるべし

第十一條 第一區内の海岸及同區内に注入する河流は物品灰燼砂石塵芥等と遺棄すべからず

第十二條 第一區於ては鎮守府司令長官の許可を得るべからざれば漁業と爲すべからず

第十三條 傳染病者ある船舶は第一區内ヲ進入することと禁す

第十四條 軍港内に於て左を掲ぐる工事と起し又は營業と爲さんとする者あるときは地方長官は鎮守府司
令長官ヲ協議し許可すべし

一、棧橋と架設し波止場と築造する事

二、海面と埋立海岸と掘鑿し又は石垣と築造する事

三、道路溝渠と開通し又は橋梁と架設する事

四、山岡と掘鑿する事

五、森林と伐採する事

六、軍港に發着すべき航海の營業に關する事

七、浮標又は立標と設置する事

第十五條 鎮守府司令長官の承認を得ずして軍港内の測量攝影製圖と爲し又は地理案内等の圖書と出版す
ることと禁す

第十六條 地方長官は軍港内衛生の事お關しては地方吏員として鎮守府軍醫長お協議せしむべし

第十七條 鎮守府司令長官は海軍官廳構内其他軍港取締上必要の場所には人民の通行に制限と置くこと
を得

第十八條 軍港内の取締に關する細則は鎮守府司令長官之と定む

參考……軍港要規則違犯者處分

明治廿三年法律第二號に依り海軍大臣定むる處の軍港要港規則に違ひたる者拾一日以上一年以下の重
禁錮又は貳圓以上五拾圓以下の罰金お處す

●宿屋取締規則

明治廿一年四月
縣令第五四號

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃屋ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ警察分署へ願出許可ヲ受クベシ但
其事項ヲ變更セントスルトキハ又同シ

營業ノ種類

建物坪數間取等ヲ詳記シタル圖面

第三條(削 除)

第四條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ免許ヲ與ヘス

一、未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二、白痴瘋癲者

三、強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シ又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

四、風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認ムル者

第五條 營業者ニシテ前條第一第二第三項ニ觸レタルトキハ免許ノ効ヲ失フモノトス

第六條 營業者ハ一戸内ニ於テ貸座敷營業ヲ兼業スルコトヲ許サズ

第七條 轉居改氏名又ハ廢業シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第八條 雇人ヲ使用スルトキハ其族籍氏名年齢ヲ詳記シ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ其解傭

シタルトキ亦同シ

第九條ヨリ第十條削除

第十一條 宿引ヲ出シ客ヲ誘引スヘカラス 但得意ノ客ヲ送迎スルハ此限ニアラス

第十二條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ

第十三條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ其室内ニ入ラシムヘカラス

第十四條 宿泊人疾病ニ罹ルトハ醫藥食物等其求ニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十五條 宿泊人變死傷ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署巡査派出所駐在所若ク

ハ巡行ノ巡査ニ届出ヘシ

第十六條 宿泊料ノ抵償トシテ私楨ニ宿泊人ノ所有品ヲ押収又ハ受領スヘカラス

第十七條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ食物ヲ供スヘカラス

第十八條 宿泊料ハ豫メ其額ヲ定メ所轄警察署又ハ警察分署ニ届出ヘシ

第十九條(削 除)

第二十條(削除)第二十一條(同上)第二十二條(同上)第二十三條(同上)第二十四條(同上)第二十五條(同上)

第二章

第二十六條(削 除)

第二十七條 客室ハ充分ニ光線ヲ取り且ツ空氣ヲ流通セシムヘシ

第二十八條 客室毎ニ堅固ナル籠前附ノ押入戸柵籠前又ハ櫃類ヲ設クヘシ

但シ客室出入口扉ニ堅固ナル

第二十九條 二階以上ノ客室拾五坪以上アルモノハ巾三尺以上ノ階子二個以上ヲ設クヘシ

但構造上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第三十條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハザル處ニ設ケ尿管ヲ受容スヘキ部分ハ石敷キ陶器等ヲ以テ構造スヘシ

但結構上特ニ認可ヲ得タルモノハ此ノ限リニアラス

第三十一條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第三拾二條(削除)

第三拾三條 客室ノ番號ハ其出入口ニ宿泊料ハ店頭又ハ客ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第三拾四條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絶スヘカラス

第三拾五條 營業者ハ左ノ甲號書式ニ依リ止宿帳ヲ調製シ宿泊人着替毎ニ之ヲ記入シ毎日午前拾二時迄ニ

其以後ノ分ハ翌日午前九時迄ニ乙丙號書式ニ依リ所轄警察署分署又ハ巡査派出所駐在所アラザル村落

ハ甲號止宿帳及乙丙號用ニ其職名氏名ノミヲ記スモ妨ケナシ

(書式略)

第三章 下宿屋

第三拾六條 下宿屋トハ一ヶ月ノ賄料賍敷料等ヲ約定シ寄寓セシムルモノヲ云フ

第三拾七條(削除)

第三拾八條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二拾四時間内ニ其ノ下宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍住所職業氏

名年齢並ニ下宿屋ノ事山ヲ記シタル届書ヲ所轄警察署分署巡査駐在所ニ差出スベシ但警察署分署巡査

駐在所アラザル村落ハ三日以内ニ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第三拾九條 第二拾七條第二拾八條第二拾九條第三拾一條ハ下宿屋ニモ亦之ヲ適用ス

第四拾條 下宿屋營業者ハ下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル左ノ木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲クヘシ

縦五寸

何縣何郡(何町)何番地華土族平民

寄宿氏名

四三三

第四拾一條 下宿人他へ轉居シ又ハ五日以上外泊シテ其所在不分明ナルトキハ三日以内ニ所轄警察分署巡査

駐在所ニ届出スヘシ

第四拾二條(削除)

第四拾三條 宿泊人滞在中外泊シタルハ其旨ヲ名簿ニ記シ置クヘシ

第四拾四條 宿泊人届出方ハ第三拾五條ノ例ニ從フベシ

第五章 罰則

第四拾五條 本則第二條第拾六條第拾七條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以内ノ拘留ニ處シ又ハ二拾錢

以上一圓二拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四拾六條 本則第拾五條第三拾四條第三拾五條第三拾八條第四拾四條ニ違背シタルモノハ一日ノ拘留ニ

處シ又ハ拾錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

第四拾七條 本則第七條第八條第拾一條第拾三條第拾四條第拾四條第拾四條第拾四條第拾四條第拾四條第拾四條

ノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

本則第九條第二拾七條第二拾八條第二拾九條第三拾一條第三拾三條ニ違背シ官署ノ督促ニ從

ハサルモノ又全シ

◎料理屋飲食店營業取締規則

第一條 料理屋飲食店營業ヲ爲サントスルモノハ其業名及族籍身分生年月日ヲ記シ(未丁年者ノ願書ニハ)

所轄警察官署ニ出願許可ヲ受クヘシ(後見人ノ連署ヲ要ス)

第二條 左ニ掲クタル者ハ料理屋飲食店營業ヲ許サス 後見人ニシテ第三項ニ觸ルル者亦同シ

營業者ニシテ左ノ事項ニ觸レ又ハ營業者ノ後見人ニシテ第三項ニ觸ル、トキハ其許可ヲ取消スヘシ
一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二 白痴又ハ瘋癲者

三 風俗ヲ紊ルト認ムヘキ証跡アル者

第三條 料理屋飲食店營業者ニシテ同家屋ニ於テ宿屋ヲ兼業セントスルモノハ開業ニ關スル規定ノ手續ヲ爲スト同時ニ各業ニ使用スル家屋ノ間取ヲ區畫シ圖ヲ添ヘ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第四條 料理屋〔代座敷ニテ料理屋ヲ兼業スルモノヲ除ク〕飲食店ニシテ宿屋ヲ兼業セサルモノ及兼業スルモノト雖モ旅宿用ノ客室外ニ來客ヲ宿泊セシムヘカラス、但不得止事故ノ爲メ宿泊セシムルトキハ其旨警察官署又ハ巡査派出所若クハ駐在巡査ニ届出ヘシ

第五條 來客ニ對シ其需メナキ飲食物ヲ供シ又ハ不當ノ代價ヲ請求スヘカラス

第六條 營業者ハ所轄警察官署又ハ駐在巡査ノ承認ヲ得ス來客ヨリ酒肴料ノ抵償トシテ衣類物品ヲ領置スヘカラス

第七條 雇人ヲ雇入レ又ハ解雇シタルトキハ其族籍身分氏名生年月日及使役ノ種別ヲ記シニ拾四時間内ニ所轄警察官署又ハ駐在巡査ニ届出ヘシ

第八條 營業者ハ婦女ヲシテ故ラニ公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ粉粧ヲ爲サシメ又ハ店頭ニ座列セシムヘカラス

第九條 夜間拾二時ヲ過キ歌舞音曲其他喧噪セシムヘカラス但祭典祝事等ノ爲メ來客ニ於テ特ニ許可ヲ得タル場合ハ此限リニ在ラス

第十條 料理屋飲食店ハ警察官吏ニ於テ臨檢スルコトアルヘシ

第十條 營業者又ハ後見人ノ轉住改氏名若ハ廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十一條 本則第一條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條ニ違背シタル者ハ刑法ニ四

百二十拾七條第八項ニ依リ處分ス

附 則

一 從來ノ營業者ハ本則實施ノ日ヨリ拾日以内ニ本則第一條及第七條ノ手續ヲ爲スヘシ

一 從來ノ營業者ニシテ宿屋兼業ノモノハ前項ノ手續ヲ爲スト同時ニ本則第三條未段ノ手續ヲ爲スヘシ

○ 參考 ● 料理屋飲食店營業取締規則取扱心得

第一條 規則第四條三項ニ抵觸ノ有無ヲ判斷スルハ最モ慎重ヲ加ヘ許可ヲ與ヘス又ハ己ニ許可シタルモノヲ取消スニハ事實ノ証跡顯然タルモノニ限ルヘシ

第二條 規則第三條ノ届出ヲ受ケタルルハ實地ヲ取調兩者ノ間判然區畫ヲ立テシメ風俗取締上差支ナキヲ認メ許可スヘシ

第三條 規則第四條但書ノ届出ニ對シテハ模様ニ依リ實地臨檢取調ヲ要ス

第四條 規則第七條ニ依リ雇人届出ノ届出ヲ爲シタルトキハ警察署長又ハ分署長ハ概ネ左ノ事項ヲ調査シ

風俗取締上不都合ト認ムルモノハ雇主ヲ諭シテ雇入レシメサル様取計フヘシ

一 本人承諾ノ有無及身元ノ如何

二 雇人婦女ナルトキハ親屬ヨリノ故障ノ有無

三 風俗上ニ關スル前科ノ有無

第五條 駐在巡査ニ於テ規則第七條ニ依リ届書ヲ受ケタルトキハ前條各項ノ事項ニ就キ知り得タル事實ヲ詳記シ意見ヲ付シ速カニ本局警察署又ハ分署ニ送付セシメ警察署長又ハ分署長ハ前條ノ手續ニ依リ處

置スヘシ
 第六條 規則第八條辨別座列ノ場合ニ處置スルハ本條故ラハ文字ニ注意スヘシ偶々此所爲アルシモノ如
 キハ本條ノ制裁ヲ加ナレキモノアラズ
 第七條 規則第十條ニ依リ臨檢スル場合ハ成ヘク動作ヲ慎ミ來客ハ勿論家主等ニ對シテモ迷惑ヲ感セシメ
 るル様深ク注意スヘシ
 第八條 規則第四條但書ノ届出及第六條ノ證人ヲ乞ニハ口頭ヲ以テセシメ又之ヲ與フルモ口頭ヲ以テスル
 コトヲ得 第九條別紙雜形ハ略ス

佐世保驛發着時刻表

時間	車種	發着	着
午前 四時四拾五分	長崎行	同 七 時 東京行八代行	午前 五時五十二分 本線下リ着
同 八時二拾分	門司行八代行長崎行	同 八時〇六分 本線上リ着	同 八時〇六分 本線上リ着
同 拾時三拾五分	東京行八代行長崎行	同 九時二十一分 本線下リ着	同 九時二十一分 本線下リ着
午後 拾二時三拾五分	門司行八代行長崎行	同 拾二時四拾一分 本線上リ下リ着	同 拾二時四拾一分 本線上リ下リ着
同 拾二時〇八分	門司行八代行長崎行	同 拾二時三拾六分 本線上リ下リ着	同 拾二時三拾六分 本線上リ下リ着
同 三時五拾分	東京行八代行長崎行	同 三時拾一分 本線上リ下リ着	同 三時拾一分 本線上リ下リ着
同 五時四拾五分	博多行熊本行長崎行	同 五時〇六分 本線上リ下リ着	同 五時〇六分 本線上リ下リ着
同 八時二拾分	佐賀行長崎行	同 六時四拾六分 本線上リ下リ着	同 六時四拾六分 本線上リ下リ着
同 九時五拾五分	東京行	同 九時二拾一分 本線上リ下リ着	同 九時二拾一分 本線上リ下リ着
同 九時五拾五分	東京行	同 拾時五拾九分 本線上リ下リ着	同 拾時五拾九分 本線上リ下リ着

◎小生儀今般左記ノ處へ開業諸
 科ノ診療ニ從事ス

宅診 午前八時ヨリ
 午後一時マデ

往診 午後二時ヨリ

入院隨時之ヲ諾ス

佐世保市相生町五十二番地
 元市役所通
 博仁醫院主
 醫 神宮司砲助

廣告

かど橋 關西江戸前元祖

名 東京 大和田分店
 麻布

どせ字鍋 佐世保天満町
 警察署通リ

白 佐世保停車場前
 打 紀松

大和田支店
 やぶ

廣 告

內 外 科
小 兒 科
— 宅 診 午前
往 診 午後

入 院 予 諾 ス

佐世保市八幡町女學校前

吉 住 醫 院

○阿波煙草の部

●國 廣 ●東 惣

●真 鶴 ●鶴の松

○讚岐煙草の部

●圓の益 ●八重櫻

●國のひかり

○其他各種煙草

佐世保市上京町四番地

阿野久太郎

御 旅 館

○客室清麗

○食品精良

○待遇可憐

佐世保市幸行橋角

山本旅館

廣告

◎愛國生命保險

株式會社出張所

佐世保市名切免
登り中程須古構内

川村九郎吉

廣告

▲建具指物所

佐世保市相生町九番地

米田吉松

廣告

◎靴製造

佐世保市松浦町
四番地第貳号

松本清次郎

各國刺卷煙草

卸小賣

○其外掛煙草一切大安賣○並和洋酒大販賣

佐世保市
島瀬町

福

安福龔三郎

廣告

內外科
花柳病科
診療

○隨時入院ヲ諾ス

佐世保市高砂町九番地警察北側
源泉堂醫院主

醫學得業士 朝山勘一

廣告

產婦人科
內科
專門

佐世保市八幡町
四十九番地

醫 吉田宗敬

廣告

◎廻酒業

◎取扱可嘔◎敏捷確實

各汽船會社ト連絡ヲ
通シ最モ便宜ヲ計ル

佐世保市松浦町

鶴谷回酒店

廣告

書畫表具

確實迅速

佐世保市上町

岩坪鳳文堂

廣告

九鐵貨物取扱

宮原運輸店

御旅館

佐世保市濱田町

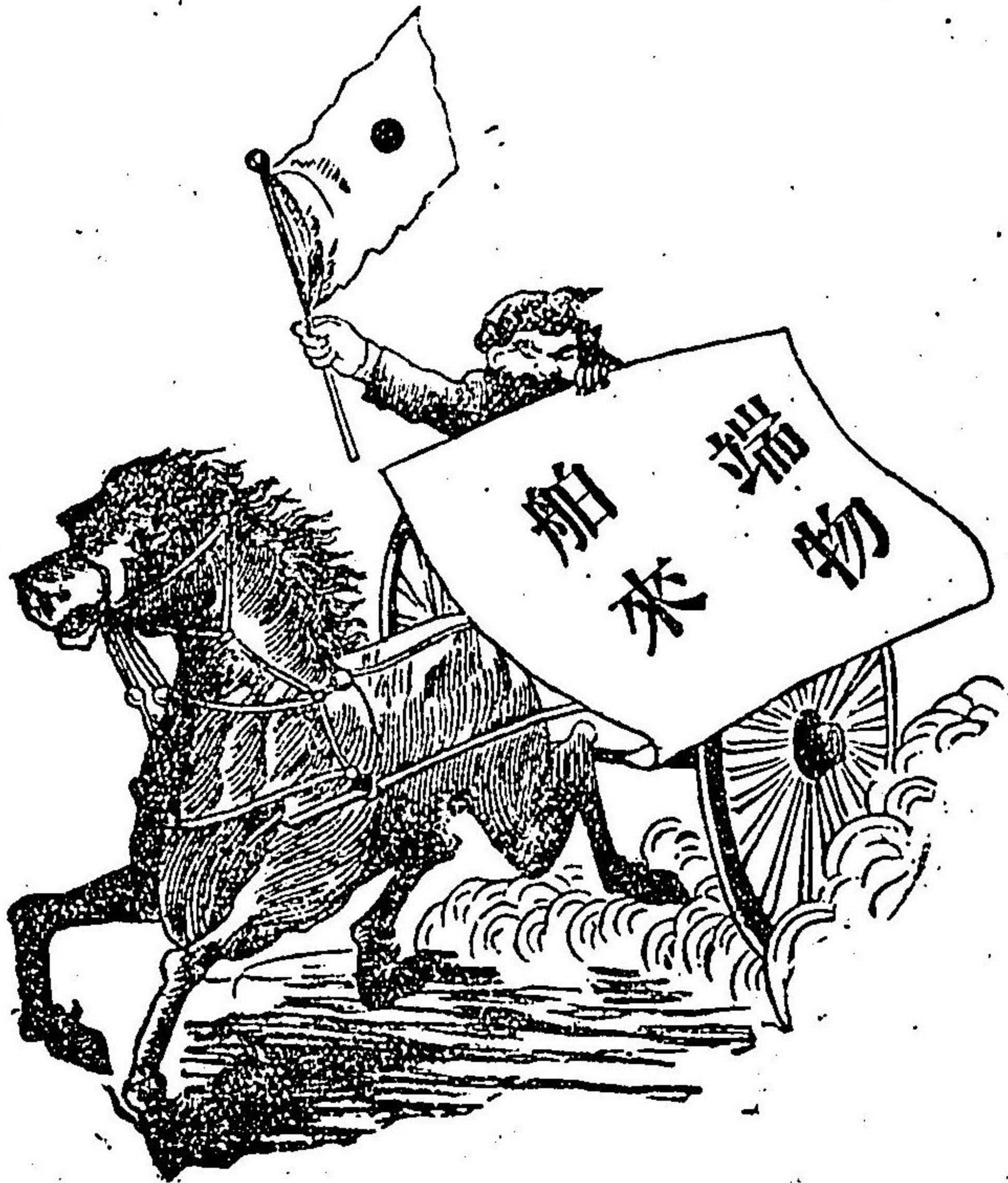
岩見屋

◎浦汐更紗

◎毛斯友仙

◎太物類・販賣

◎兼小學校教科書



分

佐世保市
常盤屋

森田源三郎

大 勉 強

- ◎ 鼈甲金銀細工
- ◎ 琥珀珊瑚象牙
- ◎ 應御注文
- ◎ 精巧無比



佐世保市相生町横通

秋吉商店

廣告

請式屋

◎ 右の外萬仲買可仕候

佐世保市湊町二十二番地一號
海岸通下魚市場西角 紀伊國事

十一

向井定七

米穀・和洋酒・砂糖
類・煙草・罐詰類
穀類・其他日用品
一切

廣告

內外科
梅毒科
產科

診察時間

午前宅診

午後往診

佐世保市折橋免字上宮田町初瀬宅前

回生醫院主 高洲潮

和漢洋藥品

全國有名賣藥

○洋酒 ○醬具染粉類 ○化粧品

佐世保市相生町九番地

安生堂 大串藥館